

財団法人暹羅協會々報

第八號

昭和十二年九月

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

昭和十二年九月

法財人團
暹羅協會々報 第八號

法財人團
暹羅協會

暹羅協會々報第八號 目次

口 繪 寫 真

一、暹羅協會主催ブリンセス並ブリ恩ス一行歓迎晩餐會

二、(上、盤谷市外、アユチャヤ舊都趾に建設計畫中の山田長政記念碑模型
(下、大阪商船會社盤谷航路新造船・盤谷丸)

支那事變關係電報

○在暹村井公使發外務大臣宛電報(昭和十二年八月三十一日着電).....

○在新嘉坡郡司總領事發外務大臣宛電報(昭和十二年八月三十一日着電).....

○在暹村井公使發外務大臣宛電報(昭和十二年九月四日着電).....

新聞論調報告欄

○增大する暹羅の苦難(六月一日、ストレイト・タイムス紙所載).....

○隣國の忠告(六月十日、盤谷・タイムス紙所載).....

○暹羅、英國、佛國及び日本(六月十日、ピナン・ガゼット紙所載).....

○日暹親善に對する英佛の關心と對暹新條約を繞る英佛の動向(七月二十日・新嘉坡).....

- フリー・プレス紙所載) 一
資料 案欄 (案題文の日本語訳文) 八

- 暹羅國地券下附法の公布 八
 ○暹羅國外國人登錄法の公布 四
 ○盤谷築港計畫と湄南河口淺洲の修築 七
 ○ 一〇

雑苑

- 暹羅留學生と日本語の問題 日本大學講師 野口謹次郎 三四
 ○暹羅の變遷 サー・ロバート・ホーランド 四

雜報欄

- 本協會近衛會長より日暹協會總裁暹羅國攝政首座アライツト
 殿下へ銀製貢入獻上 一五
 ○本協會々長近衛公爵組閣 一五
 ○近衛内閣成立に對する日暹協會の祝詞 一九
 ○暹羅攝政府及内閣總辭職並に其復職に關する經緯 一〇

- 暹羅國政府政黨結成不許可を決定 一四
 ○盤谷に於ける華僑の日貨排斥 一四
 ○暹羅米の輸出 (六月九日、盤谷・タイムス紙所載) 一五
 ○山田長政記念碑建設事業 一五
 ○靜岡文化協會主催山田長政顯彰展覽會 一五
 ○本協會に於ける暹羅問題研究に關する大學生座談會 一九
 ○訪日暹羅觀光團一行の歸暹 (五月二十日、ネーション紙所載) 一九
 ○訪暹日本音樂舞踊團歸朝歡迎會 一九
 ○訪暹日本音樂舞踊團歸朝演奏會 一九
 ○暹羅協會主催駐日暹羅公使村井、石射新舊暹羅公使歡送迎晚餐會 一九
 ○本協會主催暹羅國陸軍留日將校學生送別晚宴會 一九
 ○盤谷「シチースター」紙社長「イサラクン」氏歡迎宴 一九
 ○少年赤十字會議並世界教育會議暹羅代表歡迎會 一九
 ○暹羅國海軍練習艦及警備艇竣工 一九

○暹羅國海軍艦艇迴航員來朝 八二

○本協會より暹羅國海軍迴航員として來朝の海軍將校へ記念品贈與 八三

○暹羅國海軍鋼製運送船起工式 八三

○暹羅國海軍砲艦アユーデヤ進水式 八四

○暹羅國海軍潛水艦竣工 八四

○訪暹日本少年團聯盟團員歸朝歡迎會 八五

○訪暹日本少年團指揮者滯在中の視察日記 八六

○暹羅國へ柔道師範派遣 八七

○駐日暹羅公使主催訪暹日本少年團並訪暹音樂舞蹈團歸朝歡迎園遊會 八八

○暹羅少年團指揮者滯在中の視察日記 八九

○大阪商船新造船盤谷航路就航 一〇〇

○暹羅政府より坂本函館市長に勳章贈與 一〇一

○新任村井駐公使着盤 一〇二

○在暹公使館書記官更迭 一〇三

○新駐暹米國公使横濱寄港 一〇四

- 最近訪日の暹羅人士 一〇五
- 在京暹羅人有志の皇軍慰問金獻納 一〇六
- 會員動靜 一〇七
- 會員入會者退會者 一〇八
- 寄贈圖書 一〇九
- 暹羅關係新刊書籍 一〇一

附 錄

○日本印象記（盤谷タイムス掲載譯） ベストンヂー述

○國會開幕式典禮（開幕式典禮の儀式）

○日本書院（新設のものと同様）

○國會開幕式典禮	104
○參議院開幕式典禮	101
○會員入會式典禮	101
○會員退籍	100
○在京國人會士の皇室御用金贈呈	100
○最優秀賞	100

等

等

○國會開幕式典禮

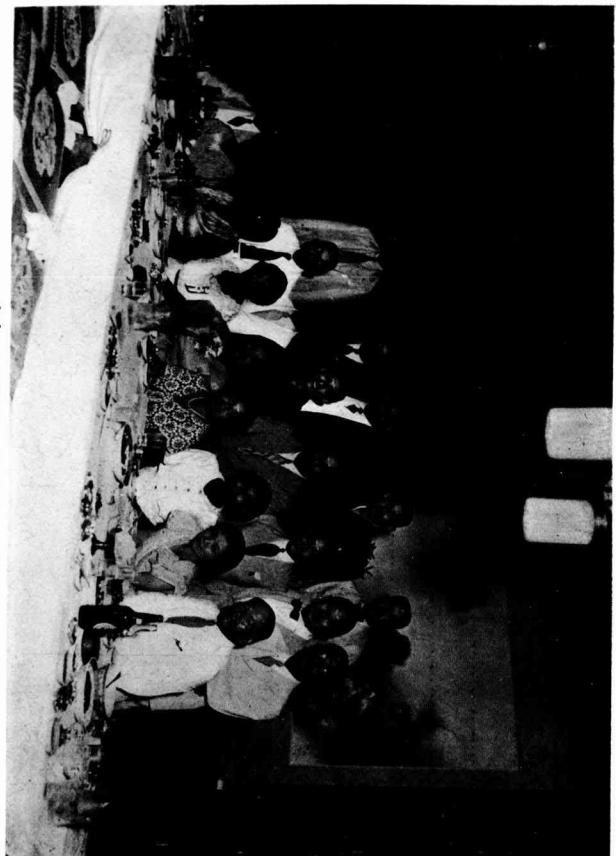
○參議院開幕式典禮

○會員入會式典禮

○會員退籍

○在京國人會士の皇室御用金贈呈

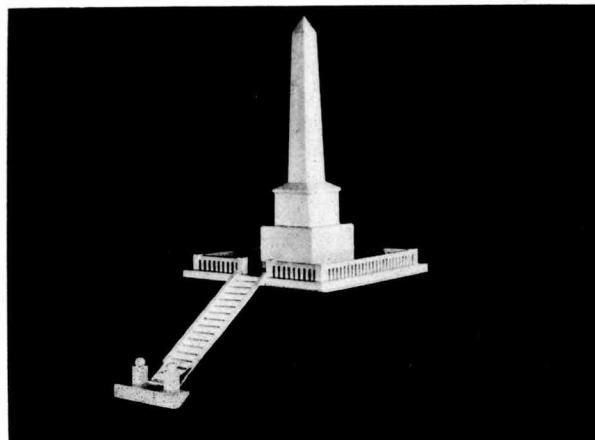
○最優秀賞



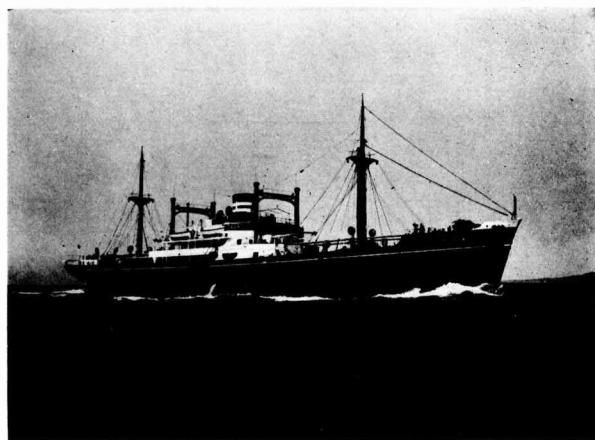
(前列右より) 山口留學・生監督・矢田清子・妻・ビクト夫人・アーヴィング・オーラン
(中列右より) ブラモント・アーヴィング・セスビティス・アーヴィング・アーヴィング・アーヴィング
(後列右より) 遠山主事・荒木十畠兵・北島理事・宮原三井過翼室主任・ヨウタ・公使館附武官

(國會開幕式典禮の儀式) 會餐晚迎歡行—スンリブ並スセンリブ惟主會協羅退

型模碑記政長田山の中畫計設建に趾都舊「ヤチュア」外市谷盤



丸谷盤・船造新路航谷盤社會船商阪大



支那事變關係電報 第八號

○八月三十一日着村井駐暹公使發廣田外務大臣宛電報左の如し

日支事變發生以來當地諸新聞ハ外國電報ヲ細大洩ラサス掲載シ大ナル關心ヲ示シ居ルモ事變ニ關シ論評ヲ試ミルモノ少ク十四日ノ「タイムス」カ日支間ノ紛爭ハ兩國ニ對シ多大ノ犠牲ヲ與フル以外ニ何物モ齎ササルヘシト論シ十八日ノ「クロニクル」ハ戰爭ハ破壞ノミヲ齎スモノナレハ日支兩國カ此ノ點ヲ一日モ早ク認識ゼンコトヲ希望ストノ趣旨ヲ論シタルコトカ多少一般ノ注意ヲ惹キタルニ過キサルカ（暹字紙ノ論調ニハ特記スヘキモノナシ）二十八日ノ「クロニクル」紙ハ「更ニ日支紛争ト暹羅ニ及ホス影響」ト題シ上海中立化ノ提議カ日本ニ依リ拒否セラレタル矢先駐支英國大使ノ重傷事件突發セルハ世界ニ一層ノ不安ヲ與ヘタリ殊ニ日支兩國ト密接ノ經濟關係ニアル暹羅ニ於テハ今日ノ東亞ノ情勢ハ之ヲ等閑視シ得サル時代ニテ諸物價カ既ニ約二割ノ昂騰ヲ示シタル今日食料品ノ不足等ニ關スル歐洲大戰當時ノ苦キ経験ヲ參照シ政府カ迅速機宜ノ措置ヲ講セんコトヲ希望スト論シ今次事變ヨリ蒙ルヘキ國民經濟生活ノ壓迫ニ關シ警告ヲ與ヘタルコトハ強ク一般ノ注意ヲ惹キタリ。欽賜

○支那事變後最近（八月三十一日）着新嘉坡郡司總領事發廣田

外務大臣宛電報左の如し

一、三十一日日本飛行隊ハ二回ニ亘リ廣東空襲ヲナシタル爲廣東市民ハ大混亂ニ陥リタルカ日本飛行機二機ハ擊墜セラレタリトノ廣東發「ルーカー」報道セラレ「ブレシデント・フーバー號」爆撃問題ハ寧ロ閉却セラレ居ルカ如キ状態ナル處當方面支那人カ多ク南支那出身ノ關係モ有リ各掛日紙ハ本問題ヲ誇大ニ報道シテ「センセイション」ヲ起スノ態度ニ出セ居レリ。

二、支那外交部ヨリ近代戰爭ハ莫大ナル經費ヲ要スルニ鑑ミ在外支那人モ責任ノ一端ヲ負擔スヘキコト、戰勝戰敗ノ法律ニ違反セサル限り經濟掛日貨ヲ行フコト等各在外支那人ニ通告シ來レル趣報道セラル。

○九月四日着村井駐暹公使發廣田外務大臣宛電報左の如し

三日ノ「クロニクル」ハ極東ノ悲劇ト題シ蔣介石ハ諸外國ノ干涉ヲ要請セセル由ナルモ列國ハ西班牙ノ動亂ノ例ニ於テ見ルカ如ク寧ロ不干涉主義ヲ執ルヘク又支那ハ國際聯盟ニ訴へ出テタルモ聯盟ノ無力ハ滿洲「アビシニア」兩事件ノ際暴露セラレタル通りナルヲ以テ此ノ訴へモ結局傷ケル者ノ不面目ノ上塗ニ終ルハ矢張リ兩當事者自ラ解決セサルヘカラサルヘキ處事件擴大ノ傾向ハ東亞ノ悲劇ニシテ世界ハ之ニ依リ影響ヲ蒙リ乍ラモ此ノ悲劇ノ結果ヲ唯々痛心ヲ以テ俟チツアルノ狀態ナリトノ趣旨ノ社説ヲ掲げ同日ノ「タイムズ」モ其ノ社説懶ニ於テ無意義

ナル紛争ト題シ一九三二年ノ停戦協定ハ支那ヲシテ上海附近ニ駐兵セサルヘキヲ約セシメタルモ今回ノ衝突ハ防止シ得サリシハ遺憾ナリ日支間ノ紛争ハ兩國ニ對シテハ勿論列國ニ對シテモ大損害ヲ與フル以外何物モ齋ラササルヘシト論シタリ。

新聞論調

まへがき

暹羅と列強間の條約改訂を前にして、近代的國家へと躍進し來れる暹羅は國民的自覺と共に、治外法權の撤廃を要求してゐる。之に對して英國は同一利害の上に立つ佛國と共に暹羅に於ける既得權益を擁護せんとしてゐる。次の盤谷、新嘉坡、ビナンの英字新聞の記事は斯る利害を代表するものとして興味がある。特に近年の日暹親善關係の增大に伴つて、暹羅が特別の利益を日本に與へる事に反対してゐる最後の一文は注目に値ひする。

○増大する暹羅の苦難

(六月一日、ストレイト・タイムス紙所載)

外國列強、特に英國、佛國に對する猛烈な、屢々侮辱的でさへある攻撃が、一、三選字新聞の最近號の特徴となつてゐる。普通の狀態にあつても、強い復讐心を呼び起させる様な、非常に攻勢的な性質の記事や漫畫が、日常の出來事に連關して掲載されてゐる。而もこの事に對する抗議はなまぬるものであるから、暹羅の狀況は正當ではないのである。新政府はその發展の途上、甚しく困難な立場に置かれて居るから、吾人が今茲に言及してゐる出來事に關しては政府の當局者達に激怒より寧ろ同情を呼び起してゐる。排外的宣傳がもしも單に暹羅領土内にのみ止つて居るならば、別に大した弊害もないけれども、然し暹羅が主張して居る意見に反して、國外には暹羅語の英譯を爲し得るも

のがある、吾々は最も驚くべき宣言の譯文と、單純な子供に見る様な極端に好戦的な多くの漫畫をもつてゐる。吾々は暹羅及び暹羅人に對して或程度の知識も、暹羅國土及び暹羅人に對する可成の讚美の念も有してゐるので、この機に及んで之等翻譯及び漫畫の何れをも此所に掲載し様とはしない。吾々は寧ろ遙か新嘉坡に至る地方の非暹羅新聞に是等の記事が掲載されぬうちに、發表を停止する事を責任者に訴へるのである。この様な地方には復讐と云ふ自然の傾向を抑制するに充分な程度の、暹羅に對する同情や理解がないのであるから。斯る排外主義者の爆發の目的が何であらうとも、甚しい害を受けるものは他の何人でもない暹羅自身である。而も英暹條約の改訂が考慮されてゐる折柄、斯る事が開始し様とは特別不幸な事である。主なる犯人の一は、暹羅の軍部に廣汎に流布してゐる印刷物である。吾吾は盤谷に或る檢閑制度がある事を信じてゐるが、それは此の様な場合には格別無効なものである事を暴露してゐる。攻擊の背後の意圖は、陸・海・空軍の増大した大豫算を一般大衆に承認せしめ得る事にある。その目的は稱讃され得るものかも知れぬが、斯る許容し難い手段を以てしては、確かにその結果を正當なものとなし得ない。例へ、暹羅を粉碎せんとの意圖の下に英佛の間に陰謀がたくらまれてゐるとして、暹羅當局の計畫よりも尙十倍も強大な軍隊を以てしても、どうしてこの様な計劃を無効ならしめる事に成功し得るであらうか。若しも暹羅が苛酷な貪欲な敵國に圍まれたとしたら、暹羅の運命は此處に盡きるであらう。けれども暹羅の國境に敵國はない。暹羅の隣國は過去に於てもそうであつたし、又今後も暹羅の良き友邦たらん事を希望してゐる。そして此の友交の繼續は陸・海・空軍の何れよりも、暹羅王國の平和と進歩を保證する爲には、遙かに大きな價値があるのである。同盟國としての英國及び佛國と共にあつてこそ、暹羅は凡ゆる攻擊から安全なのである。けれども、若しも此の親善の主張が、終には凡ゆる同情を遠ざけ、如何なる形式の支持をも撤回するに至る様な侮辱を以て迎へられたとしたならば、永久に暹羅に對し

てなされるかも知れない、凡ゆる攻撃に對して暹羅の防衛の見透しは誠に危険なものであらう。吾々は、最近斯る罪を犯した出版者の或者を、内務大臣が懲戒に附した事を知つてゐる。そしてこの事件を報告した記事の中に、次の様な経過を生じたと云ふ報告を「ストレイト・タイムス」は受けた。「暹羅人を除いて暹羅國外では、暹字新聞は讀まれない。だから、この事は、もしも佛語又は其他の外國語で發表されたならば、直ちに引用され非難されるやうな記事を、暹字新聞では大いに發表され得る事となる。二、三暹字新聞の、或る寄稿家達はこの事實を氣付かず、防衛と云ふ事を不當に利用して來た。此の様にして、少なくとも、不誠實な記事が生ずるに至つたのである」斯る記事はこれを最後として、暹羅國外の暹羅人以外の何人にも知られてゐない、暹字新聞の論文の了見達ひを當然驅逐するであらう。吾々は「ストレイト・タイムス」に關する限り、何故今日、排外主義の典型的記事の引用を爲さなかつたか、何故この運動に對する、如何なる威嚇的な批評をもし様としなかつたかに就ては、既に説明をなした。吾々は斯る騒ぎは指導を誤つた愛國主義以上に有害なものにも、その原因があるとは信じ得ない。暹羅人は全く正當に、甚だ誇を持つてゐる種族であり、完全に正しい禮儀を守る事を熱望してゐるが、不幸にもその中の僅少のものは、疑惑の存在する原因のない所に疑惑を持つてゐる。その青年諸君は友交ある隣國の價値を沈思し、國交斷絶の危機を熟慮する事を望む。謠謡された國民が、自國に對してなされた誤つた非難の性質及びその重大性を、決して知る様な事はないだらうと考へなければなき様な方法で以て、自國民に對して他國民の名譽を毀損する事は暹羅人の性質の最高の傳統に反するものであると云ふ見解を持つ事を、吾々は暹羅人に切望するものである。

隣國の忠告

(六月十日、盤谷・タイムス紙所載)

先月十日に暹羅外務大臣が、暹字新聞の態度は列強との新條約締結の困難な事務を行ふに當つて、暹羅を有利に導くと云ふ事を考慮に入れないと述べた事は、十六日既報の如くである。新條約協定に際して或變更を要求してゐるのは勿論暹羅である。以上の事柄に對するルアン・プラジット氏の意見は我が新聞社に直ちに知られたけれどもそれ丈では暹字新聞の態度に何の著しい變更をも齎らしたとは云ひ得ない。それ故に五月十六日、内務大臣は暹字新聞の代表連が偶然やつて來た時に暹字新聞の中で排外的、好戦的性質を有する記事(及び漫畫)を掲載する傾向あるものに對して「當然受けるべき、而も時期遅れの懲戒」をなした。

昨日、五つの地方新聞——その中四つは暹羅語、一つは支那語——に對する處分が行はれたと云ふ事は既報の如くであるが、分つて居る限りに於ては、暹字新聞の場合は、排外的性質を有する如何なるものも發表を禁止すると云ふのであつた。兎に角、*Nation* や *Phew Liang* 新聞は、兵士と労働者間の或る紛議に關する論說の爲に緩和な檢閱を課せられる事になつたのである。

この後者の紛議は暹羅が思ひの儘に解決する事の出來る取るに足らぬ事件である。けれども排外運動に關する外務大臣並に内務大臣の意見は、木曜日、本紙に轉載したストレイト・タイムスの記事に依つてもつと手答へのあるものとされる事を吾々は希望し度い。その用語は極めて簡明である、それと同じ様に新嘉坡の新聞——ストレイト・タイムス——の主張は、事實暹羅で發表したものと英語で發表する事に依つて生ずる、復讐といふ自然的傾向に對して課

した抑制である事は明白である。注目すべき幾多の記事の平易な翻譯並びに幾つかの漫畫の轉載は實際に暹羅に對して有害なるものである。そして斯かる困難なる狀態は老國が其舊套を脱して近代的發展の道程に上の際に遭遇する増大する苦難である事を、暹羅國民並に政府が明白に了解するに至らんことを吾々は信じ度い。ストレイト・タイムスが指摘してゐる様にこの紛糾の原因は單に指導を誤つた愛國主義より出でたに過ぎない。ストレイト・タイムスは更に暹羅語は秘密な言葉であるから外國人に関して何を云つても安全であると云ふ謬想を一掃したのは暹羅に取つてよきことであつた。

猶ほシンガポール新聞の語を借り吾人も亦「讒諑された國民が、自國に對してなされた誤つた非難の性質及びその重大性を決して知るに至る様な事はないであらうと考へなければ、爲さない様な方法で以て、自國民に對して他國民を誹謗する事は、暹羅人の國民性の最高の傳統に反するものである」と言ひ度い。

一九三二年暹羅新內閣の組閣以來、當國に關する尠からざる驚くべき報道がストレイト・タイムスにはあつた。けれども吾々は今これ等の新聞記事に就いては何も云はない。このやうな記事は當國に於て専からざる憤懣の原因となつたが、「増大する苦難」に關する記事はその感情をとり拂つてゐる。そしてストレイト・タイムスが效果のある、而も惡意のない方法で、暹羅の外交關係に重大なる結果を齎らす如き傾向に關し注意を呼び起した事に對して、暹羅は寧ろ感謝の意を表さなければならぬと思ふ。

暹羅・英國・佛國及び日本

(六月十日、ピナン・ガゼット紙所載)

歐洲の事件に見る様な自覺しさには比ぶべくもないが、國際政局の將來に重大な結果をもたらすと云ふ點では、輕視すべからざる交渉が現在、一方暹羅、對他方英國、及び佛國との間に進められてゐる。

戰時及び經濟恐慌期の時折に、暹羅は多少投機的な政策を採用して來て、或時は此の強國の、又他の時には彼の強國の友邦として、或は敵國となる可能性あるものとして、種々に評價されて來た。英國及び佛國はその屬領を通じて無比の隣國たる關係上他の何れの國よりも以上の深い關心を有してゐる。

暹羅の英字新聞（これは常に甚だ慎重である）に發表せられた所から、及び昨日シンガポール到着の盤谷駐在佛國公使の談話から考へて見れば、特に英國並びに佛國に對してなされた排外的フロバガンドが盤谷の暹羅新聞に盛んに行はれたと思はれる。讀者諸君は暹羅當局が二、三の非英字新聞に檢閱を課した事を知らるゝならん、これは全く至當の處置である。何故ならば斯る宣傳は暹羅が今列國に對して企てゝ居る條約改正、而かも其改正に依り部分的或は完全に治外法權の撤廈を企圖し居る條約改正のデリケートな交渉を少しも有利に導くものでないからである。

ピナンは暹羅特に暹羅と可成密接な關係を有してゐるのであるが、當地には若い思想家中に愛國心に對して輕い共鳴があるが、それ以上に現實的な排外的感情の現れはない。

それよりか馬來と暹羅との地理的特殊關係こそもつと重大な關心事である。暹羅が意のある日本に秋波を送つてをり、その結果、英國の政治的、經濟的利益に對抗して日本と提携をなし得るかも知れないといふ噂が、廣く擴がつたのはそんなに古い事ではない。この説は當時多少の證據が存在してゐたとしても、今日に至つてはもう何等の痕跡もない。小國との強力な同盟は經驗に依れば直ちに「特殊權益」の獲得となる。そしてこの特殊權益は「保護」を必要とする。經驗は又「保護」が考慮される處では、日本の考へが陥り易いところの、専くとも、「正統ならざるもの」

となりやういと云ふ事を教へてゐる。

クラ地峡を貫く運河建設の可能性——戦略的にも通商上にも重要な價値ある——は常に、正確に或る方面から、又他の方面からの指金ある事を暗示して一般に流布してゐる。吾々はこの運河の竣工が多分物理的に不可能なものと考へるし、又この様な運河が例へ建設されても、暹羅に隣接してゐる領土がその建設に反対してゐるならば、戦略的には殆んど價値のないものとなるであらうと思ふ。この様な問題のある應援が何處に由來してゐるかと云ふ事を吾々は憶測し様とはしない。

情勢に關して如何なる見透しを付けても、暹羅政府並びに外國政府の間に、暹羅國民と外國民との間に強く存在する親善關係を考慮に入れなければならない。

明かに暹羅王國の事實上の瓦解當時には幾多の氣脅りがあつた。この氣脅りはその當時には尤な事と思はれてゐたが、それに次いで起つた事件で見當はすれなものであつた事が明かとなつた。重大なる政治的な試みが、抑壓、即ち自由を不當に束縛する事のない政治的に若い國に於て遂行されつゝある。現段階ではこの試みが過激に亘る様な現象はないのである。そして幾多の外國顧問官は民主的制度に適合してゐない當國の民主的昂揚を遺憾としてゐるが、現状に於ては吾々は唯、この試みが成功する事を切望し得るものである。

馬來諸島の他の要素は印度支那の防禦を考慮してゐる佛國の注目である。佛國がカムラーン灣に防塞工事を計畫してゐると云ふ最近の報告があるが、それを佛當局も否定してゐない。

更に南方の蘭領印度諸島の防禦部隊は五萬人以上の要望に依り強化されてゐる。攻撃的目的には如何にしても沿ひ得ない斯る處置は英國の利益にとつては歓迎すべき事に相違ない。何故ならば、遠い將來の事とは云へ、佛領印度諸

島が吾々に敵對する強國に脅威される様な可能性があると云ふ事は非常に面白からぬ事であるから。

○日暹親善に對する英佛の關心と對暹 新條約を繞る英佛の動向

(七月二十日、新嘉坡・フリイ・プレス紙所載)

暹羅國政府は近く滿期となる現行條約更新に關し暹羅と列強との間に目下進捗中の商議に就て何等かの聲明書を發表する手筈となつてゐる。が而し其時期は未だ不明である。

併し乍ら英佛兩國政府は孰れも本件を重大視し、既に夫々出先外交官に對し、之に關聯する國內情勢に關する私的情報書の提出を命じてゐる。サー・ショシア・クロスピイが駐暹英國公使として着任して以來、英國外務省は同公使より數次に亘る私的報告書を受けたる結果、最近三ヶ年間に於ける暹羅の國內情勢趨移に就いては、非常に確實な認識を得てゐる。クロスピイ公使は目下英國に賜暇歸朝中であるが、之に對し時を同うして暹羅政府は倫敦に駐英暹羅公使の外交交渉に非常な期待を寄せてゐる。この事實より見て本件に關する商議は、クロスピイが暹羅へ歸任する以前に或程度の進捗を見ることが豫想されるのである。

暹羅外務省發行の外交公報に據れば、暹羅は新條約締結に際し、司法、財政關係の兩部門に於ける完全なる自主を要求してゐると傳へられてゐる。即ち之に依つて暹羅は從來暹羅國內の條約國居留民が如何なる犯罪に對しても、其の裁判を仰いで來た外國裁判權（移審權）の廢止を要求すると共に、他方條約國より輸入品に對する自國の課税率に

關する如何なる制限をも條約中より除去せんことを要求してゐるのである。

而して是等の問題は、關係各國中特に暹羅と隣接する植民地を有する英佛兩國に著しい影響を與へてゐるが、兩國政府が本問題に關し、連繫共同して交渉に當ることとなつた事は兩國の爲に幸ひである。是等の暹羅の要求は、此國に於ける最近の趨勢と相呼應するものである。暹羅は今やデモクラシイ國家としての近代的意識に目覺め、堅實なる歩みを進め、その動きは極めて積極的であり、他面英佛兩國も暹羅國民の此の健氣なる希望を達成せしむるために援助を答ます、從つて暹羅の要求を承認するに當つて、特に異議を挙ぐ餘地はないが、併し乍ら茲に唯一つの難點がある。此の點に關し何等忌憚なく述べる事は問題を正しく理解するために大いに必要であると考へる。

近年著しく増進し來れる暹羅と日本との親善的關係は、過去數年間に亘つて屢々論議の對象となつてゐる。本問題に關しては今日迄世上相當に誤評が流布せられて居り、暹羅の實情に暗い批評家や、或は又日本に對する好ましからざる偏見に依つて萬事動かされてゐる批評家は、日本の暹羅に對する親善關係の動機を不正なりとし、不當なる非難を浴せてゐる。之と同時に他方、特に馬來植民地及印度支那に於ける有力なる英佛兩國人方面的意見に依れば、彼等は暹羅が列強に對する新條約に於て絶對平等を希望するならば、日暹兩國貿易の増進を即時保證すると云ふ日本側の漠然たる約束に對し、之が返禮の意味に於て暹羅は日本に對し實質的に好意を示すが如き意圖を有せざる旨を、此際暹羅側に於て示すべき事を切望してゐる。

日本との親善的關係は、英佛兩國政策の基調をなすものであり、從つて英佛兩國は孰れも日本と暹羅との友好關係を阻害するが如き考へを抱いてゐない。併し乍ら彼等は、日本以外の列強の永年に亘つて暹羅との間に伸張し來つた友誼的關係、並びに暹羅が過去及現在に至る迄、絶えず同國の發展を勵まし來つた友情を無視し、暹羅が日本に對し

て特に好意を仄かすが如き事あれば、兩國は之に反対するであらう。若し暹羅が彼等の欲する保證を與へるならば英佛兩國は當然暹羅の提案する新條約草案を殆んど無修正にて受諾すると同時に、新局面に立つ暹羅國の發展のため其多幸なる前途を種々なる形に於て約束するであらう。

尙最近暹佛新條約商議のため、暹羅國外務省政務局長より榮轉せる新任駐佛公使ブラ・バヒツト氏は八月三日フランス汽船アンドレ・ルボン號に乘船新嘉坡を出發したが、出發に先立ち同氏は新嘉坡フリイ・プレス記者との會見に於て次の如く語つてゐる。

「暹羅と諸外國との新條約を續る商議の内容に關しては、今之を詳にすることは不可能であるが、交渉は順調に進んでゐる。特にフランスとの交渉は大いに進捗し、之がため佛國政府は新條約締結のため、直ちに其の代表を巴里より派遣する用意ありとの事であるが、右は同國の眞に理解ある態度を示せるものと云ふべきである。

暹羅は昨年、當時我國と修交關係になつた列國に對し、一樣に或種の修正を基礎として考慮せられたる新條約草案を提出し、各國共大體本草案に準據し交渉を進めたる狀態である。フランス以外の多くの國々の中或る國々は本草案に關聯し、彼等の見解を披瀝し、又他の國々は盤谷に在る出先外交官を通じ本草案に關する補足的情報乃至説明を求めて來てゐる。

余は條約更新を続る交渉の成行に就ては樂觀してゐる。殊に我が友邦にして善隣の間柄たる英佛兩國が理解ある精神を以て交渉に臨み、速かに新條約締結の運びに至るべきことを確信してゐる。暹羅と諸條約國、特に暹羅の隣國たる英佛兩國との友好的關係は、今日まで大いに緊密なるものがあつたが右は我暹羅國政府の從來採り來つた政策なることを斷言するものである。」

資料欄

○暹羅國地券下附法の公布

地券下附法は佛曆二四七九年度末の臨時議會に於て通過し四月十二日の官報を以て公布せられた。

佛曆二四七九年地券下附法（法律第六號）

第一條 本法ハ佛曆二四七九年地券下附法（第六號）ト稱ス

第二條 本法ハ官報ニ公布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

第三條 左記諸法令ヲ廢止ス

一、ラタナコーシン曆一二七年地券下附法第十一章ノ規定

二、チユラ曆一二三六年第十一項地方長官事務官郡長ノ田地巡檢ニ關スル法律

三、ラタナコーシン曆一二九年三月一日附大果樹園立樹課稅果樹園、畠地ノ植付ニ關スル臨時布告

四、本法ノ規定ト抵觸スル土地ノ占有ニ關スル其ノ他ノ法規竝ニ土地占有ニ關スル手數料表

第四條 本法ノ規定スル土地トハ民商法第一三〇四ノ一條ニヨル官有財產ナル土地ニ限ル

第五條 土地ノ占有ハ本法ノ規定ニ從ヒ申請シ許可ヲ受クヘシ

占有ヲ許可スル主務官憲ノ權限竝ニ許可シ得ル地積ノ最大限ハ次ノ如シ

郡長許可ノ權限ハ五十「ライ」以下
知事許可ノ權限ハ百「ライ」以下

第六條 政府ハ土地ヲ下附スル權限ヲ有ス此ノ下附行爲ハ條件ヲ附シテ下附スルコトヲ得、下附申請ハ省令ノ規定ニ從ヒテナスヘシ前項ノ規定ニヨリ下附ヲ受ケタル者ハ單ニ其土地ヲ管理スル權利ヲ有スルノミニシテ此ノ行爲ニヨリテ所有權ヲ取得セス

第七條 土地ノ占有ノ申請ハ土地ノ所屬地域ニ於ケル郡執行機關ニ之ヲ申請スヘシ

郡執行機關カ右申請ヲ受理セルトキハ省令ニ從ヒ處理スル以外ニ郡役所、村役場及占有申請ノ現地内ニ壹ヶ月間占有申請ヲ公告ス右期間内ニ抗議ヲ申立テルモノナキトキハ地方ノ福祉ヲ調査考慮シ占有許可ヲ支障ナシト認メタルトキハ事件ノ性質ニ應シ郡長又ハ知事ヲシテ證明ノ爲メ許可書ヲ發行セシム

第八條 占有許可書ニ二種アリ

甲、開發證ハ公文書ニヨル許可書ニシテ次ノ各項ヲ記入ス、郡長ノ署名官印、被許可者ノ氏名、住所、國籍、族籍、父母ノ氏名、土地ノ位置、地積ノ概算、土地ノ境界

乙、占有證ハ公文書ニヨル許可書ニシテ次ノ各項ヲ記入ス

土地ノ主務官憲ノ署名官印、被許可者ノ氏名、住所、國籍、族籍、及父母ノ氏名、土地ノ位置、地積概算、境界

地圖及登記目錄

第九條 占有ノ許可ヲ受ケタルモノハ開發證受領ノ日ヨリ二ヶ年以内又ハ占有證受領ノ日ヨリ三ヶ年以内ニ其ノ土地内ニ於テ利用ヲナスコトヲ要ス、然ラサレハ未タ利用セサル土地ノ部分ニ對スル占有權ハ消滅ス

第十條 占有ヲ許可セラレタル土地ハ遺産相続ニヨリ適法ニ相續セル場合以外ハ之ヲ他ニ譲渡スコトヲ得

ノ土地カ主務官憲ヨリ利用ヲナセル旨ノ保證ヲ得タル場合ハ之ヲ譲渡スコトヲ得

第十一條 土地占有ノ許可ヲ受ケタルモノカ本法ノ規定ニ從ヒ土地ノ利用ヲナセルトキハ利用ヲナセル旨ノ保證アル占有又ハ地券地圖ヲ請求スルコトヲ得。許可ヲ受クルモノハ主務官憲ニ對シ證人及證據ヲ提示シ自己カ許可地内ニ

於テ地積ニ相應セル利用ヲナセルコトヲ認メシムルニ足ル報告ヲナスコトヲ要ス

利用ヲナセル旨ノ證明アル占有證ノ保持者ハ法律上ノ所有權ヲ有ス

本法施行前ニ發行セル利用ヲナセル旨ノ保證アル占有證又ハ登記ハ本條ノ規定ニヨル占有證ト見做ス

本法施行前ニ利用ヲナセル旨ノ保證アル占有證ヲ發行シ且ツ登記ヲナセル主務官憲ハ本條ノ規定ニ因ル主務官憲ト見做ス

第十二條 利用セル旨ノ保證アル占有證ノ發行竝ニ前述ノ占有證ノ附屬セル土地ノ登記ノ手續ニ就キテハ地券發行ニ關スル法律内ノ地券地圖發行ノ規定及手續茲ニ地券地圖アル土地登記手續ヲ準用ス

第十三條 本法實施前許可ナク又ハ土地ニ對スル證明書ナクシテ土地ノ管理又ハ利用ヲナスマモノアルトキハ主務官憲ハ主務大臣ノ定ムル期間内ニ於テ右事實ヲ證明スル登記ヲ受理ス但シ右期間ハ一ヶ年ヲ下ルコトヲ得ス

第十四條 土地ノ占有ノ許可ヲ受ケタル者カ本法ノ規定ニ違反スルトキハ主務官憲ハ許可ヲ與ヘタル土地ノ全部又ハ適當ト認ムル土地ノ一部分ニ對シ許可書ヲ取消シ又ハ其無效ヲ公示スル權限ヲ有ス

第十五條 本法施行後許可ナクシテ土地ヲ管理スル者アルトキハ主務官憲ハ之ニ對シ其ノ地ヨリ退去ヲ命スル權限ヲ有スモシ右命令ニ從ハサルトキハ五百銖以下ノ罰金又ハ三ヶ月ヲ越ヘサル期間ノ懲役ニ處ス或ハ又右兩者ヲ併科ス

前項ニヨル省令ハ官報ニ公布ノ時ヨリ之ヲ實施ス

第十六條 本法ノ規定ニ違反シ自己又ハ他人ニ土地ノ權利ヲ取得セシムル目的ヲ以テ主務官憲ニ對シ文書内ニ虛偽ノ申告ヲナストキハ五百銖以下ノ罰金又ハ六ヶ月以内ノ懲役ニ處ス或ハ又右兩者ヲ併科ス

第十七條 經濟大臣ハ本法ノ實施ヲ管掌スルモノニシテ省令ノ發布、主務官憲ノ設定、本法末尾ニ規定セル額ヲ最高限度トスル手數料率ノ制定其ノ他ノ諸經費ノ決定、並ニ本法施行令ヲ制定スル權限ヲ有ス

○暹羅國外國人登錄法の公布

暹羅國に於ては七月五日附外國人登錄法を公布し三ヶ月後施行のこととなつたが右に據り在留外國人（外交官、領事官等政府の公務を帶ぶるもの）は其の在留地々方官に届出て身分證明書の發給を受ける必要あり又新に入國するものは入國の日より一ヶ月以内に同様届出の上、身分證明書を取付くることが必要となつた趣である。

佛曆二四七九年外國人登錄法

第一條 本法ハ佛曆二四七九年外國人登錄法ト謂フ

第二條 本法ハ官報公布ノ日ヨリ起算シ九十日後ニ之ヲ施行ス

第三條 本法ニ於テ

一、外國人トハ法律上暹羅國籍ヲ有セサル人ヲ謂フ
二、身分證明書トハ係官カ外國人ニ對シ發給スル證明書ヲ謂フ

第四條 本法施行前暹羅領土内ニ居住セル滿十二歳以上ノ外國人ハ本法施行後九十日以内ニ本人居住地區ノ係官ニ對シ身分證明書ノ交付ヲ申請スヘシ且ツ本人ノ保護下ニ満十二歳未滿ノ者アルトキハ其人數ヲ申告スルヲ要ス

第五條 本法施行後暹羅國內ニ入國スル外國人ハ入國許可ノ日ヨリ三十日以内ニ前條ノ身分證明書ノ交付ヲ申請スヘシ且ツ滿十二歳以下ノ者ヲ帶同スルトキハ其人數ヲ申告スルヲ要ス

第六條 本法施行前暹羅領土内ニ在住シ又ハ本法施行後暹羅領土内ニ入國セル滿十二歳以下ノ外國人ハ滿十二歳ニ達シタルトキハ其ノ時ヨリ九十日以内ニ身分證明書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七條 騰羅國籍ノ女子カ外國人ト結婚シ暹羅國籍ヲ放棄スル場合ハ婚姻ノ日ヨリ三十日以内ニ本人居住地區ノ係官ニ對シ身分證明書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八條 身分證明書ノ交付ヲ申請スル外國人ハ省令ノ規定セル本人ノ寫真ヲ係官ニ提出スヘシ而シテ係官ハ第十二条ノ規定ニ基キ身分證明書ヲ發給スヘシ手數料ハ徵收スルヲ要セス

第九條 本法ハ左記外國人ニ適用セス

一、外交及領事々務ニヨリ暹羅國內ニ入國スル者及其家族又ハ契約ニヨリ暹羅政府ノ官吏トシテ入國スル者及其ノ家族

二、外國政府ヨリ暹羅政府ニ正規ノ通告アリテ同政府ノ公務ニ關シ暹羅領土内ニ入國スル者

三、入國法ニヨリ一時在留ノ許可ヲ受ケタル者

但シ前記除外例ノ適用ヲ受クル外國人カ身分證明書ノ交付ヲ申請スル場合ハ右外國人カ省令ノ規定セル本人ノ寫真ヲ係官ニ提出セルトキ係官ハ身分證明書ヲ發給ス

第十條 外國人ノ出生ニ就キテハ佛曆二四七九年自治區域内住民登錄法第十七條ノイ、第十八條及第二十條ノ規定ヲ準用ス且ツ生兒ノ父ハ自己ノ身分證明書ヲ提示シ係官ハ生兒ノ父ノ身分證明書内ニ右生兒ニ關スル事項ヲ記載ス父カ存在セス又不明ナルトキハ母カ同様ノ手續ヲナス義務ヲ有シ母ノ身分證明書ニ右事項ヲ記載ス外國人ノ移轉ハ係官ニ身分證明書ヲ提示シ右事項ノ記入ヲ求ム、且ツ佛曆二四七九年自治區域住民登錄法第十五條第十六條ノ規定ヲ準用ス

外國人ノ死亡ハ佛曆二四七九年自治區域住民登錄法ノ第十七條口、ノ規定ヲ準用シ且ツ右死亡者ノ身分證明書ヲ係官ニ返還ス

第十一條 外國人カ身分證明書ニ記載セル國籍ヲ變更セルトキハ變更ノ日ヨリ三十日以内ニ係官ニ申告シ且ツ身分證明書ヲ提出スヘシ

第十二條 外國人カ身分證明書ヲ紛失セルトキハ紛失ノ事實ヲ知レル日ヨリ七日以内ニ係官ニ申告シ新規ノ身分證明書ノ交付ヲ申請スヘシ此場合一銖ノ手數料ヲ徵收ス

第十三條 外國人ハ本法ノ規定ヲ遵守スヘシ若シ本人カ未成年者ナルカ又ハ無能力者又ハ之ニ近キ者ナルトキハ保護者法定代理人、扶養者、後見人ノ何レカカ此ノ義務ヲ代行ス

第十四條 追放令ニヨリ暹羅領域外ニ追放セラレ又ハ入國法ニヨリ本國送還セラレル者ノ身分證明書ハ褫奪ス係官ハ右身分證明書ヲ押收ス

第十五條 本法第四條第五條第六條第七條ノ規定ヲ遵守セサル者ハ二百銖以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本法第十三條ノ規定ヲ遵守セサル者ハ百銖以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 本法第十條第一條及第十二條ノ規定ヲ又ハ本法ノ規定ニヨリ發布セル省令ノ規定ヲ遵守セサルモノハ十

二銖以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 内務大臣ハ本法ノ施行ヲ管掌シ省令ノ發布、係官登記官ノ任命、身分證明書ノ決定、寫真及證明書ノ有效期間ノ決定並ニ本法施行手續ノ決定ノ權限ヲ有ス

右省令ハ官報公布ノ日ヨリ施行ス

佛曆二四八〇年六月二十五日裁可

七月五日官報公布

盤谷築港計畫と湄南河口淺洲の修築

事實上に於て、シャム國唯一の商港である盤谷港は、今日迄所謂近代的港灣としての設備は殆んど皆無であつた。然るに近時貿易の躍進と船舶出入の増加に伴ひ、盤谷港の改善は焦眉の急とせられて居たが、豫て産業振興を重要政綱の一とするシャム政府は、愈々之に近代式築港工事を施すこととなり、既に築港に必要な土地收用に關する法律を制定公布、同時に過般經濟大臣を委員長とする築港計畫委員會を設立した。此の委員會は本年六月廿三日經濟省内外商社代表を招集して築港計畫案を開示したが其設計要目は大體左の通りである。

要點、盤谷築港は近代的海港の様式（例へば運輸港内的一般取締、港内交通の便宜、税關の有效なる監督等に対する施設）に適應したる設備に基くことを要求するものである。

設計概要左の通り。

一、現在のメナム鐵道を盤谷港内に引き込み、以て貨物の國內運送を敏捷にすること。

地圖に指示せる地域内（設計圖略す）に鐵道引き込み線を敷設する事。

二、差し當り延長約千八百米の埠頭建設を要し、尙港の地域内に埠頭増築の餘地を豫定する事。

三、各種の貨物を保管する倉庫の建築。

尙増築の餘地を豫定する事。

四、港の地域内に次の諸設備を必要とす。

イ、税關本署、税關事務所（港内の取締に當る）課稅品の検査及取締を行ふ構内の如き税關事務に必要な諸官衛の建築。

ロ、檢疫所及移民事務所。

ハ、水先案内人事務所。

ニ、港務事務所。

ホ、水上警察署。

ヘ、税關自動艇及警備艇五、六隻を納れる艇庫。

五、港内事務に當る官吏を收容する宿舎。

六、港内労働者を收容する宿舎。

七、港内に現代の勞動力節約裝置即ち起重機を設備すること。尙水上の船舶に對する火災豫防、信號等の設備。

八、鐵道運輸にも充分なる設備を要す。即ち現在の *Burthon Kosa* 鐵道を擴張して港内へ六本の鐵道を引き込む計

畫(設計圖略す)

一一

埠頭の一部に貨車より貨物を直接に船舶への積卸に便なる轉車臺を有する短距離鐵道線路の敷設。

九、穀米倉庫、白米倉庫、木材置場の設備。

右の倉庫及置場へは鐵道、船舶又は通路の便あること肝要なり。

一〇、港内自動艇の波止場の設備。

一一、港内の鐵道貨車置場に當てる驛構内線の敷設(尙其の位置は規定の地域内)

一二、右鐵道線路は線路の中心間隔、四米を以て最小限度とす。而して線路の彎曲度は半徑一八〇米を以て最小限度とす。回避線は本線十本に對して一本、副回避線は回避線八本に對して一本の割合にて敷設し、港の南端に一區域が劃定され、此處に機關車、貨車、鐵道線路、鐵橋等の重大貨物を積卸する埠頭及保管倉庫を建築。

一三、設計者は前記の要件に該當する計畫概要を作製する自由を有す。

一四、委員會は右計畫を採否するの權限を有し、不採用の場合と雖之れに就き説明するの義務なし。

該計畫の實用性及能率に重點を置いて諮詢し経費の點は考慮せず。

工事の初期、政府支辨豫算額等に就ては、未だ何等發表されて居ないが「テンドラー」締切りは本年九月一日となつて居るから近い裡には一部工事の着手を見ることゝ謂はれて居る。

右は盤谷港に就てのことであるが、之の盤谷築港も湄南河口のバー(淺洲)の浚渫事業と相依つて初めて完きを期し得るのでシヤム政府は之に對しても勿論考慮中と聞いて居る。「バー」問題に付てはシヤム内務省技師會員東森藏君より左の如き有益なる資料を送附せられた。御好意に對し深く感謝する。

盤谷外港修築に付ての話

東森藏君述

◎湄南川、築港の御話に入る前に先づ湄南川に付て一應御話申上ぐる方が暹羅國に付て色々御研究になる上に便宜であり又築港と湄南川とは密接不可分のものであることを御了解を願ふ上に便宜と思ひます。

湄南川は當國の所謂北部の森林地帶に水源を發して居ります、即ち三つの大なる河が此の森林地帶より流れ出して蜿々長蛇の如く暹羅國內を流れて中途に於て三つが合して本名メーナムチャオプラヤ俗稱メーナム川となり遂に暹羅灣に注ぐのであります。

暹羅國の中央部に位する大平地大農業地は湄南川が長大なる年月を経て作つた所の沖積層であります、即ち盤谷市のある此の平地の前身は即ち湄南川のバーであるのであります、日本より御渡航の際湄南川河口附近或は川に入られてから水面を御覽になつて暹羅に最近大洪水があつたかと想像されしことゝ思ひます、誰もそんな經驗を一應は持つのでありまするが洪水でも何でもないのであります、湄南川の濁流は百年澄む事を知らないのであります、百年河清を知らない位に恆久的に絶へず莫大の泥砂を上流から運んで参りますのであります、其の爲めに常に混濁して居ります。湄南川が年々歲々運ぶ其の泥土の量は實に驚くなけれ

毎年八〇〇、〇〇〇——一、四〇〇、〇〇〇立方米で

(高一間だけ埋立てるとき)

之れを埋立の土に充當する時は毎年一二〇、〇〇〇——一〇〇、〇〇〇年立派な埋立地が出来る勘定になります
泥土は期節に依り勿論相違がありますが、百立突の水の中に二、七——一、〇グラムの割合を以て含まれて居ります。

是れだけの泥土は段々遼羅灣を埋めて行きつゝありまして其の盡くる所を知らず年々幾何かの新領土が遼羅に増す譯であります、畢竟するに遼羅灣が全部埋められて陸地に變じ此のバーの先端が外海の潮流の激しい所に至りて始めてバーの擴大は止む次第でありまして遼羅灣は遂に消失して陸地となるべき運命に指かれてあります、現在渭南河口より約一七、〇キロ米突の地點にまで擴がつて居るのであります。渭南川は其の大小幾多の運河と共に此國の交通運輸に最も重なる使命を有し、最も偉大なる貢獻をして居ります。

此の國は未だ國內を一貫する様な國道が唯の一本さへありません、道路の普及發達は前途誠に遙なものであります、現在は都市以外に道路と云ふ道路は極僅であつて最近漸く軍事關係の道路を重にして着手されつゝある程度であります、其の反面に於て運河に異状なる發達を爲して居ります、運河が發達して道路の遅々として進まざるは次の關係にありと思はれます。

此の大平地は抑もがバーであつた位で何れも地盤が低い一尺も掘ると水が出ると云ふ様な次第、其の上起伏が少く一様の高さの土地であります、其の爲めに運河を作るには工事が極めて簡単であります、經費を餘計かけないで容易く出来ます。又運河は灌溉、排水の機能をも兼用する事が出来ます、運河に依る運賃は時間を離れては最も低廉であります。此んな都合の爲めに運河は發達したものと思はれます、然るに道路に至ては之れと正反対に運河を作ることが樂である丈け夫れ丈け困難であります、即ち地盤が低い爲めに餘計に盛り上げて道路を構成しなければならないし運河が數限りなく至る所に存在する爲めに橋の架設が餘計必要である其の上運河は舟行ある故に高い橋でなければならぬと云ふ譯で盛土を得るにも困難し又橋梁材は輸入品に仰ぐ場合が多い等の爲に日本内地で道路を作る様には参りません。

こんな工合に遼河は發達し道路は遅れて居ります。尙ほ又遼羅人は生活程度が低い爲め迅速なる陸上交通に理解を持たず、其の必要を感じることが極めて薄い 것입니다。

此の國の重要產物なる米穀や木材の如きものゝ生産費の内には運賃が最も過分に含まれて居ると思ふ、然るに遼羅に未だ陸上交通らしいものゝない時代に於て已に遼羅は世界の市場に於て競争に堪へ木材の如き各地に貴重材として持ち出されて居る、之れ等は何れも渭南川及運河のありし御蔭に依るものであります、渭南川なれば遼羅國は今日の發展は勿論のこと將來に於て期待を存し得ないつまり國であるに相違ありません、全く水運に負ふ所大なりと云ひ得ませう。

渭南川は中途に於て廣大なる面積の農業地を完全に灌漑して居ります、其の養ふ所の面積は廣大なるものであります、其の上雨季氾濫する場合には濁流が多分の肥料分を耕地に残して呉れるのであります。

渭南川の盤谷市以下は愈々重要な部分であります、即ち遼羅國の貿易品は多く盤谷市を根據とし盤谷市を目的として行はれます、然して輸出入貨物の大部分は盤谷以下の渭南川を利用して船舶に依るのであります、渭南川の交通上に及ぼす貢獻は以上の如く偉大なるものであります、遼羅國は前世紀の終りに鐵道新設に着手し一九三一年迄に約三千基米突を、經費二億萬銖を投じて完成しましたが其の後の鐵道利用状況は甚だよくない。

米の如き盤谷に集るものゝ内の僅に六、〇バーセントが鐵道に依り、木材の如きは殆んど水運に依つて居ると云ふ狀態で此の國の重要產業には關係が極めて薄い、言換へれば莫大的の經費を投じた所の鐵道の效果は振はない。遼羅の代表的大工事鐵道は渭南川や其の關係の運河の遼羅に捧げて居る惠澤と比べると自ら此の水運に對して感謝の念が湧かざるを得ません。

即ち暹羅國は彼の大事業鐵道に着手する前に湄南川に對して其の天惠を感謝し、如何に之れを合理的に利用し、如何に改善すべきかと云ふことを考ふべきであつたと思はれます。

試みに盤谷港を中心とする輸出入貨物の統計を調ぶるに

最近一ヶ年平均總輸出量

一六〇、〇〇〇、〇〇〇——一五三、〇〇〇、〇〇〇銖

内盤谷港よりするもの

一〇〇、〇〇〇、〇〇〇——一〇〇、〇〇〇、〇〇〇銖

割合を申し上げると

八〇——八五 に相當する

最近一ヶ年間總輸入量

一五〇、〇〇〇、〇〇〇——一〇〇、〇〇〇、〇〇〇銖

内盤谷を目的とするもの

一四〇、〇〇〇、〇〇〇——一七五、〇〇〇、〇〇〇銖

割合を申し上げると

八七——九〇 に當る

此の數字が示す様に當國の外國貿易は殆ど盤谷を唯一の根據として行はれる然して此等貨物は必ず湄南川を舟運にて出入されるものであります。

以上を要約しまする時

一、暹羅國の農業及林業は湄南川ありて始めて經濟的價値を有する様になる。

二、外國貿易は湄南川ありて始めて經濟的立脚が出来る。

三、湄南川には水害なく又河状の惡化する處も少ない常に充分なる水深を有して居る、干潮時と雖も水深二五尺——二六・五尺を保ち其の幅も二〇〇米に達して居る即ち利用は圓滑に行はれ維持費を殆ど要しない。

と云ふことになります。

◎湄南川口のバーに就て、是れまで申上げました様に湄南川は誠に調法な川でありますが茲に唯だ一つ困った事柄があります、夫れは前説しました様に湄南川は絶えず莫大の泥土を運んでは暹羅灣を埋めて行きつゝあります、其の結果段々水深浅くなり遂に航海に困難を來す様になりました、此の事たるや正に致名的の障壁と云ふべきもので實際暹羅國の痛であります。

バーが航海上に如何なる障壁を爲すかと云ふことは已に各位御航海中に十二分に御經驗なされたことゝ思ひます。

幸にも湄南川に四時豊富の水が流れ居る爲め干潮時川口を出た所の水は尙ほ相當の流れの餘勢を有して居りまして、此のバーの上を恰も川を延長した様な工合に流れさせて三つの水路を形成して居ります、東行するもの西行するもの及び此の兩者の中間を真直ぐ南に向つて海岸線に直角に走るもの此の三つであります。

此の中央の水路は水深も幅も一番大きく滿潮期には一二、五呎——一四、五呎の吃水の舟航に堪へるだけの水深と幅を有し且つ此の水路は變化が極めて鈍ない、殆ど變化がないと云つてもよい位であります、然してバーの距離は先刻申上げました様に約一七、〇キロ米突に達して居るのであります。

◎バーの興へる損害

一、コーチチヤンに於て貨物の積替の必要ある事は説明の必要ないと思ひます、皆様御存じであるが故に。然らばバーは如何なる支障を吾々に與へつゝあるか今之れを數字的に調べて見たい。

一年間に於て、コーチチヤンに於て積替をなす噸數は

貨物

輸出貨物

五三九、〇〇〇噸

輸入貨物 五〇、〇〇〇頓

計 五六九、〇〇〇頓

積替費

輸出貨物 一、二五〇、〇〇〇銖

一五〇、〇〇〇銖

輸入貨物 一、四〇〇、〇〇〇銖

計

二、コーチヤンに於ける積替の爲に待つ時間の爲受けける船舶の損害

年 約

三〇〇、〇〇〇銖

即ちコーチヤンと云ふ名の下に於て受ける損害は年に合計約一、七〇〇、〇〇〇銖になる譯であります。

然るに船脚の小なる小型の船を用ひてコーチヤンにて積替を要しない様にしたいと云ふの下に、行はれ居る所の香港及新嘉坡行きの船舶は確にコーチヤンの御厄介にならず直行することが出来ますが、然し夫れでも尚ほ次のような事柄があります。

一、小型の船は大型の船に對して運賃の競争に堪へない色々の経費が比較的大きくなる大型船に勝てぬと云ふ事の爲めの損失

年 約

一二五、〇〇〇銖

二、香港及新嘉坡に於て一旦卸荷するか又は他の大型船に積替へて更に目的地に行く必要を生ずる（小型船なる故に遠洋に不適當なり）如斯兩國に於て積替へ又は一時陸上げする貨物は年に約四〇〇、〇〇〇頓此れに要する費用八

〇〇、〇〇〇銖と見積られます。

即ち小型船を用ひて折角コーチヤンの積替から脱れ得ても尙ほ如斯大型船との競争に敗ける其の損失

以上を合計しますと

計

一、一二五、〇〇〇銖となる

一二五、〇〇〇銖

香港及新嘉坡にて失ふもの

一、八〇〇、〇〇〇銖

一、七〇〇、〇〇〇銖

計

一、七二五、〇〇〇銖

だけ年々失はれて居る次第であります。

之れ等の損失は何れも暹羅人の生活費の嵩上を來たし又產業上に打撃を與ふるものであります。茲に注意を要する事があります。此のバーある爲めに年々莫大の犠牲を拂ふて居る一方には此のバーある爲めに巨利を得て居るものある事であります。即ち彼のライター業者即ち華僑の親分及苦力が夫れであります。暹羅人は重い此のバーによる負擔をして、そして支那人を肥やして居る譯であります、然も此のライター業者は横暴であつて慘が強い。

それでも暹羅人は此の障壁を除かんことに容易に肯定し様と考へないのである、其の理由は次の機會に申す事にします。

◎築港の効用、以上の損失はバーを掘鑿して航路を開くときにはなくする事が出来るのであります。即ち築港の效果といふものは現在の損失即ち二、七二五、〇〇〇銖に等しい譯であります。

更に目に見えない算盤玉に弾き難い利益も築港の効果として考へられる、即ち間接的利益であります。築港完成するときは運賃の負擔は前説の如く輕減され、其の結果地方の産業は好轉し今日まで貿易品として無價のものも立派な高價品となる事もある。之れ等の利益を年々約五、〇〇〇、〇〇〇銖と見積るのであります。

又暹羅國は地理的に考へて海岸線短く奥地が廣い如斯地區で内地經濟空間と稱して最も開発困難なる地區として學界に考へられて居ります、暹羅國の振はざる理由として考量すべき事柄と思ふ。

然るに此のバーを掘鑿して外海が湄南川に完全に通するに至れば、暹羅國は湄南川に依りて東西二つの狹長なる地區に分割されて茲に最も開發し易き所の沿岸經濟空間に轉換し得るのであります、即ち劣等地より高級地區に轉換し得る誠に有難い話であります、此の事柄も築港事業に依る間接的利益として考ふべきものであります。

以上申上げました所に依りて湄南川が暹羅國に取りて重大なる貢獻を爲し暹羅國の現在を救ひ又將來を保證する所の潛勢力即ちボーテンシャル、エネルギーを有すると云ふ事に歸着します。

然して盤谷港を論ずる時湄南川なきを得ず、湄南川を案する時バーを度外する事は出来ない、即ちバーを考へない築港は在り得ない又バーを考へない湄南川に對して將來大なる價値を持たしむる事は不可能であります。

◎築港工事の内容、前説致しました様なる築港の効果を擧げるには此のバーを掘鑿して

水深	満潮時に於て	二八呎
巾	同	一〇〇米

の水路を作らねばならない。

將來數萬噸といふ様な巨船を入れる場合は別として盤谷港として適當した船舶を現状より押して考ふる時二八呎水深で充分であります、又二三呎水深、一〇〇米巾と云ふ案があります、此の案に依るときは完全工事に比して約八〇、〇バーセント位の效果を揚げ得るのであります、且つ日本の現在の暹羅通ひの船舶ならば二三呎案で殆ど一〇〇バーセントの效果に沿する事が出来ると思はれます。

二三呎水深案に依るときの築港の效果と云ふものは

コーシチヤンに於ける積替を要せざる利益

一、三六〇、〇〇〇銖

小型船使用を廢止する爲の利益

五〇〇、〇〇〇銖

計

と云ふことになります。

此のバーの掘鑿は前説しました三つの水路の中央の水路に依るのが一番妥當であります、工事が専くてすむこと、維持が樂であること等よりして此の中央水路即ち現在の航路を深く掘下げるのが一番有利であります、次に工事費に付て申上げて見たい。

二八呎水深案	掘鑿土量	一、三〇〇、〇〇〇立方米
工事費		六、〇〇〇、〇〇〇銖
工事期間		四ヶ年
掘鑿土量		五、四〇〇、〇〇〇立方米

工事費

三、〇〇〇、〇〇〇銖

工事期間

二ヶ年

工事資金に對する償還期までの金利雜費等を考へて
二八呎水深案の場合 総支出 一二、〇〇〇、〇〇〇銖

二三呎水深案の場合 総支出 六、〇〇〇、〇〇〇銖

と見積るときは適當でありますよう。

此の數字より見るとときは工業經濟上二三呎水深案が一番有利であります、暹羅國の經濟狀態よりして二三呎案を採用すべきであると思ふのであります。

◎工事の難易及維持の難易、工事は至て容易であります、東京灣内に於てする工事よりもつと樂であります、其の理由は

- (一) 海底に硬磐即岩磐が出ない全然細緻の砂及粘土であつて掘鑿事業が極めて樂に出来る。
- (二) 天候、氣候等が工事上割合に都合がよい。又荒波が立つ事なく暴風の憂絶対にない事。

維持も比較的楽であります、其の譯は

- (一) 済南川の流末餘勢を利用して或る程度まで水深の維持を遂げ得る事。
 - (二) 荒波渺々又満干潮汐に依る以外、沿岸潮流が皆無である。
- 但し上流より来る泥土の幾分は矢張水路内に沈澱停留する事は免れ得ない、故に常に相當の浚渫を必要とする今其の爲めの維持費を申上げませう。

二八呎水深案 維持費 八〇〇、〇〇〇銖 年

二三呎 " " 四〇〇、〇〇〇銖 年

と見積られて居ります。

◎築港工事に伴ひ當然起るべき二問題、築港工事施行に對して其の利害を異にする關係の下に次の二つの問題が起るものと考へられます。

- (一) 鹽分リバーを今日以上に掘鑿するときは、済南川を逆流して上り来る滿潮時の海水侵入が増大して以て済南川の水の含有する鹽分を増し兩岸の果樹園は此の爲に全滅すると云ふ恐怖を地方民が懷き又政治家が之を利用する策謀の種子となり易い事。
 - (二) ライター業者リバーが開鑿されて完全なる航路が開かれると當然ライターは要らなくなる、其の爲にライタ一業者は失業を免れないでライター業者及苦力に對する問題が起る。
- 此の第一の問題は杞憂に不過リバーを開鑿しても海水の侵入は増さない、増した所が果樹園に影響を與ふる程度のものでない、政府が充分なる調査を行ひ誠意を以て説明の勞を取るときは圓満に解決するものと信じます。
- 第二項は政府事業として致し方ない事件と思ひます。

雜苑

○暹羅留學生と日本語の問題

野口謹次郎

(註) 本稿は日大講師野口謹次郎氏が昨年夏以来本年春迄數ヶ月間現に神戸に於て見學練習中の暹羅海軍潜水艦乘組員の日本語教師に從事された経験からの意見であつて日暹兩國現時の關係に鑑み頗る言繁に當つたものと思はれるので茲に掲載することとした。

近年日暹兩國の親善が深まるにつれて、觀光のため來朝する暹羅國人も非常な數であるが、留學生の數も亦、今日では官、私費學生を合して、將に二百名を突破してゐる。これ等學生の大多數は數年間吾國に滞在して研究を志す者である。併し學生の最も苦痛とするところのものは、日本語習得の困難な事だ。現在既に各大學に在學中の學生について考へるならば彼等の日本語學力は極めて低く、出席はしても授業内容は満足に理解し得ない状況である。一つには彼等の學力程度は一部の者を除いて日本人學生のそれに比して、稍低い點がその理解を妨げるところもある。永い間暹羅における教育は寺院の僧侶に委ねられ、初等義務教育令の發布を見たのも約十五年前の事であり、未だ日が淺く充分徹底して居らず、従つて全國を通じて中等學校の數も二百に満たない状態である。餘談であるが、彼等はよく英語に通じて居つて、英國の力が如何に教育の上に渗透してゐるか想像に難くない。

之等私費留學生は、商科、經濟科に學ぶ者が大多數で、醫科、齒科之に次ぎ、水產科、農科となつてゐる。暹羅國の現狀が然らしめたものであらう。所で、日本政府によつて幾多の研究の便を與へられてゐる官費留學生の事は兎も角として、私費留學生は將來實業界、工業界其他各方面の中心勢力ともなり、日暹經濟提携の根幹をなすべき學生達であるに拘らず、彼等の教育指導は全く等閑に附せられてゐる。而も大學、専門學校當局の中には、入學當時における彼等の日本語學力につき充分に詮衡せず、また入學後の指導についても何等施設あるを聞かない。斯る無責任な方針は學校經營上の考へからか、或は容易に入學せしめさへすれば日暹の親善になるとでも考へてゐるのか知らないが、將來日暹親善關係に憂慮すべき影響を與ふるものだと思ふ。斯る方針の下に入學せしめた結果は、單に彼等をして吾國における學問の權威を輕視せしめるに至つたのみでなく、留學生の眞摯な勉強態度を失はしむるに至つた。一方學生側としても學資の關係上永く留學出来ない事情の者もあらうし、本國において八年制中學校を卒業した彼等にとつては、年齢等の關係上、入學を急ぐ者もある事は否めないが、日本語習得の困難な爲に彼等の研鑽の自由を奪ひ、將來學生が歸國後、果して如何程迄に吾國において研究した學問を基礎として、活動じ得るかは頗る疑問であり、延いては、暹羅國有識者達が歐米留國生と比較して、日本に留學した學生を如何なる目を以て見るか、之は數年後の近い將來において現れる問題として、非常な關心を持たざるを得ない次第である。

日本留學の學生には歐米留學の學生に比して日本語習得といふ大きなハンデイキヤップがある。これは彼等にとつて非常な負擔には違ひない、ツラン語系に屬する孤立的な日本文法は、彼等の理解し難いところで日常の會話へ満足でないものが、現在學校に於て、大鏡、源氏物語、或は論語、孟子さへ他の日本人學生と同様に勉強し試験も受けねばならぬのである。日本に來て以來、半年や一年位日本語を勉強した程度の語學力にとつて、之は不可能でなくて何

んであらう。文部省當局も斯うした事情を等閑に附してゐる事は外國留學生に對して餘りに無茶過ぎはしないだらうか。

併し乍ら、一方、日本語習得の困難は容易に除き得ないものとすれば、適當な對策を講じ遼羅國留學生をして遺憾なく吾國における研學の素志を達せしめ、歸國後における彼等の活躍を充分ならしめる方法を、急速に具體化すべき必要があると信する。滿洲國、中華民國留學生等の同文化民族に對する日本語教育機關は既に數多く設けられてゐるが、之と同様に累年その數を増加してゆく遼羅國留學生に對し、特に彼等の爲に日本語教育機關一大きな意味においては遼羅留學生指導機關を設立して實に日本語教育を施すばかりでなく、進んでは正しく日本を理解せしむる様適當な指導方法を今日において講ずる必要があると思ふ。

○ 遼羅學校を求む

理想的に云ふならば、遼羅國の中等學校において正科として、日本語を教授する案を實現するやうな運動を起し、相當の期間本國において日本語を教授する一方、盤谷市に日本文化研究資料並に圖書室を設置して、彼等が日本語及び日本の研究をなし得る機會と便宜とを與ふべく、また同時に、日遼辭典の編纂を一日も早く完成すべきである。日遼親善を説く以上、東亞の盟主を以て任する日本、先進國と自他共に許す日本がこの程度の施設實現に寄かであつてはならぬ筈である。兩國の軍事提携は政府に委せればよいが、經濟的提携、文化的提携は政府ばかりでは充分でない。時として政府としてやり難い場合もある。どうしても民間先覺者に俟つ外はない。藝術交聯もいゝ、使節團派遣いゝが、さうした一時的な事の外は將來兩國提携の確固たる基礎は、今日から教育を通じて築かねばならないと信

する。二百名に達する官私費留學生の教育に從事した自分の經驗から見て、遼羅國留學生は彼等の國民性並に、言語學的相違から他國留學生に對すると同一方法による教育を爲し得ないし、各國留學生と一堂に會して施す總括的な教育も亦、不適當であると考へる。

自分は豫ねゝ、家庭教師による教育或は彼等の留學の目的からして單に實用的會話教育をのみ目的とする日本語學校等の教育では不充分であり、日本語の様に習得に多くの困難を伴ふ國語を急速に習得せしむべき方法としては、兩國政府當局の連絡の下に相當強制し得る立場を附與されて教育を施すのでなければ成功しないとの見解を持つてゐたが、今回實地に官費、私費兩種の遼羅留學生の教育に携つた經驗からみて、この見解は正しかつたと信する。如何なる種類の官費留學生であるか、又彼等が如何なる研究をしてゐるかは紙上に發表する自由を有しないが、正味約六ヶ月の日本語教育の後に相當難解な専門的學問を日本語で授業を受け、それを理解し得ると同時にその答案は漢字を使用した日本文を以て書いてゐるのである。語學習得には遅きに失した年齢の者であり、約五分の四是遼羅國の中等學校二、三年修業程度であつたに拘らず、何故それ程時間短縮し得たか。それは彼等が眞に遼羅の國力伸張の理想に燃え、研學の重責を自覺し、孜々として勉強した結果もあるが、一つに統制ある強制教育の賜に外ならない。

斯くして、實際問題として、學生達が少しく日本語研學の困難を感じる時は、學習に絶望を感じ或は倦怠を感じ

て他國に學ばうとする者が出來て來たり、或は容易く入學させてくれる學校に入つて本國を出發した當時の決心を變へて了つたりする。之は實に由々しい問題ではなからうか。又家庭教師の素養、學力等も相當考へねばならぬ問題で個人があらゆる學課を指導してゆく事は不可能である。

今直ぐに、暹羅の學校において日本語を正科として採用するに至らないとしたら、兩國當局者の諒解の下に相當強制し得る學校を日本に設立する事が焦眉の急であり、暹羅政府は私費留學生であるが故に干渉し得ない場合もあらうが留學生はその機關で必ず一定の期間嚴格に日本語を勉強する事を要求し、日本の各學校當局も其處で勉強した學生に對して多く特別な便宜を與へる様な方針を探つたならば、相當短日の内に語學力を伸し、從つて彼等の日本留學を無意味に終らしめる様な事はなからうし、假令留學生にとつて一時は苦痛であつても、永く日本語の難點に悩まされる事からは救はれる筈である。又この教育機關において、斯うした入學前における基本的な日本語の教育ばかりではなく、入學後に於ける研學を全般に涉つて眞面目に指導し、語學の難澁な爲に妨げられる彼等の理解を補ひ乍ら指導して行く事が必要である。

本當に日本に於て、受ける學問、技術を理解し、そしてそれを將來本國において生かして貰ふやうに、日本人として助力すべきではないだらうか。眞に兩國永遠の親善を生む爲めに日本暹羅兩國當局の英斷的方法を望むと同時に學生にもこの苦しみを堪へて貰はねばならぬ。それが兩國繁榮の爲めでもあり、東洋に於ける友邦關係を確固たらしめる途でもある

○先進國民の義務

もう一つは官費留學生の集團的教育については政府も格別な取計らひを爲し、之等の學生と關係のある各會社も至れり盡せりの便宜を與へ、我國の各種の施設、文化機構の各層に觸れる機會も多いが、慘めなのは私費留學生である。それは組織を持たぬ爲である。數年間日本に在留しても、碌な工場見學すらも出來ないのだ。暹羅日本の片貌にさへ觸れる機會もなくて故國に歸らねばならぬ。果してこれでいいだらうか。學生が個人的資格で、而も私立語言學校程度の生徒では見學等も不可能な場合が多い。どうしても兩國政府の協力によつて作られた學生指導機關を通じ、彼等の留學を無意味に終らしめる事なく名實共に成果を挙げしめねばならぬ。彼等と雖も將來は對日輿論を生むものである。官費留學生のみによつて輿論が生み出されるのではない。而も現在の留學生達は日本が聯盟脫退以後急激に擡頭した日暹親善の風潮に乗つて留學し、先進日本について學ばうとするものである。一面此種の留學は今のところ試験時代の感がないではない。今にして眞面目に彼等の指導について考ふる所がなければ、この親善關係もいつか終息すべき事を惧ねばならぬ。

最後に、教育者として學生に對する態度、大きな意味においては日本人として暹羅國人に接する場合、日本人は如何なる態度をとるべきかについて特に重要な點について自分の感じた事を一言したい。

一九三二年六月二十四日の革命以來こゝ五ヶ年の間に起つた目まぐるしい政變、そして數百年の常夏の夢を破つて新興暹羅を建設しようとする青年群が東邦の先進國、日本を慕つて我國に學ばうとしてゐるのである。嘗ては、ソコタイ大帝國を建設したラムカムヘン大帝、カンボチヤを征服して暹羅統一の偉業を了へたタクシン、近世においてはビルマを破り、柬埔寨を攻略したラマ二世等と幾多の英君を出した歴史を持つ彼等である。我々日本人が大和魂を持つと同じ様に、彼等の血には暹羅魂とでも云ふべき「暹羅の血」が躍動してゐるのである。立憲革命に成功した彼等は經

濟に、教育に、國防に全面的躍進を企圖して近代國家としての威容を整へようとしてゐるのだ。この場合日本人たるもの、謙譲な氣持で暹羅國人を指導すべきではなからうか。如何なる事があつても彼等の自尊心を傷ける様な言動及び指導はいけない。

七十年前新興日本の建設に携つた明治初年の人々を思ひ浮べよう。當時の先輩はたゞ我が國が歐米諸國に比すべくもない文化過程にあつたとは云へ、烈々たる國家意識と誇りとを胸に祕め、膝を屈して、先進歐米國に學んだのだ。新興暹羅の人々も亦然りである。親切にする事は云ふまでもないが、友邦シヤムの爲に我等は特に謙譲な態度と熱とを以て指導に當らねばならぬと信する。私は朝に夕に彼等に接し、心情を吐露して語り合つてみて、物の見方、感じ方ににおいて毫も我々日本人と相異がない事を知つてゐる。我々が日本人としての自負心を有すると同様に暹羅人も亦彼等の故國「タイ」に絶大な誇りを持つ。風俗習慣等こそ多少の相異なる點があつても精神は同じである。之が一番重大な點であると思つた。言葉の行違ひから来る少々の誤解は問題ではない、要は我々が彼等に對する根本的な態度である。彼等の習慣を無視し、たゞひ善意からとは云へ餘りにも日本人的な考へで一切を律する事は避くべきである。我々が本當に熱を以て而も猶ほ謙譲な態度を失はないならば、誤解があつてもやがて感謝に代へられる——私は幾度かさういふ経験をした。

○ 親善の爲の急務

總體的に云へば、暹羅國の學生は非常に温順であると云ふ事が出來る。暹羅の國民性にしても盤谷市附近に多く見られるコンタイ系の温順な、どちらかと云へば主情的傾向の多いのに比して、東北地方の堅忍不拔なラウ人等の性情

もあり、一概には云ひ難いと思ふが今まで自分の経験した被教育者としての學生の態度は日本の學生に見られない程温順であり、相當の強制的教育に立派に堪へ、そして師に對しては非常に禮儀正しいとの印象を受けた。

それは一つには小乘佛教國民として、宗教的儀禮の訓練を受けているところも看過し得ないであらう。然し師と親に對する禮の正しい彼等の態度は、我等日本人學生が學ぶ點ではないかと奥ゆかしく思はれた、禮讓の國民である。

次に暹羅國民性のうち特筆すべき點は、非常に激し易い性質である。熱帶氣候の影響、同時に熱帶國民の一般的嗜好である刺戟性香料を多分に入れた食物等をとる關係もあるであらう。感情の激發的なものを認めるが何時までもそれにこだはる事は無い、或る意味において自分の感情に對して正直である。従つて何等かの誤解等によつて彼等の感情を刺戟した時一緒にになつて怒つてはならない。靜かに冷靜になる時を持つ必要がある。暹羅國人の此性情が物に飽き易いといふ評を招く原因で幾分さうした傾向がない事はあるまいが、感情的であると云ふ點に原因すると考ふべきである。良きのとづりたま。大陸、大洋、大河、山脈、森林、草原、國境の守り手千葉の開拓者である。政府

一國が他國との密な親善を永遠に持續しようとする時は政府當局者の斡旋ばかりでは充分でない。場合によつて民間が主導的運動を起さねばならない時が多くあらう。又兩國親善關係が意外な所から破れて行く場合がある。自分が現在日本に留學してゐる多數の暹羅國留學生について觀察する時、現状のまゝを以て進むならば、將來における兩國親善關係が暗影に掩はれる時が無いと斷言し得ないのである。今日こそ之が對策を講ぜねばならぬ秋である。(完)

○暹羅の變遷

サー・ロバート・ホーランド

この記事は四月發行の「アヂアチックレヴュー」に掲載されたものである。

暹羅の東西は約五〇八哩、南北一・一三〇哩、面積は約二三〇・〇〇〇平方哩である。三十餘年前に右岸の或地域が佛國に占領されてしまつたが、大體、大メーコン河が北と東の國境に沿つて一千哩の間流れてゐると云へる。暹羅の高地をなしてゐる西部は山の連りであつて、更に南方に走つて、馬來半島の中央山脈となつてゐる。

暹羅の北部は、南北に平行の低い山脈が連續してゐる。その間から四つの川が流出して主なる水路をなして、國の中央で合流してゐる。これがメナム・チャオ・ビヤ川である。暹羅の東部は不健康地で、人口が稀薄な、低い高原である。この地方は季節風期には大洪水に支配されるし、暑期には甚しく乾燥するからである。中央暹羅は王國の心臓をなしてゐり、人口最も稠密で、豐穣な地方である。その西が高い山で、南方へ延びて海岸に至る緩やかな傾斜地に境された一大平原である。洪水期にはメナム及び他の諸川が堤に氾濫して、平原一帯に夥しい泥土を沈積せしめて、絶えず田野を肥沃なものとしてゐる。斯くて暹羅米は世界市場に名聲を博してゐるのである。

馬來半島を形成する南暹羅は、低い傾斜地の間に狭い積沖土の平野があるとは云へ、大部分は密林で覆はれた狭い山地であり、半島の兩岸には島が散在してゐる。

暹羅人はその國を永年 Muang Thai 卽ち「タイ族の國」と呼んでゐた。タイとは「自由」の意である。

タイ族の起源は明かではないが、跡くも二千年以前に南支那からこの種族の移動が行はれた様である。それ以後も同じ源から多分浸入の波が押寄せて來たであらう。その有名なものゝ一つは十三世紀の中葉、忽必烈の壓政の爲に來つたものである。

古代史

タイ族はクメール族から多くの注目すべき文化を吸收した。クメール族は、多分その先祖が中央亞細亞の高原から移住して來たと想像される不可思議な民族である。クメール族は Angkor (アンコール) を都として大帝國を建設した。そして數世紀間タイ族を奴隸としてカンボジヤ・暹羅・更に遙か遠隔の地にまで印度教や佛教の壯麗な寺院を建設した。その廢墟は現今に至るも尚残つてゐる。けれども、結局クメール族は征服され、大部分は根絶して丁ひ、タイ族の爲に南方へと驅逐されたらしい。タイ族は十三世紀の末葉迄には、メーコン川の西方大部分を領土と爲して丁ひ、

しかし分つてゐる限りに於ては、幾多のタイ族の諸侯がメナム川の流域、アユチアを都とする一王國に統一されたのは十四世紀の中葉以後の事である。それから四百年後にアユチヤは緬甸人に襲撃され破壊された。市中の掠奪の爲に王國古代史の大部分が失はれたに相違ない。然し僅かばかりは残つて、盤谷に建設された新帝都に運ばれた。此處に勝利を得た遺臣がチャウクリ王朝と云はれてゐる現在の統治者の朝廷を開いた。

葡萄牙人は暹羅と交通を開始した最初の西洋國である。一五一一年アルブケルクのマラッカ浸入後に到著して漸時和蘭人に驅逐せられる迄、百年以上暹羅全土に有力な影響を及ぼしてゐた。英商人は十七世紀の初期に渡來し好意を

以て、歓迎されたが英國の利益關係が馬來半島及び暹羅に於て最も重要なのは和蘭と條約締結後の一八二四年以後の事である。英暹間の最初の親善と通商の條約はペーネー大佐に依つて一八二八年に署名された。佛國と暹羅の交通は一六八〇年に初まつた。當時ホルコンと云ふ希臘の探險者の提言に従つて暹羅の使節がルイ十六世に派遣された。ホルコンは單に才能のみで暹羅朝廷で重要な地位を占めてゐたのだが、遂には佛國の密通の嫌疑で痛ましい死刑に處せられたものであるが、その壯麗な邸宅は今尙 Jopburi (ロップブリー) の古都に残つてゐる。

日本と暹羅との交通は一五九二年から一六三二年頃迄活潑に行はれた。其後多數の日本移住者は殺されたり、驅逐されたりして了つた。

對英關係

諸外國と暹羅との初期の關係に依つて、十九世紀初頭迄のこの國の歴史を興味ある側面史に依つて知る事が出来る。「シヤムーズ・ホワイト」の題の下に最近發行された書籍は讀む價値がある。それはホルコンの下部にあつて暹羅のテナッセリム地方の事實上の長官を爲してゐた一英人の事業報告書である。暹羅政府は彼の侵略癖によつて東印度商會と關係を持つに至つたのである。メルグイ列島のテナッセリム港に住んでゐた幾多の英人は一六八七年、暹羅人に殺戮された。ホワイトの横暴と苛酷な待遇がその大なる原因となつたのである。しかし、ホワイト自身は可成の戦利品をもつて英國に逃亡した。

英領と暹羅の通商は十九世紀を通じ頻繁に行はれ、一八五五年にジョン・ブラウニング卿署名の條約が締結され、それに基いて暹羅は整谷に英國の領事を任命する事を承認し、ブラウニング卿により完全な治外法權を行使された臣下

を暹羅に派遣してゐた他の列強も同様の條約を直ちに締結した。その結果支那を除いて（支那は領事を代表として派遣した事はなかつた）暹羅在住の外國人は自國の領事裁判に依つてのみ刑事訴訟事件を審理されたり、民事訴訟を提出され得る事となつたのである。

十九世紀の末葉にかけて佛蘭西は、佛領印度支那の一部分、安南に屬してゐた領地を、暹羅が占領したとの抗議をなした。紛争は一時暹羅に非常に困難な結果をもたらすかと思はれたが、終に暹羅が譲歩をなし、多くの領地や租界を佛蘭西に與へた。一八九六年には英佛協定が締結せられて、暹羅の中央部が中立化され、暹羅の獨立は二大強國に依て保證されるに至つた。

更に一九〇四年及び一九〇七年に佛蘭西との條約が締結せられて、終に暹羅と佛蘭西との境界線は定まり、暹羅に於ける佛人の治外法權は或程度減少した。

現今の地位

一九〇四年に英國との條約に依り、暹羅は人口約百萬を抱擁する南部暹羅に位する馬來三州（英領馬來の丁度北にある）に對する宗主權を拋棄して之を英國に譲渡し、代償として英國は治外法權撤廢を暹羅に許した。

大部分は一九二五年であるが、歐洲大戰後に締結せられた諸條約によつて、暹羅法典制定發布後五ヶ年間移審權を留保する以外大體列強は暹羅法權に服從する事を個々に承認した。唯英國の場合には次の様な了解が成立してゐる。暹羅は英人司法顧問を頭とする英人法律顧問の一團の使用を繼續して、英人の關係する事件には特別な裁判所を設けて彼等が裁判を行ふ。控訴院及び大審院に就ても同様である。而してその期間は暹羅に居留する全外人が暹羅人の裁

判官に依り、暹羅裁判所で暹羅國法典に従つて裁判せらるゝに至る迄である。

暹羅を訪問せんとする誰でも次の様な少しの知識を入國に先立つて持つてゐることは興味があるであらう。航空路に依るのでなければ、暹羅への最適の方法はビナン經由の汽船に依るものである。ビナン島から本島に渡ると愉快な國際列車で二十七時間後には盤谷に到着する。最初は廣漠たる護謨園、及びコ、椰子に囲まれた稻田、次に英領馬來の部落が其處、彼處にある密林を通過する。暹羅領土に入ると場面が次第に變つてしまふ。鐵道は森や林が散在し、平野から砦の様に突兀と出てゐる石灰岩の崖に隔てられた、果てしも知らぬ耕地や牧野の間を走る。石灰岩は屢々験あらたかなものとされてゐる夥刻で蜂の巣のやうになつてゐる。間もなく密林と山地の地帶に入り、遂に鐵道は再び海岸を走つて砂濱や暹羅灣の碧海がちらり見ええる。海岸を離れた地帶は石灰岩の崖で、馬來半島の北端に至る暹羅と緬甸とを境する山脈を経どつてゐる。

ホアヒン

曉に國際列車はホアヒンと云ふ小さい海岸驛に着く。此處には立派な宮殿があり、海岸近くにはゴルフ場がそばについてゐる美しいホテルもある。

時間があるならばホアヒンで下車して、海月さへ嫌でなければ、熱い海に浴して四五日香氣に過す事を御奨めする。海月は時に大變多くてその分泌物が痛くて仲々治りにくい傷となる事がある。ゴルフの他にホアヒンから行ける愉快で興味深い遠足地もある。

盤谷に着く前に、國內政情に關する若干の概念を旅客が持つてゐるのは望ましい事である。

盤谷に帝都が遷つてから、暹羅は非常に有能、英明の諸王に依り統治されてゐる。その最も名高いものはチュラロシンコルン王（一八六八——一九一〇）である。この王の治下に暹羅政府は近代化され、行政の合理的、效果的組織が全國に實施された。鐵道の建設が開始され、電信機關が組織化され、陸海軍が甚しく改善せられ、社會的、教育的改革が開始され、國家の財政が健全な基礎の上に置かれ、藝術並びに科學、特に戯曲が保護された。そして暹羅は西洋文明に對して門戸を解放して、東洋諸國に模範を示した日本の發達の例に従ひ初めた。

慈悲深い君主國ではあるが、暹羅は專制政治を續けてゐた。國王は十名の大臣よりなる内閣と勅選四十五名よりなる立法會議をもつてゐたが、實際上理論上共に獨裁君主であつた。王は絶対否否權を有してをり、法律の創定は大部分その掌中になつた。一九一五年プラチャヤティボック王が即位せらるゝや、代議制並に地方分權の爲或る種の意志表示をされた。國王の宣言に依るも同王が國民の利害及び福祉に關して國民自身發言權を有する政治組織に改革するの意圖のあつたことは明かである。

所謂革命

しかし國王の意圖を實現する爲めには中々の困難が横つて居た。そこで國王が立憲政治樹立の準備の爲の計畫を發表されない先に、所謂「盤谷革命」が一九三二年六月二十四日に勃發して遂に民主的人民黨が政權を掌握するに至つた。

最初革命の指導者等は國王並に王族に對して幾分禮儀を缺いた取扱をなしたが、後に至つて國王は立憲君主國の王として準備をされ、民主主義に對して贊意を表されてゐる事を知り、又全國民はチャツクリ諸王、そして特にプラチ

ヤティボツク王の政治的才能に恩恵を受けた事を反省して、王に對する非禮を謝した。王族は從來の高官を奪はれて新しく大臣が任命された。王族は政治の國外に超然たるべきだと主張され、最も自由なモデルに倣つて憲法が科學的方法で編纂された。然し數ヶ月の後、保守的な老闘員に支配されてゐた内閣は憲法の或條項の中止及び國民議會の停止をなし、民主的政黨の指導者を歐洲へ追放した、斯る事は盤谷の少壯政治家並に陸軍の或サークルに著しい不満を與へた。この様にしてクーデターが準備された。

それは偶然私が暹羅政府の司法顧問としての就任と同時に起つた。一九三一年六月十九日、私は内閣總理に敬意を表するために赴いた。この總理は立派で教養ある紳士であつたが、陰鬱で放心した様であつた。私は其後は彼に會はない。大臣の陰鬱は来るべき事變の暗影であつたかも知れない。クーデターはその翌日の六月二十日に勃發した。朝私が大臣の所に行つた所、兵士や機關銃を滿載してゐる運搬自動車が入口に見え、大臣は役所から移つてしまつてゐた。

歴 史

變革は流血の慘なくして完了した。大臣の一部は銃剣や機關銃に威壓されて辭任し、他のものは進歩的思想を持つてゐる卓越した將校ビアバホン大佐を總理大臣としてその下で政務を行つた。憲法が復活せられ、國民議會が再び召集され、巴里に追放される指導者ルアン・プラジットが迎へられた。吾々は直ちに激務に從事した。政府は内閣各省の長い改革表を作成し、それは出来るだけ急速に議會に提出する事が要求されてゐた。けれども數ヶ月後には暴力的な障害が起つた。プリンス・ボヴァラデチが指導者となり、陸海軍に可成の數の支持者を以て内亂を起した。盤谷

在住の外國人は、郊外から近づいて來る攻撃の砲聲を聞いて驚かされたが、その他の日常生活には何の變りもなかつた。やがて叛亂者は北方へと驅逐され、砲火や銃聲は次第に消え失せた。そして叛亂が勃發し、一時は成功するかと思はれたが、決定的に失敗してしまつたと云ふ事が、一二週間位になつて明かとなつた。

けれどもこの挫折の爲に、政府は非常に困難な問題に面當した。國王は廷臣と共に英領に接近してゐるシンゴラに引上げられ、陸海軍將校並びに民間政治家の中にも、叛亂者に同情を持つて居るものが多くあることが明かであつた。牢獄は叛亂者及びその嫌疑者で満員となり、内閣の最も經驗に富む閣僚は病氣を理由として辭職した。一體これらから何が起るかと云ふ不安が一般に流布してゐた。

もしも國王に全然反抗したならば民心は國王の意に従つて行くであらう、と云ふのは、暹羅では統治者に對する忠義の念は大變根強いものであるから。もしも拘禁者を無慈悲に取扱ふならば、廻る因果の小車が後に同じ境遇に彼等を置く様な事があれば、責任者達は決して容赦はされないであらう。若しも舊制度に參加してゐた事によつて、極右の嫌疑があるすべての陸海軍士官並びに内閣官吏を一掃したならば、政治機構は甚しく弱いものとなり、而も新しい不平派が成立するであらう。そして遂に、議會は暹羅國民の代表として、國家行政の如何なる法令をも充分に審議する事が出來なくなつた。

實 際 に は

内閣は斯る問題を熱心に而も慎重に取扱つた。人民黨と生死を共にせんとする、最も有能な暹羅の王族プリンス・ヴァンバイデと司法大臣ビア・ニチサストラよりなる代表を國王の許に派遣した。そしてこの二人は長い交渉の結果、陸

下の盤谷選御及立憲君主國の君主としての奉戴に成功した、君主は以前と同じ精神でその任務を果され、拘禁者の二三の者に死刑が大部分の者には長期の禁錮宣告がされた。けれども死刑は直後にも、それ以後にも執行されなかつたし、多くの嫌疑者は釋放された。憲法に對して忠誠を疑はれる軍隊並に民間の多くの官吏が更迭された。けれども免職ではなく、恩給付の隠退である。新しい時代の進展を達成し得る狀態に大衆を教育する爲に、巧妙な宣傳が開始せられた。多くの必要な改革が急がれ、議會に於ける不満の充分な討議が獎勵された。それと同時に憲法を犯す危險性がある如何なる運動も嚴重に抑壓せられた。憲法の寫しが祭典の様な儀式を以て全國的主要都市に傳達せられた。そして民主主義的政府及び社會改革に對して一般民衆の關心を喚起する爲に、凡ゆる努力（特にラヂオ放送によつて）がなされた。勿論斯る運動は盤谷に於て始められた。やはり奥地の都市には餘り反響がなく、しかも田舎の人々は政治には無關心であり、平凡な日常生活が中央政府の職員の更迭に依つて影響されやうとは思ひも及ばぬ事であつた。簡単に云へば第二の革命が起つた後に、北部遷移を旅行してゐたヨーロッパ人は、農民に「盤谷の人々は何を争つてゐるのか、そして何故非常に興奮してゐるのか」と聞かれた。

農 民 と 政 治

交通が不便で民衆が抑壓されて居らず、森林や米田からのとぼしい生活で満足してゐる地方に、抽象的な觀念に對して熱意を起させる事は容易な事ではない。

けれども政治的變革が本質的な理由で必要であつた事は疑問のない所である。

革命の起るより以前國王は聰明なる政治家的見識を以て西洋諸國の例に倣ひ民衆が政治及一般の福祉に關する政策

に就て發言權を有する如き立憲政治の創設を計畫されてゐた。國王は又能く皇族が權力、特典及び報酬に於て不當に多分を取得し居り斯かる政府は何時か顛覆の危険にある事を認識して居られた。けれども陛下のよき意圖は人民黨の諒解するところとならず、焦躁なる人民黨の指導者は國王の態度を以てなまねるしとし遂に自ら手を下して政體の變革を遂げたのだ。斯る指導者は西洋の教育に強く同化された聰明な人々であり、その多くは留學生として、ヨーロッパや米國に於て實際に深く教育されてゐた。官僚的な貴族が内閣にある限り閉めだされてゐる國務の権要の地位を彼等は當然占めるべきものと考へて居り、國を衰亡から救ふ爲に、長い間必要であった改革を遂行すると云ふ熱望に燃えて居た。新酒は舊革に發酵してゐた。抑壓せられた感情が大きな危険を避ける爲、解放の道を見出さねばならない事は當然な事であつた。大都市には既に共產主義の巧妙な活動のきざしがあつたのである。

時代の要求並に釐革を要する從來の弊習は人民黨が依て以て政策を支配すべしとして、富明せる六大原則及憲法の條文に依り或程度迄窺知する事が出来る。

「六 大 原 則」

その六大原則とは次の如きものである。

1. 権利の平等
2. 自由
3. 國家の獨立
4. 國際法並に國際的秩序

5. 経済的進歩

6. 教育

政府は人民の権利の平等及自由は憲法夫れ自身並に政府が爲したる基本的宣言及び其の人民議會に於て與へたる認可に依て確保せられるを主張し、而して内閣は過去三年の間に行政上の諸改革並に立法の方針に依つて殘餘の條項をも着々遂行した。

自分は今、彼等がなしとげた成功について評價し様と試みない。

更に物語りを續けよう。國王は數ヶ月盤谷の宮廷に滯在された。國王の滯在は政府にその勝利を強固なものとするに絶大な支持を與へ、疑ひもなく人民黨の急進派が叛亂の拘禁者に苛酷な復讐をなすことを抑制した。此の危機に際し國王の首府還御は革命の主腦者に、國王はプリンス・ボウアラデツジが抱有したる如き專政君主制を復活するには反対せられて居ることの證據たることを悟らしめ、且又國王が公衆の面前に綱はれた際公衆が國王に對し表現せる忠誠及び愛敬の態度より觀て、君主の存在は當分憲法上是非共必要であることを悟らしめたに相違ない。但し、交戦中國王が英領の國境近くに隠退せられた事は、多分貽明な一方法であつたと思はれる。と云ふのは、國王は一時運動を抑制する様な何かの政黨に人質となられたかも分らないし、又多分國王の存在を危くする様な政治舞臺上に登場せしめられたかも分らないからである。

但し、陛下の健康は憂るべき經過を辿つてゐた。是より先き國王は可及的速かに白内障の手術を片方の目にうけられねばならぬ事を警告されてゐた。蓋し内亂の幾多の事件は彼の精力を保有して置かねばならぬ時に、甚しい過勞に陥らしめた。

平穩な状態

非常に切望されてゐた平穏な状態が國王の暹羅への還御によりもたらせられた後には、國王は不平の目標となられ不平分子は王位を危ふくする謀を、自分に集中するであらう事を恐らく悟つて居られた。國王の和解の申込を無視してゐる開議の決定に對して、國王は何等の直接的な影響をもあたへられる事が出来なかつた。そして國王は一時、國外に行つたならば、暹羅及び暹羅の君主政治にとつて最善の道をとると信じて居られたらしい。

どんな場合でも、例へ上手な専門醫が得られても盤谷で白内障の手術を受けられるのは危険であつたと思はれる。その理由は醫師の言によれば手術の爲に必要な準備と考へねばならぬ、數ヶ月の休養と、體の恢復を、盤谷では得られないであらうから。

斯くして國王は一九三四年の春歐羅巴に出發され、攝政議會が任命された。

暹羅人は色美しい劇的な儀式の配列に特殊の才能を持つてゐる。盤谷の河で行はれた、陛下の出發は忘れ得ぬ光景であつた。外交團、王族、貴族、高官がその家族の婦人と共にきらびやかに盛裝して、細長い杖を支へとして、彩色した瓦ぶきの高い屋根のある高樓の上に揃つた。屋根のない廣場の邊の端には、あたかも教會の内陣の様に多くの蠟燭を點じ、佛像のある祭壇が並べられ、その下の兩側に僧侶が太い聲で御經を唱へ、扇を動かせながら、結跏して座つてゐた。外側の整然たる一郭には身分の餘り高くなない人々が大テントの下や野天の椅子に腰掛けて集合し、船着場の一郭には人民會議の議員の席が用意されて居り、議員等はその平常服で茶つぱい一點をなししてゐた。儀仗兵が船着場に至る道に整列し、軍樂隊がその背後に並んだ。

最後に國王が滿艦飾の盛装で王妃の手を取つて出御された。廣場を通り、慣例の儀式を執行し、僧侶に贈物を差出された後に、兩陛下はしばし、祭壇の前の座布團の上にひざまづかれた。近しい友達に送別の挨拶をされて後兩陛下は王の傘をさしかけられ、朝臣を従へて、しづくと船着場へと歩まれた。兩陛下が快速の蒸氣舟に乗られて後、船はすこしの間川上へとのぼり、そして急に廻轉してこの時に堤に集まつてゐた群衆の前を走りすぎ、川下に錨を下してゐる汽船へと、全速力で走り過ぎた。この様にして、プラチャテイボツク王は別れを（多分帝都整谷への最後の別れとなるであらう）告げられた。

一年後英國に在住中の國王は譲位の正式文に署名された。その理由は王に取つては非常に重要な事と思はれたのであるが、王は叛亂による犯人に對して、死刑執行命令に署名する事を拒絶され、政府が遂行する政策に對し、人民に政治的な自由を與へる事に反対するとの理由で抗議をされてゐたし、人民會議の議員の半分が政府（即ち權力を握つてゐる政黨）により指名されると云ふ憲法の機構に、強く反対して居られ、陸海軍士官の政治的實務に參與する事に強硬に反対して居られた。

政府は國王の不認可を無視して、死刑執行令狀に王の同意を必要としない法令を通過させ、他の事項に對しても國王の希望に従ふ處置を取らなかつた。疑もなくその理由は、單に政府の組織のみではなく、指名議員よりなる從順な一團を通じて會議の決議にも、祕密統制に依つて、彼等唯一の希みである秩序の維持及び權力の掌握の爲にはこの事が必要であると確信してゐたからである。

退位

陸海軍の一部の者は王の還御をやはり欲してゐた。そして若し自由な票決権があつたとしたらば、多數の人民もそれに賛成したであらう。けれども政府は擱坐の危険なしには船帆を修理することが出來ぬ羽目となり遂に既定の航路を取つた。政府は陛下と協議する爲、使者を立てたが事實上和解の可能性は何もなかつた。國王が豫期されて居るやうな決定的な要求に對する決定的な返答を得られる事が出來なくなつた後、一九三五年三月二日、國王は國民への公開の宣言と共に退位を發表された。王の意見は次の様に述べられてゐる。

「政府及びその政黨は余が抱有する概念及び信念に依る國民の個人的自由及び平等の主義とは兩立し難き政治方法を採用してゐる。故に余は如何なる政黨も余が名を冠して憲法を運用する事に同意し得ない。」

斯くて國王は國王として有せられてゐる凡ゆる權利を拒絕され、従つて王位繼承法令に依る、王位繼承者の指名権をも放棄された。退位は承認され、王位繼承の第一位にあらるゝプリンス・アンダマヒドン王子が、國民會議の承認の下に内閣により王位に就くことになられた。その間整谷の状態は殆んど平常通りに曲りなりにも復してゐた。政府の機能は相當な能率を上げて運用され、人民は恒例の祭禮や休日を守り、地方民は常の如く平穏な軌道にのつて生活をなし、整谷に住む外國人はその業務を妨害される事なく遂行し、習慣となつてゐる社交的儀式を行つてゐた。けれども第一に商業の沈滞に依り新制度の安定に對して、疑問を有する、幾多の不満を抱いてゐる人々があつた。幸にも成功しなかつた國防大臣アルン・ビアン・ソングラム氏の暗殺未遂や政府要人及び卓越せる將校の暗殺を目的とする失敗の陰謀が一時世の中を暗くしたが、ビア・バホン大佐が總理となり、その下に内閣の再組織が行はれた後、一

二つの特殊點

二つ 特殊點

政治研究家に特別關心を持たれる二つのものが暹羅にある。

その一は、支那人による徐々にではあるが確實な侵略である。支那から西方への人口移動は馬領半島の海岸に押しそせる潮流の様に永い年月中に流れ來り、最後には、暹羅の入江へと消え去るのである、それは二千年前に始まつた西支那からのタイ族の非常に目醒しい移住の成果にも比すべきものである、既に人種學上、商業上、社會學上の觀點からみて、重大なる成行を生じてゐる。然しこの事は短い記事の制限の下では記述する事は出來ない。その二は此處二、三年間の國家的發展によつて、諸列強國と暹羅との關係に生じた結果である。

遼羅人は西洋列強の援助と保護とに依つて得た利益に對して常に感謝の念を有してゐる。それと同時に、外國の温情は必ずしも絶対私心なきものでない事を知つてゐる。即ち例へば外國顧問僱聘の如きは非常に高價な方法である事を知つてゐる。故に新内閣の第一の野心は、勿論外國勢力の凡ゆる支配形態から自由になる事であつた。新制度が諸外國に亘して、遼羅の地位を向上せしめたと云ふ事を人民に明瞭にならしめ得た政府は、又人民の熱烈なる支持を得る所となるのである。従つてこの支持は、政府の存續を保證するものである。更に外交上の事件に依つて、今迄遼羅の外國政策の責任者では滅多に行はれなかつた様な通商上の利益及び他のものゝ増進が得られるかも知なれないのである。

英國と暹羅との結合

暹羅と外國との親善關係はクウダター以後はそれ以前と全く同じ立場に立つ事を期待する事は出來ない。けれども如何なる新しい親善が求められ様とも、又どんな契約が計畫されようとも、現在暹羅の運命を掌中に握つてゐる人民黨の指導者達は、暹羅と英國を結合した永年の利益と情誼の紐帶をゆるめる様な如何なる行動をもなす事を、決して望まないであらう事は、確な事と思はれる。

私は以前、暹羅の紳士が大の様に云つてゐるのを聞いた。勿論英語は暹羅の第一の國語である。疑ひもなく英國人は彼等の第二の國語とは思はれて居り、又國際事件の起つた時には、共同の行動を探る所の一致せる思想及び共通せる利害をもつてゐる。暹羅に相當年月住んでゐる英國民は暹羅の持つてゐる無比の魅力に大いにひきつけられており、暹羅で得た友人に、眞實で變る事のない愛情を持続してゐる。

英國人は東洋のどの國よりも暹羅に親しみを覺える。その理由はタイ族の現代男女の中に、スポーツであらうと、重大な事務であらうとも、娛樂や事業を共にする眞實の仲間を直ちに見出し、暹羅人の鄭重で、溫順な禮儀正しさにより、又その有してゐる卓越せる才能により英國人の尊敬と親交を得るであらうから。(一九三六年十二月十日)

雑報欄

○本協會近衛會長より日暹協會總裁暹羅國攝政首座アティット殿下へ銀製貢入獻上

昨年夏在盤谷日暹協會々長ビヤスリシチカーンパンチヨン氏より、我秩父總裁宮殿下へ暹羅國々產銀製貢入壹箇の獻上があつたので、其の答禮の意味で豫て近衛會長の名義を以て本協會より、アティット殿下が本協會名譽總裁に御就任御承諾を機會に、獻上品を爲す事に理事會に於て決議済であつたので、去る六月下旬純銀製「シガーケース」四分の一の美麗なる竹模様象眼七寸形箱壹箇を、外務省石射東亞局長を通じて新に赴任せらるゝ村井公使に托し獻上した。因に我秩父總裁宮殿下よりアティット殿下への御贈答品の儀は、宮殿下歐洲御旅行より御歸朝の上に行はせらるゝ事に宮家と打合せ済である。

○本協會々長近衛公爵組閣

去る五月下旬林内閣の總辭職に伴ひ、六月一日本協會々長近衛公爵に組閣の大命が降下した。公爵は拜受の上直に組閣に着手、同四日之を了せられたので、同日直に親任式が舉行せられたのは定に慶賀に堪へない次第であると同時

に特に本協會の光榮とする所である。

○近衛内閣成立に對する日暹協會の祝詞

本協會々長近衛公爵の組閣に對しては、當時直に在盤谷日暹協會々長の名を以て祝電を公爵の許に寄せ越されたが更に七月初旬同會長より別第一號の如き祝詞を寄せられたので、之に對し別第二號の如き挨拶狀を會長近衛公爵の名を以て、日暹協會々長ビヤスリシチカーンチヨン氏宛、在暹公使館經由で發送して置いた。

(別第一號)

拜啓陳者閣下ニハ今般

日本國人民

國會

天皇陛下ノ大命ヲ拜受セラレ内閣組織ヲ完了セラレ候趣拜承衷慶賀ニ不堪奉存候 本會ハ本月七日理事會ヲ招集シ小生ヨリ祝電ヲ發シ且ワ賀狀呈上仕ルヘキ様決議致候

日本國ニ於ケル暹羅協會長タル閣下カ内閣總理大臣ニ任命セラレ候ニ就テハ必スヤ日暹兩國民間ノ親交ハ益々敦厚ヲ加フヘク確信仕候

願ハクハ佛陀ノ加護ニヨリ閣下ニ祝福ヲ垂レ愈々御清邁ニ被爲渡世界人類ノ福祉増進ノ爲メ平和樹立ニ御精進被遊

候様祈上候

暹羅國日暹協會長

敬具

公爵近衛文麿閣下

(別第二號)

拜啓今般拙者 大命ヲ拜受シ内閣ヲ組織シタルニ對シ貴協會理事會ノ決議ニ基キ貴下ヨリ本月八日祝電ヲ辱フシ又書翰ヲ以テ更ラニ鄭重ナル祝意ヲ寄セラレ候段感佩ノ至ニ不堪候暹國ト日本トノ親交ヲ増進スルハ拙者年來ノ宿志ニ有之從テ貴協會ト我暹羅協會トハ今後一層相提携シテ兩國親善關係ノ益々緊密ニ赴カシコトヲ期待致候茲ニ不取敢御祝詞ニ對スル御挨拶ヲ申述候

昭和十二年七月七日

財團法人暹羅協會

會長公爵近衛文麿

暹羅國日暹協會

會長ビヤスリシチカーン、バンチヨン殿

○暹羅攝政府及内閣總辭職並に其復職に關する經緯

暹羅王室財產管理を内閣官内局より大藏省に移管するの法律案今議會を通過七月十九日公布せられたる處右移管決

定間際に行はれたる王室財產拂下手續上に不正の疑ひありとて議會に於て猛烈なる政府攻撃があつた。其の爲め内閣は七月二十八日に總辭職を爲し同時に右拂下を裁可した攝政府も首座アヂヤ殿以下二攝政も辭職を申出でられた、依つて議會は憲法の規定に依り直ちに後任攝政の選舉に着手し折角詮衡中であつた處一旦辭職せられた三攝政は軍部派の要請に依り八月一日其辭職申出を撤回すべき旨を議會に通告せられた故政局は一層渾沌たるに至つたが議會に於ては三攝政の辭職は既に確定せるものなるを以て假令三攝政を復職せしむるとても右は再選舉に依るべきものであるとの議論勝を制し八月四日前三攝政の再選を見、五日宣誓式を舉行越へて十一日議會は更にバホン前内閣を信任し茲に全く一段落を告げた。今回の政變が斯の如く龍頭蛇尾に終つたに就ては種々の観測が行はれ居る様だが之を文武兩派の相刻即ち國防長官ビブン對文治派プラヂットとの相刻の表面に暴露したるものであるとの観測は略其真相に近いものゝ様である。

此の事件に付て「盤谷タイムス」「サイアム、クロニクル」及新嘉坡發行「ストレートタイムス」の記事を綜合した臺灣總督府外事課發行南支及南洋事情九月號の記事は參照の價値あるに依り左に掲載することとした。

内閣總辭職の經緯

七月の第三週官報に、宮殿其他國家公共の用に供さるゝものを王室財產より區別して之を經濟省の管轄下に移管し、又國王の私有財産と王室財產とを區別せる王室財產法 (Crown Property Law) が公布され、即日實施を見るところなつたが、之に國王私有財産の賣却問題が介入して、政府高官の身邊に關する各種のゴシツブが喧傳され、遂に七月二十七日の國民議會に於て、ウボーン州選出議員ナイ・リヤン氏の執拗な質問があり、バホン首相が矢面

に當つて辯明に努むる等、議會に於て大論争が展開さるゝに至つた。

各種のデマが亂れ飛んで、政局の不安を孕み、傍聴席も超満員の興奮の中に、翌二十八日、本會議の定刻となるや、開僚席全部空席の裡に、議長に依つて内閣及攝政會議首座アティット・アーバー殿下の辭表が理由書と共に議長宛呈出された旨報告せられ、議場の内外に一大センセーションを惹起した。議長に依つて讀上げられたアティット・アーバー殿下の議長宛書翰は大要次の如きものであつた。

「昨日の國民議會に於て國王私有財産移管問題に關し余に向けられた論議は、余の職責上の名譽及威信を傷つくるものと思惟するが故に、余はデモクラシーの堅き信奉者として與論、即ち議會の聲に依つて行動するを義務なりと信じ、茲に攝政會議首座の地位を辭せんとするものである。」

内閣よりの議長宛書翰の大要是次の如くであつた。

「本日、我々閣員一同は以下の如き首相の決意を示す書翰を受領した。——議會に依つて疑惑視された國王私有財産の一部移管問題を因に、本問題が公正に闡明し得らるゝやう内閣は責を負ふて總辭職の舉に出づることを希望するものである。云々。……」

以上の報告に對し、攝政首座並に首相の決意を急ぎりとして、その願意を希望する意見を初として、各種の議が續出したが、討論約十五分にして議長は閉會を宣して同日の議を了した。

翌二十九日の議會に於て更に攝政會議の二議員の辭表が議長に依つて發表せられ、議會に於ては各種の私的會議に依つて政局の拾取に關する各種の論議が行はれ、攝政會議各員及開僚候補者の名も二、三問題に上つたが、外には條約改正を控え、内には經濟復興に關する幾多重大問題が横ばつてゐる爲め、此の政局を乘切る適當な人物な

く、政局の歸趨全く混沌として、國情甚だ不安なものがあつたが、八月五日、議會に依つて攝政會議各員の再選が行はれ、政局の安定に一大曙光を投するに至つた。然しへホン首相は本問題が完全に解明せられて、身の潔白が明かにさるゝに非ざれば、留任するを得ずとして各方面の熱烈なる要請を頑として斥け、議會には勿論、閣議にも、各種の私的會合にも一切出席しなかつたが、國民の動搖を憂へて八月六日、大要次の如き報告を横ばつてゐる爲め、此の政局を乘切る適當な人物な

く、國内各地の多數人士より留任勧告の希望を傳へられ、不宵に寄せらるゝ好意に對しては寔に感激に耐えざるところである。

然乍、一國首相の地位は暹羅國民並に海外各國に依つて是認せるべき一點疊りなき尊嚴なる存在でなければならぬ。不幸、最近内藏寮の處置に關し、議會の疑惑を蒙るところとなつたが、之は余の監督の下にある官廳であるが故に、余は議會に對し之が責任を負ふて辭職を決意するに至つたものである。本問題は、議會の要求あらば、如何なる調査に依つても摘正さるべきである。之に依つて余の潔白が議會の承認を得るに至れば、再び余の職責に就くことを敢へて辭するのではない。

因みに、余は國民各位に對し冷靜に國內平和の維持に努められんことを希望して止まさるものである。かかる國家非常の機に際しては、何人が首相の地位にあらうとも、愛する我等の國家國民に對して粉骨碎身して奉仕することに變りはないのである。故に、國民各位は吳々も現下の危險に對して冷靜に處理されんことを祈るものである。」

×

×

×

以上最近著の外字新聞に依る情報であつて、バホン首相は健康上からも早くよりその辭意が傳へられて居り、之を機會に暫く閑地について静養の希望が強かつたのであるが、八月十一日大朝紙に依れば、議會及攝政會議の決議

及懇請黙し難く、八月十日に至つて遂に組閣受諾となり、閣員の續編も本問題當面の責任者たる農相の更迭を見たのみで、全員居残りと決定、農相は首相の兼攝を見るこゝなつた。以上附記して詳報を待つこととする。

○暹羅國政府政黨結成不許可を決定

暹羅國人民議會議員一部の間に數ヶ月前より、政黨結成方に關し運動があり先般議員「ナイタイ」及五名は人民黨、又同「プラチヤラム」外二名は、勞働黨なる名稱を附したる政黨を假組織して、内務省に對して其の登録許可を申請せる旨報道せられたが、之に關し内務大臣は警察局長の意見を徵した上之を五月十九日内閣々議に附議した處、暹羅國民の政治教育が未だ政黨の存在を許す程度に普及し居らず時機尚早との理由を以て、右兩政黨登録不許可の指令を、申請者に對し發した趣發表があつた。

○盤谷に於ける華僑の日貨排斥

今次支那事變の勃發と共に盤谷に於ては、支那新聞の誇大なる記事に迷はされ同地華僑の日貨排斥が漸次露骨になりました。有つたが事件の擴大に伴ひ其の後は一層深刻となり、終に綿布類を初め總べての商品取引に一大支障を來し、邦品は今や全面的に排斥を受けるに至つた。尤も同地邦商は先年の上海事變當時の經驗に鑑み、之れが對策として専ら印度商又は暹羅商との取引に力を注ぎ居り、又盤谷日本人工商會議所に於ては盤谷市内又は地方に邦品の直賣店を設置する方法等に付ても折角研究努力中との事である。然るに先般來暹羅米の本邦輸入は米の取引商が大部分華商なりを賣り満りを爲すのは即ち排日の結果と見るべきである。

○暹羅米の輸出

日本再び買付を開始す

(六月九日・盤谷タイムス紙所載)

日本政府は今月から特許制に依り、暹羅米の同國輸入を許可することとしたらしい、暹羅米の輸入取扱を許可される二商會は、三井物産株式會社と三菱商事株式會社とであるが、兩社は既に暹羅米穀商から大量の米を購入している。

日本の買手が暹羅米の購入を停止してから六ヶ月になる。暹羅商人は、暹羅は日本から可成りの商品を購入するのに、日本は暹羅米輸入の許可を拒絶してゐることを不快に思つてゐた。日本が暹羅から購入するものは僅かに棉花と屑鐵のみである。輸出禁止の解除は暹羅米穀商にとつて、非常に満足な出来事に相違ない。現在日本が購入する米の等級はC1碎米と發表され、麥酒及び菓子の製造に利用されるのである。一九三五年、日本は同品質米を四二

七〇七噸購入した。

C1 碎米の價格は一ピクルに就て、三銖五五仙から三銖五七仙五の間である。日本向の積荷は大阪商船と三井ライ

ンに依り、運ばれて居る。

○山田長政記念碑建設事業

豫て盤谷の我居留民間に山田長政の記念碑建設の議が起つて居た處、暹羅人側よりも熱心なる賛成を得たので、今年春在盤谷日選協會主唱の下に建費基金募集の具體化を見るに至り、本協會に於ては日選協會及在暹日本公使館より外務省を通じて依頼が有つたので、日本内地に於て約壹萬八千圓の寄附金募集を引受ける事に決した。依つて本協會にては、左記の如き趣意書を作製し早速寄附金募集に取掛る豫定にて、既に東京市内に於ける一般寄附金募集の許可に付ては、警視總監の指令を得たが、時恰も今回支那事變の勃發にて時局柄を考慮し、目下一般寄附金の募集を差控へ居る次第なるが、其の内時機を見て着手したいと考へて居る。従つて遺憾ながら豫定の本年建設は困難なるべきも遅くも來年中には是非實現を見たいものと考へて居る次第である。但し外務省、拓務省及臺灣總督府等官廳側よりは既に數千圓の寄附金下附を受けて居り、又陸海軍兩省の諒解も既に得て居るので實現を期して居る。

山田長政記念碑建設趣意書

今を去る三百年前徳川幕府、戰國亂離の後を受け、銳意内を治むるに急なるの餘り、百方我國民の對外的膨脹の氣

運を阻止するに専心せる時に當り、一代の快男兒山田長政駿河の邊陬に生れ、卓犖不羈蜻蜓洲内に躊躇するを潔とせず、鵬翼遠く飛で暹羅に入り「アユチャヤ」王朝に事へ國難を戡定し、其偉勳に依り六昆王に封ぜらる。當時長政の麾下に在りたる邦人六百を算し、「アユチャヤ」舊都の廓内儼然たる日本人街を形成するに至り、朝廷は長政に依て重きを爲せり。長政居常兵船を艦裝して其内に起居し、内亂外寇の起る毎に等麾下を率る、一令の下に此の兵船を進發せしめ、勇敢果決向ふ所敵なく、當時南洋印度地方に横行せる英蘭兩國の艦船の如きも、長政の威風を望て之を畏るゝこと虎の如かりし事實は蘭人の著書に明記せらるゝ所也。不幸にして長政晩年佞人の爲めに讒せられ、遂に毒殺の災に逢ひ、麾下邦人も本國との連絡なく散亡相踵ぎ、加之幾くならずして「アユチャヤ」王朝も現王朝の爲め滅ぼさるゝに至り、爾來五十年流逝し盛んなりし「アユチャヤ」の舊都は今や蓬草の内に埋没し、唯僅かに斷垣廢瓦の舊趾を偲ぶものあるのみ、當時若し徳川幕府に遠謀深慮の人あり長政を支援したらんには、日暹兩國關係が英蘭に先んじ、緊密化し居るべかりしは言を俟たず。思ふて茲に至れば切齒痛恨の至に堪えざるものあり、莫過長政は洵に我日本民族の爲に氣を吐きたるもの、吾人は三百年前の今日世界政局の現状に鑑み茲に躍進日本の姿を顧みて坐るに當年の快男兒を思慕するの情に堪えず。

暹羅と日本とは、長政を通じて斯る深き因縁を有するに不拘、爾來徳川幕府の消極的政策の結果、一切の交通斷絶の儘明治の中葉に至れり。而して明治二十年九月廿六日に至り、東京に於て兩國の修好通商宣言の調印を以て兩國の國交始めて開始せられ、今年を以て満五十年に達し日暹の關係は近今數年の間に急速に親善の度を増し、貿易關係の如きも從來殆ど見るに足らざりしもの逐年進展の一途を辿り、昨年は暹羅よりの輸入約壹千萬圓。我邦よりの輸出四千數百萬圓に上りたり。此機に際し三百年前の快男兒長政の記念碑を舊都「アユチャヤ」の一角に建て舊事を追憶する

こと、一は暹羅國人をして長政の偉勳を追想して、我日本民族の古武士的精神に對する憧憬の念を増さしむると同時に、一は我在留邦人の精神を作興する所以なるを確信するものなり。幸にして長政建碑の舉が、在暹我公使館及駐在陸海軍武官並に在留邦人間に唱導せらるゝや、暹羅人側よりも真摯なる共鳴贊助を得、先般遂に在盤谷日暹協會（主として暹人組織の日暹親善を目的とする協會にして我暹羅協會の姉妹協會たり）主唱の下に建碑基金募集の具體化を見るに至れり。斯の如くにして我協會は日暹協會及在暹日本公使館よりの依頼に基き、我邦に於て約壹萬八千圓の募金を爲すことには決したる次第なり。

我外務省陸海軍省拓務省及鐵道省に於ても、本件の極めて有意義なることを洞察せられ、各々金壹千圓宛の寄附をせらるゝことに確定したり、設計概說左記の通りなるが故に、大方諸彦に於ても願くは本件に賛成せられ應分の喜捨を賜はらんことを。

昭和十二年五月

財團法人暹羅協會

設計概說

一、記念碑

石材は山陽道花崗石を使用する豫定、碑石及礎石は日本に於て準備の上發送、暹羅に於て組立つ。

二、建設場所

暹羅國「アユチャヤ」市外（盤谷の北、鐵道にて約一時間半の行程）にて往年山田長政其他多數日本人が住居せし場所、目下田圃、城内地坪約一千坪。

三、建設時期

昭和十二年九月廿六日日暹修好滿五十年の期日前後に除幕式を舉行し度き希望なり。

四、建設資金

全體にて大體一萬七千銖（碑建設費約八千銖以内、土地費七千九百銖以内、雜費約一千銖の豫定）を以て仕上ぐること、

本事業の資金として現在迄入手の分は昨春渡暹したる我が安川經濟使節團が本事業資金として寄附せる邦貨一萬三千圓（暹價八千二百二十七銖八十五仙）にして其の内土地購入其他の爲め約二千三百銖を既に支出し現在五千九百銖を有するを以て更に一萬一千一百銖（邦貨約一萬八千圓）を必要とす、

以上

○靜岡文化協會主催山田長政顯彰展覽會

五月二十二日——三十日に至る九日間、靜岡市田中屋百貨店に於て、靜岡文化協會の主催、拓務省、文部省、暹羅公使館、暹羅協會等の後援で山田長政顯彰展覽會が開催せられ、各方面よりの出品種類百二十二種三百餘點に上り頗る有意義の催であつた。

○本協會に於ける暹羅問題研究に關する大學生座談會

東京に於ける各大學生間には最近東亞並に南洋問題の研究を爲す者が多く、之に關する種々の會を組織して眞面

目に研究して居るが、中には暑休を利用して近東、南洋方面に視察旅行を爲さんとする者もありて、去る六月初め早大南洋事情研究會員である一學生が代表として本會を來訪暹羅事情に付き講話を聞きたしとの申出があつたので、本協會に於ても時節柄対に有意義なる事と考へ、之等學生の希望を容れ去る六月十八日午後三時より協會に於て座談會を開催した。當日出席の學生は何れも帝大滿蒙研究會、拓大亞細亞研究會、拓大イスラム調査會、早大南洋事情研究會、早大亞細亞研究會、明大亞細亞學生會等の會員たる、帝大、早大、拓大、並に明大生にして其の數二十五名に及んだ。席上先づ矢田常務理事より挨拶に次いで學生としての心得又は現下の一般社會情勢等に就き親切なる説明を加へ、最後に暹羅國々情に付いて講話を試みた。之れに對して學生達は一々熱心なる質問や意見の開陳を爲す等、何れも青年の元氣激昂する姿を展開し時刻の移るをも知らず午後七時過ぎ解散した。

本協會に於ては茶菓を製し又學生に會報其他参考印刷物等を頒與した。

○訪日暹羅觀光團一行の歸還

(五月廿日・ネーション紙所載)

去る四月十三日我が觀光團一行を乗せ日本に向ひ出帆したる那智山丸は昨日（十九日）豫定通り歸還した。同船入港の豫定時刻である午前九時頃には埠頭は一行出迎の親戚、友人を以て埋められた。九時半那智山丸は埠頭に横付となり一行は出迎の親戚、友人と挨拶を交したが何れも旅行を満喫し満足したかの如き色を面上に漂して居た。日本から購ひ求めて來た輸入のもの、植木、其の他色々の品を通關検査の爲船より下したる後一行は再び船上に歸り恙なく

旅行を終つたのを歓ぶとの船長の挨拶と共に一同盃を擧げて解散した。今回の觀光の世話人であり一行と行を共にした某氏は日本での歓迎振及感想等に付左の通り語つた。

那智山丸神戸入港の前日から雨は降り續いて居たにも拘らず多數の日本人及新聞社代表等の出迎を受けた。往航の際は支那海で海が少し荒れ船酔に苦しんだ人もあつたが歸りは海も穏かで愉快な航海を續け先づ大體に於て往復共に一行は何れも元氣旺盛であつたと云へよう。神戸上陸の後工業都市大阪に行き日暹貿易協會の世話で汽車製造工場を見學したが此の工場では先年我國からの注文を製造したこともあると聞いた。此の外亞鉛引鐵板、釘、鐵線等の製造工場及大阪毎日、朝日の兩新聞社を見學した。四月三十日午前中は名古屋の萬國博覽會を見物したが、此の博覽會には我國も參加して居り暹羅國名譽領事加藤勝太郎氏が私財一萬圓を投じて建設されたものである。

我々は到る處で各方面から歓迎を受け日本人は我々を外國人としてではなく兄弟の様な隔てなさを以て心から歓迎してくれた。五月七日一行は神戸を出帆歸國の途に就いたが一行中二、三の人は私用にて滿洲、上海、香港を廻られるので行を共にする事が出来なかつた。

昨年の「ミス・サイアム」に當選した「ウォング・ドワン・ブミラット」娘に日本の印象を求めた所謹は左の通り話した。

旅行中は至極元氣で日本では大歓迎を受け特に朝日新聞社では素晴らしい御もてなしに預りました。日本の人々は離てなく心から親切してくれました。日本の婦人は優くて仕事に熱心です。あちらで色々の記念品を戴きましたがその中には日本の可愛い人形もあります。特に大阪朝日新聞社からは「昨年憲法紀念祭の際貴國を訪れた本社三

飛行士に與へられたる貴國人の熱誠なる歓迎を感謝す」と銘記された金牌を戴いて來ました。云々

○訪暹日本音樂舞踊團歸朝歡迎會

五月三日午後五時より丸之内中央亭に於て日本大學藝術科、東京日々新聞社並本協會の合同主催で義に親善藝術團として暹羅國を訪問し多大の効果を齎して歸朝した吉田晴風氏を團長とする日本音樂舞踊團一行の歸朝歡迎晚餐會が開催せられた、當日の出席者は約百名で盛會であつた。

○訪暹日本音樂舞踊團歸朝演奏會

吉田晴風氏一行の訪暹日本音樂舞踊團歸朝演奏會が、日本大學藝術科及東京日々新聞社後援の下に、五月二十六日午後六時より日比谷音樂堂で催された、生憎夕刻から降雨であつたにも拘らず豫定のプログラム通り遂行せられ、多數の觀客あり盛會であつた。

因に本協會へは主催者より入場券三百枚の寄贈があり、會員其の他關係の向へ夫々配付した、茲に主催者側の御好意を感謝する。

○暹羅協會主催駐日暹羅公使、村井、石射新舊駐暹公使歡送迎晚餐會

六月五日午後六時より華族會館に於て、當協會の主催にて、舊職賜暇歸國の上今春再び歸任せられたプラミトラカムラクサ公使と、今般歸朝せられ東亞局長に新任せられた石射舊駐暹公使の歓迎と、又近く赴任せらるゝ村井新駐暹公使の送別とを兼ねた歡送迎晚餐會が開かれた。當日は近衛會長國務多端の爲め缺席せられたので、岡部理事長の歓送迎の辭あり、之に對し、ミトラカムラクサ公使、石射舊駐暹公使、村井新駐暹公使の順序にて夫々の答辭あり、來賓其の他會員多數の出席あり盛會であつた。

暹羅協會主催晚餐會

昭和十二年六月五日（土）午後六時（於華族會館）

主賓

プラミトラカムラクサ公使殿

同

村井新駐暹公使殿

同

石射前駐暹公使殿

（順序不同）

出席者

芳名

海軍中將

今村信次郎殿

海軍大佐

今岡十一郎殿

外務事務官

石橋貞男殿

石橋雄殿

暹羅公使館書記官

ラツタナテープ 殿

德花八林
水柳田久
音壽嘉治
半美殿郎殿

鐵道省支而

德花八林
水柳田久治
音壽嘉明殿郎殿
半美殿

暹羅外務大臣秘書官
暹羅稅關次長

チユーンビンタノン 殿
ルアンデートダムロン 殿

外務省文化事業部長

岡田久氣一殿

外務書記官
海軍中佐

神上村重伸德殿一

海軍少佐

月高見左吉能彦殿

中川末吉殿

卷之三

卷之三

中村 勇殿
庸殿

進羅公使館附陸軍武官

ヴィラヨーダロン殿
倉田猛郎殿

特命至權公使
拓務省拓務局長

安井誠一郎殿
矢田長之助殿

福山口外次郎殿 武殿

暹羅前經濟大臣

藤 蔭 千 枝 殿

陸軍方將

淺野良三殿

北島多一郎

陸軍歩兵少佐 子爵	岸並喜代二殿
外務書記官	三島通陽殿
陸軍歩兵少佐 海軍少將	斯波孝四郎殿
陸軍砲兵中佐 外務書記官	重安穂之助殿
守屋精兩殿	宮崎申郎殿
鈴木九萬殿	原武雄殿

主人 理事長 子爵 岡部長景

岡部理事長の挨拶

本日の三公使閣下の歓送迎會は、もつと早く開催する筈であります。が、近衛會長が是非共自分で主人役を爲されたいと云ふので、同會長の御都合の爲め段々延び延びとなつて、やつと會長御自身並に主賓御諸々の御都合の合致しました。本日此の御催はしを致すことになりました。喜んで居りました處、御承知の通り近衛會長は、本月一日組閣の大命を拜受致されまして愈組閣も昨日を以て完成致した様の次第で、國務多端の爲め遂に御主人役を御勤めになれぬこととなり、其旨會長から二三日前態々御断りの御挨拶を受けました。我協會の會長が此非常時局に際し上下朝野の信

望を荷ふて總理大臣となられたことは、誠に慶賀に堪えぬ譯であります。其爲め今晚の主人役を爲さなければならぬ様になつたことは、主賓三閣下並に諸君に對し甚だ残念に存する次第であります。右様の次第で、私が會長に代て主人役を勤むることになつたのでありますからどうぞ御了承願ひます。

先づミトラカムラクサ公使には、昨年十一月末賜暇御歸國になり爾來四ヶ月間本國に御靜養の上、見るからに充實したる御健康と御元氣とを以て再び御歸任を迎へることは、吾々の欣懽に堪えざる所であります。同公使が本邦に御來任以來日夜遼親善の増進に御努力せられ居ることは、私が今更喋々するを要せぬ所であります。同公使の此上共永く本邦に御在任なされ、其御努力を通して新興暹羅國と我國との關係が愈々益々緊密接近致すことを望む次第であります。

石射公使に於ては、昨年六月暹國に御赴任後常夏の同地に在て營々孜々として兩國關係の緊密化に御精進なされ、段々任國政府要人との私的關係も親密となり、是から愈々同公使の眞價値を御發揮なされ様と云ふ段になつて我々も同公使の手腕人格に絶大の期待を掛け居りました處、突然外務本省から歸朝を命ぜられ東亞局長に御榮任なされました。暹羅關係の關する限りはれは一應遺憾には存じますけれども、併し本省権要の地位に榮轉せられたのは、單に同君御自身の爲めのみでなく、國家の爲め尊る慶祝すべきことであります。而かも又對暹羅事務は對滿對支事務と均しく東亞局の主管に屬し居ることを考へますと、假令在任期間は短少ではありますても親しく暹國に駐劄せられ暹國の實情を自ら視察體驗せられた後東亞局長となられたことは暹羅關係を重視する吾が協會と致しましては誠に歡喜に堪えぬ所であります。

協會は最後に村井新公使の赴任に對し謹て敬祝の意を表します。同公使は御承知の如く曩に日濠間に横つて居ります。

した極めて紛糾困難なる問題を處理せられ、遂に完全なる妥結を見たることに於て、同公使の手腕と實力に對し十二分の立證をせられ吾々は同公使の輝やかしき前途を翹望致して居りましたが、今回石射公使の後任として遼國に御赴任を見ることは、誠に其人を得たるものでありまして欣懽の至りに堪えませぬ、往年勤もすれば本省に於て遼國の重要性に充分なる認識を缺きたるかの觀がありましたが、近時其缺點が大分是正せられ、曩きには林公使矢田部公使の如き又最近石射公使及村井公使の如き鋤々たる新進の敏腕家が簡拔せらるゝ氣運を見るに至りましたことは、時世の變化にもよりますけれども誠に健全なる傾向として不尠人意を強ふする所であります。

遼國の重要性を認識することは世界の全局を遠觀して始めて能くする所であります。例へば支那の重要性を世人の誰もが未だ氣の付かなかつた以前早きに及で既に之を認めた小村侯の如きがそれで、現今遼國の重要性を認むることに於て第一人者は我協會の會長而して新首相近衛公であることを、私は此機會に於て言明することを誇りとするものであります。

終に臨みまして三公使閣下の御健康を祝する爲め本會諸君の舉杯を願ひます。

村井新駐還公使經歷

新駐還公使村井倉松氏は青森縣の出身で本年五十歳明治四十四年東京高等商業學校專攻部領事科を卒業し大正三年外交官及領事官試験に合格して外務省に入り領事官補を派出しに長春、哈爾賓、ホノルル、紐育等の各地に在勤の後外交官補に轉じて支那に在勤し次で公使館三等書記官に陞任九年外務事務官として亞細亞局第一課及第二課に勤務十三年大使館書記官として英國に在勤再び本省に歸へり通商局第一課長兼第二課長の職に在つたが昭和三年總領事に任命されました。

じカルカタ在勤を命ぜられ續いて五年上海に轉勤上海事變の際は爆弾にて負傷せられたが幸に快癒七年更にシドニー在勤となり其間例の日漁會商代表として敏腕を揮はれ今春一旦歸朝の上今回特命全權公使に榮任遼國駐劄を仰付られました。

○本協會主催遼國陸軍留日將校學生送別晩餐會

過去二ヶ年間に亘り我陸軍各部隊に入隊見學中であった、遼國陸軍將校學生等「ルアンラバンルリテー」大尉以下十二名は、留學完了歸還するので、本協會に於ては一同の爲めに七月十九日午後六時より丸之内中央亭に於て送別晩餐會を開催した。席上岡部理事長より別項の如き送別の辭あり、これに對し「ルアンラバンルリテー」大尉の日本語謝辭あり、一同非常な満足で午後九時散會した。當夜は主賓將校學生の外に來賓として駐日遼國公使、陸軍省關係者の出席あり、本協會役員等も出席し盛會であつた。

本夕は過去貳年間我國に在つて、夫々専門の兵科に就て研究せられて居りました、遼國陸軍留日將校諸君が、愈々其研究を終へられ、不日出發歸國せらるゝを以て、聊か御送別の微意を表する爲め、此小宴を設けた次第であります、炎暑の砌り且は北支事變の突發等の爲め、外務陸軍其他官廳關係方面の方々が差支あり、出席せられないのは甚

ナ道情下あり。す

申す道をなく退羅と日本とは、政治的經濟的軍事的角度から観察をしまして、其和諧完全に一致して居ります。而して此親善關係は、近々年間異常なる進歩を見ましたのも誠に自然なる譯であります。而して此親善關係は、今後益々増進紧密に赴かんことを期待しなければなりませんが、之が爲めにはよく兩國民相互の接觸と諒解が愈々必要と感するのであります。此際に當りまして、過去貳年の間我國に御滞在親しく専門の軍事的御研究を積まれた傍ら、我國各般の實情に就き目撲視察を遂げられ、種々の階級に屬する我國民と御接觸になつた諸君が、本國に御歸りになり、我日本の現狀並に日本の朝野の退羅に對する詐らざる好感を、貴國民間に御傳達なるることは、日退羅留日將校諸君の國關係の一層緊密化に至大の關係あることとして、私は誠に欣懽に堪えません。

我國の軍事が、青年中堅將校に負ふ所多きと同じく、新興退羅も亦諸君の如き洋々たる前途を有せらるゝ激渾たる青年將校に、期待する所大なるもの之れあるべく、どうぞ諸君は益々御自重御自愛あつて、祖國興隆の爲め御盡瘁あれらんことを切請して已みません、茲に來會諸君と共に杯を擧げて退羅留日將校諸君の健康を祝します。

○盤谷「シチースター」紙社長「イサラクン」
氏歓迎宴

氏歡迎宴

本協会は六月三十日午後六時より上野翠松園に於て本邦に於ける新聞事業祝宴を兼ね観光の爲め、家族同伴來朝中の盤谷退字新聞「シチースタ」社長兼主筆「イサラクン」氏、並に税關事務視察の爲め來朝中の退羅國稅關大長、「ダ

「ムロン」兩氏の歓迎小宴を、三井通羅室と合同で催した。當夜は主客互に胸襟を開いて語り合ひ近頃稀に見る和やかな會合であつた。

○少年赤十字會議並世界教育會議邇羅國代表歡迎會

不識相傳本廟之金石，故未得歸入其列。

本協會は八月四日午後六時より目黒雅叙園に於て先般少年赤十字會議代表として來朝せられたプリンセス、ビチツト一行並に世界教育會議代表者プリンス、ラチャダ一行の歓迎晩餐會を開催した。

岡部理事長は別に單獨にて八月七日午後七時より華族會館に於てプリンセス並プリンス一行の爲め晩餐會を催された。

○遼羅國海軍練習艦及警備艇竣工

六月十九日又石川島造船所に於ては同二十一日夫れなく同所に於て滞りなく暹羅海軍代表に引渡された。爾後右艦艇引取の爲め來朝した暹羅海軍廻航員の手で一應横濱港に廻航碇泊の上同二十六日横濱を出航五隻の艦艇は舳艤相叩んで本國へ廻航の途に就いたが不幸にも同日激浪に悩まされ大島沖に於て艦艇接觸の爲め警備艇タクパイに多少の破損箇所を生じたので一應横濱に引返へし破損箇所の修理を了し數日後更に出航、途中神戸、門司、鹿兒島、臺灣、香港の各地を経て歸國の豫定である。途中大分日を要した模様で八月二十七日香港に着したる旨通知があつたとの事であるから其の内無事盤谷に着、定めて本國官民の多大な歓迎を受ける事であらう。

○暹羅國海軍艦艇廻航員來朝

暹羅國海軍中佐ルアン、ユダキチ、ビロス氏以下二百餘名の海軍將士は先般竣工したメエクロン外四隻の艦艇受取の爲め廻航員として去る六月十四日來朝爾來我邦朝野の熱誠なる歓迎を受け多大な好感を持つて各艦艇に乗組み同月下旬出發本國へ向け廻航の途に就いた。

廻航員滯在中のプログラムは次の如くであつた。

廻航員滯在中の「プログラム」

六月十四日	浦賀船渠會社主催歓迎晩餐會	於橫須賀水交社
同十九日	練習艦二隻受渡式	於浦賀船渠會社
同二十一日	警備艇三隻受渡式	於石川島造船所
同二十四日	駐日暹羅公使主催歡迎園遊會	
同二十六日	海軍大臣主催歡迎晩餐會	於東京水交社
	横濱港出航	

○本協會より暹羅國海軍廻航員として來朝の海軍將校へ記念品贈呈

本協會に於ては先般メエクロン外五隻の艦艇受取の爲め來朝せる暹羅海軍將士の歓迎會に代へ將校のみ五拾名に對し夫々記念品を贈つたところ非常に喜ばれメエクロン艦長ルアン、ユダキチ、ビロス中佐が代表して本協會を來訪鄭重なる謝辭を述べられた。

記念品は昨年本協會より神戸滯在の暹羅海軍將士團へ寄贈した本會報第五號掲載のものと同品にて極めて優雅なる品である。

○暹羅國海軍鋼製運送船起工式

本會報第五號掲載のものと同品にて極めて優雅なる品である。

兵庫縣播磨造船所に於ては、豫て遼羅海軍部より註文を受けたる六五〇噸型鋼製運送船二隻の起工式を、去る七月五日午前十一時より同所第五船臺に於て舉行、滯りなく之れを終了した。

○遼羅國海軍砲艦アユデヤ進水式

豫て神戸川崎造船所に於て建造中であつた、遼羅國海軍砲艦アユデヤは工事進捗し、去る七月二十四日滯りなく進水式を終了した。當協會よりは矢田常務理事出席した。

砲艦アユデヤ要目

長	七五、〇〇〇米
幅	一三、四一〇米
吃水	四、二一五米
排水量	一一、〇一五噸
速力	一五・五節

○遼羅國海軍潛水艦竣工

三菱重工業神戸造船所に於て、豫て建造中であつた、遼羅國海軍潛水艦マツチヤース及ワイルンの二艦は先般竣工九月四日同所に於て其の引渡式が舉行された。

○訪遼日本少年團聯盟團員歸朝歡迎會

蓋に遼羅を訪問して無事歸朝した日本少年團聯盟團三島團長以下一行の爲め當協會では五月二十日午後三時より虎之門霞山會館樓上で歡迎茶會を催した。來賓には少年團員の外竹下少年團聯盟總長初め指導者數名あり、本會より岡部理事長外役員數名出席した。席上岡部理事長の挨拶に次ぎ三島團長の報告並團員の感想談等があり盛會であつた。

○駐日遼羅公使主催訪遼日本少年團並訪遼

音樂舞踊團歸朝歡迎園遊會

蓋に遼羅を訪問し、多大の成果を收めて歸朝した、三島子爵を團長とする日本少年團並に吉田晴風氏を團長とする音樂舞踊團の歸朝歡迎の園遊會が、六月四日赤坂臺町の遼羅國公使館で、左記次第に依つて催された。當日は朝野各方面よりも多數の來賓があり盛會であつた、本協會よりも役員多數出席した。

同音樂舞踊團歸朝歡迎園遊會次第

- 一、公使挨拶
- 二、遼羅舞踊（訪遼藝術使節團）
- 三、遼羅歌謡（訪遼日本少年團）

四、暹羅音楽（在京暹羅留学生）

五、暹羅運動（同）

六、混合遊戲

昭和十二年六月四日

於暹羅國公使館

以上

八六

○暹羅少年團指導者滯在中の視察日記

今回大日本少年團聯盟の招請に應じて來朝した暹羅少年團指導者一行四名の滯在中の動靜に就き同聯盟より本協會へ其の視察日記を寄せられたので之れを左に掲載する。

先般日本少年團教育研究のため本聯盟の招待により來朝せる暹羅國少年團指導者四氏の滯日期間は五十餘日の豫定であつたが事變のため俄かに盤谷航路に變更を來し廿日餘りを短縮の餘儀無きに至り、視察個所を省略し且つ時局のため陸海軍、重工業方面の見學の出來なかつた事は誠に殘念であつた、然し少年團に關しては大體豫定通りの研究をする事が出來た。

以下は其の日記の摘錄である。

暹羅國少年團指導者日本視察日記

七月十四日三井ライン那智山丸に乘船盤谷出帆。

七月廿四日門司入港、門司少年團代表數十名の歡迎を受け上陸、兩市見學後歡迎午餐會にて上陸最初の「すき焼」に舌鼓

七月廿五日神戸入港、阪神少年團代表東京より出張せる聯盟本部員の出迎を受け上陸、夕食後大阪に至り茶會後同地の名物天滿の水上祭りを觀覽、午後十時大阪發東京へ。

七月廿六日午前九時東京着、公使館、暹羅協會、少年團關係者等の出迎へを受け直に宮城前に至り皇居遙拜、一旦宿舎たる日本青年館に至り休憩、公使館に表敬種々公使閣下より今後の行動に就き懇切なる指示を受ける、午後八時長途の旅塵を洗ふ暇もなく芝浦發大島に開催中の東京聯合少年團夏の村（少年團員の合同野營）に趣く。

七月廿七日午前六時岡田野營場着直に參百餘名參加の大野營地を隅なく視察、研究後全員と相會し歡迎會、始めて接する日本少年の無邪氣な姿に大喜び、日本の少年も暹羅側の朗かな態度にスツカリ喜んで了ふ。

七月廿八日——卅日東京少年團女子部合同野營に參加、日本少女の規律ある態度、活潑な態度訓練を見て大いに感ずる所があつた様だ、滯在中ハイキング、三原登山等を一同となし僅か四日の野營ではあるがスツカリ友達となる、日遙唱歌の交遊、遊戲の交換で四日間の野營は恰ら日遙親善野營の觀があつた。始めての野營乍らスツカリ元氣を出し船路の疲れも全く快復せる如し。

七月卅一日朝の涼しい神宮外苑及壁畫館見學後聯盟本部、外務省（文化事業部長及び條約局長）、海軍省、造船懇話會及鐵道省に表敬、正午は水交社にて艦政本部高橋少將の招宴、午後は朝日、日日、報知の三社訪問後市内見學。

八月一日明治神宮參拜を了へ次の如く嘉悅東京市技師の案内で視察研究。

東京市四谷第五小學校、東京中央市場、東京市築地病院、本願寺、上野動物園、隅田公園、芝浦埠頭（途中東京市

八七

(の河川及道路につき説明)

正午は上野精養軒にて東京市長の招宴席上古賀動物園長より退羅少年團よりの象の経過につき詳細報告、親しく象を觀、その人氣ある事に驚き前回の日本少年團の渡邉も、今回一行の來朝も皆此の象の寄贈されたる事に端を發せることを思ひ感無量、午後十時上野驛發直江津に向ふ。

八月二日午前六時直江津着少憩の間も無く海岸古城に開催の海洋少年團指導者實修所に至り一般實習生に伍して訓練を受ける、沿岸各地より選抜せられた元氣溌漫青年の意氣天を笑く活動、猛訓練振りに感心。

八月三日本日は郷津まで五海里の遠漕、各入各端艇に分乗自ら進んでオールを持つ元氣、郷津上陸岩殿山に駆け足登山し汗をしばる。

夜は直江津町としての歓迎會、定刻前より會場たる小學校は立錐の餘地無し、校長、町長の歓迎の辭に次ぎユダ團長立ちて挨拶すれば拍手鳴りも止まず最後に日本語にて「ナホエツマチ萬歳」と稱へれば貳千餘の會衆は狂氣せんばかりに是に唱和し暫しの間は歎聲の連續、老人も青年も目には涙を浮べて熱狂する様は實に感激のシーン、意外の日選交驛をお互ひに喜び合つた、閉會後町長の招宴に臨み二日間の緊張を解いて歎談メートルを擧げる。

八月四日五時起床海の氣を吸ひ乍ら技術練習、朝の訓練を了へ實修所に別れを告げ歸京の途に就く、信越沿線の山の景、鐵路の防雪設備多き水力發電所は一行の興味を惹いた。夜九時東京着。

八月五日午前留學生諸君の案内により市内見學、正午退羅協會主催の午餐會、退羅公使、協會幹部、聯盟幹部出席矢田理事の挨拶に一同喜ぶ、終了後日銀結城總裁に表敬、その際世界有數な同行の金庫室を見學、引き續き總長邸に表敬。

八月六日午前海軍參考館參觀、午後東寶劇場觀劇及日比谷兒童遊園見學、夜は本庄本部員宅に遊びに行く、家人、子供等と時の移るを忘れて歎談。

八月七日芝増上寺靈廟の參拜、東京市教育局への表敬を了へ富田市視學（先般の訪退團隊長）の案内により左の個所見學。

芝高輪臺小學校、市立高等女學校、東京市立第二中學校、日本美術展覽會（上野美術館）

八月八日東武電車にて日光に行く、驛には佐々木隊長始め同地少年團代表、先般答禮使團員として渡邉せる増田鑑も出迎へ一行と久潤を叙す、直に中禪寺湖にハイキング、午後三時古河精銅所に歸着、同精銅所附屬少年團に就き詳細なる見學、研究後同少年團のクラブにて歓迎會、同夜は少年團のクラブルームに宿泊。

八月九日午前中精銅所工場同少年團の野營場を見學後日光廟を見、夕刻鬼怒川温泉に一泊休養。

八月十日早朝宿舎を出で宇都宮に至り縣廳訪問松村知事の午餐會に臨み全國地方聯盟組織の模範と稱せられる少年團栃木縣聯盟に就て調査、午後より氏家に開催の栃木聯盟合同野營を訪ね盛んな日選交驛會、野營地に各人一本宛記念の植樹をする、植樹の意味を聽き四君共何年か後に必ず此の地を訪れる事を約した。

思ひ出の地に名残りを惜み午後六時東京に向け出發。

八月十一日午前中休養。

午後は實習所入所の準備及び市内見學、夜十時大島に開催の指導者實修所入所のため勇躍出發。

八月十二日未明元村着、他の實習生諸氏と共にバスにて泉津潮吹の野營地に至る、最初は退羅側四名に通譯、指導掛二名を加へ七名で一班を組織する豫定の所、眞に日本人と知り合ひ「行」の生活をなすには各班に分属同班員の熱

と意氣とにより身を以て示すに如かずとし六ヶ班中の四ヶ班に一人宛分属せしむる事とした、入所に際しての宣誓式に當り「入所中は社會的階級を去り十四才の子供となり精進する」の約束の際は一寸奇異の感に打たれたが通譯の丁寧な説明により了解四氏共欣然宣誓入所された。

各人一人宛日本人六名よりなる班に編入、一班毎に一つの天幕に入り、十八日まで一般實習生と共に、設營に、遊戯に、炊事に只管「行」の生活に精進、初めの間は多少苦痛の様子も見えたが三日四日と経つに従ひ双方の熱、意氣努力の前には言語不通も何のその全く皆と氣分を一致し終始朗かに、如何なる猛訓練にも耐へ、實修所の本質をよく體得された事は關係者一同何れも感激した。

八月十八日一週間の實習生活も無事終了、その上七日間勞苦を俱にした事によつて日遙双方スッカリ仲善くなつて了ふ、歸りの船中でも遙羅側のため特に用意した特別室に入らず東京に着くまで一般の實習生と共に甲板上で懶快に語り合ひ、歌ひ合ふ。

八月十九日午前休養。

午後三島理事長邸に挨拶に行き、希望者に對し市の社會事業施設案内、夜は雅叙園にて慰勞の晩餐會、十時東京驛に菅原聯盟本部員の出征を見送る、驛頭を埋める各出征兵士の盛んな見送りに感激。

八月廿日午前六時起床、青山會館の道場に行き柔劍道、杖術、鎧錘等の朝稽古を見學終つて宮川老師の明暗流の尺八吹奏を聽き尺八などが木大刀に型取り護身に使ふ由を聽き驚歎、午後葛飾區の中島守利邸に至り舊い日本住宅を観る、同家の弓道場、所藏の數多の日本刀、茶道具、古錢、釣道具を展覽蘊蓄深き中島氏の説明を一同熱心に聽入る、夜は麿町大勝閣に於ける大日本少年團聯盟主催の歡迎會竹下聯盟總長三島理事以下幹部、關係者八十餘名出席

双方の挨拶後一行に對し記念品の贈呈あり食事終るや日本人の遙羅歌合唱遙羅側の日本歌合唱、遙羅歌の全員整唱、遊戲等で互ひに歡を盡し九時半散會。

八月廿一日午前自由観察。

午後荒木大將邸、大谷拓相邸に表敬兩閣下より夫れ夫れ適切なる訓辭を受く、拓相邸より芝寺町の通譯プラシット兄の宅に至り裕ろいだ氣分で種々詰合ひ、一行の東京着以來始終附添つて世話をされた同兄に心より謝意を表した。

夜公使館に招ばれて遙羅料理の御馳走。

八月廿二日午前矢田部前駐連公使に表敬、正午帝國ホテルにて大倉男爵の招宴、豫而より日遙友好に盡力せらるる男爵と親しく相語る事を得たるを一同光榮に思ふ、終つて上野の帝室博物館、科學博物館、映畫劇場等を參觀夕食は藤村一誠堂主藤村千良子氏より東京會館にてすき焼の接待。

八月廿三日午前文部省及少年團聯盟本部に挨拶。

午後は買物と荷造りに大車輪最後の晚餐は嘗つて遙羅へ派遣された健兒十餘名と共にし、互ひに盤谷の思ひ出に花をさかす。

八月廿四日愈々今日は東京出發、午前七時四五分遙羅公使以下公使館員、聯盟關係者等數十名の見送裡に發車、途中小田原驛には宮下澣中の三島子御夫妻態々御見送られ一同名残りを惜む、十二時靜岡着尾崎同地健兒隊長外代表幹部數名、市教育課長外市吏員數多の出迎へを受け公會堂に至り交驛茶會に參加、尾崎市長も態々參列され盛んな歡迎會、同地には渡邉した健兒二名が居るので一行も大層懐しく思ふ、時間を惜しみつゝ一時五十分靜岡發名古屋に向ふ。

午後五時名古屋着、加藤遙羅國名譽領事外館員、石田名古屋市社會教育主事、代表健兒數十名の出迎へを受け驛前にて交驛式を舉げ、石田主事の案内にて名古屋城、東山動植物園、同地少年團常設野營場、日遙寺等を觀て鶴舞公園の市公會堂に於る市長の招宴に臨む、市長代理として坂本教育部長參會され同市の產業、日遙の關係等につき話をされた、九時半宴を閉ち觀光ホテルに宿泊。

八月廿五日早朝ホテルを出で市内をドライヴ大須觀音その他を經て驛に至る八時名古屋發京都に向ふ車中出征兵士と語り得る所多々、午前十一時京都着。

中野京都聯盟理事長以下代表健兒、渡遙健兒に出迎へられて下車、先づ桃山御陵參拜の後中野氏自ら案内されて左の個所を見學、連日交驛觀察表敬に沒頭してゐた一行に取つては美しい京都の山水眺め、佛閣に詣でた事は本當に皆の心を暢びりとする事が出來た。

京都御所、三十三間堂、智恩院、疏水工事、平安神宮、清水寺、東西本願寺。

東本願寺では大谷少年團と交驛し最近盛んになつて來た寺院少年團につき研究。

午後五時京都に別れを告げ大阪へ、大阪驛では同地聯盟幹部の盛大な出迎へを受けて直に先般の遙羅派遣團員津田博君の父君津田良太郎氏の招待により竹葉亭に至り日本料理の饗應に預る、食後市内を見物途中大阪特有の算盤學校を觀一驚、十時半宿たる前記津田氏邸に歸り同邸一家を擧げての温き接待に大活躍した本日の疲勞も一蹴同氏御夫妻、令息令媛と夜の更くまで語る。

八月廿六日八時宿舍を出て住吉中學に行き夏期講習の授業を觀る、折柄同校に開催中の簡閱點呼を參觀日本豫後備軍人の嚴格な狀況を觀る。

府廳市役所名譽領事館に表敬夫れ夫れ長官より懇篤な挨拶を受け、正午朝日新聞社の歡迎午宴會、終つて毎日新聞社に表敬、天王寺動物園に上野の象と共に寄贈された遙羅象を觀る、象と共に同園名物の類人猿リタ娘、オットセイの曲藝に一同感心、六時より安住名譽領事、日遙貿易協會桑原氏の招宴あり兩氏より日遙産業に就き有益なる話を聽く、八時半より電氣科學館を見學プラネットリウムを觀その精巧さに感歎。

八月廿七日十時吹田町大日本麥酒會社工場見學遙羅にも多く見受けられる櫻ビルの製造を見興味一入り、參觀を了ヘビールの爽應を受け橋谷工場長より力強い獎勵の訓辭を聽き非常に喜んだ。午後は造幣局に至り貨幣動章の製作狀況見學、續いて美津濃運動具店に至り試驗室、工場を參觀し能率の良さ品質の精選の厳格さに感心する。午後六時より堂ビルにて少年團大阪地方聯盟の歡迎會、幹部、加盟團長、嘗つての渡遙健兒等參會、始めより打ち解けて互ひに唱歌の歌ひ合ひ等をし他の宴會の客に日遙親善さを感服せしめる。會を閉ち心齋橋通りを散歩、何處を歩いても出征兵士歡送の人で充満、日本最後の夜に如何なる印象を得たであらう。

八月廿八日三日間御世話になつた津田邸の方々に惜しき別れを告げ九時卅分大阪發神戸に向ふ、神戸驛には同地遙羅國名譽領事、少年團代表等出迎へられ商工會議所に於ける名譽領事及日遙貿易協會より鄭重な午餐の御接待に預る午餐後神戸少年團員の案内により市内見學、三時三井ライン朝日山丸に乗船、四時見送りの阪神少年團員、聯盟本部員、船舶部員等の歓呼裡に出帆。

八月廿九日正午門司入港、下關少年團代表に出迎へられ長府に至り乃木神社參拜、同地樂天地にてお別れの晚餐會。

豫て大阪商船株式會社に於ては盤谷航路へ増配船の計畫を有し盤谷丸西貢丸の一隻を新造中であることは前號會報に掲載して置いたが此程竣工愈々九月二十九日神戸出帆の盤谷丸就航より兩國間の第一回急航便を開始し、旅客貨物の快速輸送を行ふことになった。

尙ほ右兩船の要目及び其の特長とするところは次の如くである。

(イ) 盤谷河口コーチャンバーの水深約十四呎なるを考慮に入れ、特に吃水を浅くして載貨のまゝ自由にバーを通して得し得るやうにした爲め從來の様に荷物搬取による定期の遅延を無くして荷客輸送上甚だ便利となつたわけである。

(ロ) 客室は一等、三等とも熱帶地方航海に適する様種々考慮を拂ひ特に、通風採光に留意し船客慰安のためには各般の設備を充實し、尙特別室をも設けてゐる。

(ハ) 速力最強十六節以上、航海速力十三節以上を出す機關を備へてゐるから日遅間を八日間で航破し、從來より約五日間の短縮となるのである。

盤谷丸、西貢丸要目	五・五〇〇噸
總噸數	四、〇〇〇噸
全長	一二一・五米
幅	一七・〇米
深	一〇・〇米

吃水	七・〇米
載貨容積	一〇、〇〇〇立方メートル
主機関	フルカンギヤ減速聯結ディーゼル機関 二基
計畫軸馬力	三・一四〇馬力
最強速力	一七節
旅客定員	(一等) 二〇〇名 (三等) 五〇〇名
基本設計	大阪商船株式會社
施	三菱重工業神戸造船所

○暹羅政府より坂本函館市長に勳章贈與

函館に在る函館船渠會社は、暹羅海軍の命に依り一昨年秋より、「タンカ」一隻を造つて居つたが、昨夏竣工滯り無く引渡しを了し、同國海軍將校水兵の手で廻航、歸還した。同艦の建造中函館市長坂本真一氏は暹羅海軍に對し公私内外各方面に汎り多大の便宜と後援を供與せらるゝ所があつたので、暹羅政府は深く其勞を多とし、今回同氏に王冠勳三等章を贈與することとなり、去る七月二十日東京暹羅公使館に於て「ラクサ」公使より同市長に親しく勳章傳達式が行はれた。

○新任村井駐暹公使着盤

直去る六月三十日午前九時東京驛發列車で出發、七月五日神戸出帆の郵船大和丸にて、途中臺灣立寄の上赴任の途に就かれた、村井公使は七月二十八日盤谷に着任せられた。

去る六月一日附を以て暹羅國在勤を命ぜられた、公使館一等書記官伊東隆治氏は、七月九日着任せられ、前任者公使館一等書記官森喬氏は、八月二十三日着京歸朝せられた。

○在暹公使館書記官更迭

過去十一ヶ年本邦米國大使館員として最後は參事官、代理大使として日米親善に努力を續けたエドウイン・ネヴィル氏は、昨年歸國後病氣療養中であつたが、全快此度駐公使に榮轉する事となり、夫人同伴赴任の途次本月三日横濱入港のダラ・汽船ブレシメント・クリッチ號で本邦へ立ち寄り四日香港に向け出發せられた。

○最近訪日の暹羅人士

一、暹羅海軍水路部長「ルアンサムロアト」大佐。歐米巡歷より歸暹の途、六月廿四日横濱着入京、海軍水路部、中央氣象臺其他を視察の上七月四日退京歸國せられに。

一、暹羅文部省教育局長「プリンス・ラチャダ」同書記官「ルアンプラモウト」。兩氏は第七回世界教育會議に暹羅代表として列席の爲め七月廿六日入京、八月八日退京歸國せられた。

一、盤谷「ラーチニ」女學校々長「プリンセス・ビチット」は東洋各國少年赤十字會議に暹羅代表として列席の爲め同行者四名と共に七月十九日入京せられた、「プリンセス」は往年有名なる暹羅外相故「プリンス・デバオングセー」の令嬢で過去三十有餘年間暹羅女子教育に一身を捧げられた方、同國女子教育今日の進歩は同「プリンセス」の努力に俟つ大なるものがあると謂はれて居る。我が國朝野、就中女子教育界方面や、暹羅關係人士の間にも多くの知己を有せられ、滯京中も此等方面と舊交を温めらるゝ所あつた。八月十五日退京後、名古屋、京阪地方を觀光、八月廿日神戸發歸國せられた。隨員「ビツト」女史は明治卅四年頃お茶之水高等女學校に數年間在學せられたる方にて今回四十年振りの日本再訪問、感慨深いものもあつた由。

一、暹羅少年團指導員「ルアンヌタウイナ」氏外三名。日本少年團聯盟の招請に應じ我國に於ける少年團見學の爲め七月廿六日入京、爾來聯盟の客として各方面視察をなしたる後、八月廿日退京關西地方歷巡廿八日神戸發三井朝日山丸にて歸暹せられた。

一、盤谷「チュラロンコーン」大學工學部教授「ルアンアノサット」氏。米國視察の途八月十九日入京、東京工業大學、理化學研究所、科學博物館其他を視察、同廿七日横濱發渡米せられた。

一、暹羅陸軍「ヨータラック」軍醫少佐。一般醫學殊に小兒科方面研究のため八月十二日入京、目下聖路加病院に於て見學中、滯在約一ヶ年の豫定なる由。

評議員	倉田猛郎	正木直彦	江口定條	樺並造次	出淵勝次郎	伊三郎	北島多一郎	關屋貞三郎	遠山峻	白井義	醫學博士	目白退羅學生會館學監	主事	同	高久正義	高楠	久遠山	正義	長敬	田長	子爵黑田	文學博士	子爵加藤泰通	河井彌八郎	岡崎久次郎	川國順	德川順立	細川護立	石井健吉	犬丸徹三	侯爵	公爵	子爵	文學博士	子爵黑田長敬
-----	------	------	------	------	-------	-----	-------	-------	-----	-----	------	------------	----	---	------	----	-----	----	----	----	------	------	--------	-------	-------	-----	------	------	------	------	----	----	----	------	--------

同上

同人
文學博士 加藤勝太郎
文學博士 高楠順次郎
主事 目白遷羅學生會館學監

同 江 大 張
子 儒 加 藤 泰 通
同 三 郎

同岡崎久次郎
同牛爾八郎
同安住伊三郎

同 候 評 德 川 重 護 立 順 同 江 口 定 次 修

同 同 同
同 同 同
石 犬 三
井 丸 三
健 徹 三
吉 三

評議員
井上雅二
評議員
倉田猛郎

日本——盤谷航路定期出帆表
(最近の分)

より掲示出来ないことを御断りする。それ以後のスケデュールは兩社共全然不明で、その都度の發表を待つより外ない状態である。

大阪商船會社

三井物産船舶部

昭和十二年九月
會報第八號附錄

昭和十二年九月

日本印象記

盤谷タイムス掲載譯
ペストンチー述

三井ライン那智山丸は觀光團一行を滿載し四月十三日の灼熱の太陽を浴びて一路憧憬の日本へ向け盤谷港を解纜した。此の日三井埠頭は多數親戚知己の見送人で空前の賑を呈し、暫しの訣別を惜みつつ船内百度の炎熱も忘るるかの如くであつた。

一行は一等船客廿一名、二等船客廿七名、三等船客十五名、其他日本へ出張する約廿五名の海軍々人等であり、此の中日本へ學術研究の爲遊學渡航する十三歳未満の學生が五名乗船してゐた。

菅原船長を始め乗組員諸氏の心からなるサービスは長途旅行に經驗少き我々にとつて誠に感謝に堪へなかつた。出帆後四日間は暑氣と船内機關室の放熱のために甚だしく難澁の航海が續いたが、印度支那海を通過する頃から幾分溫度も下り、臺灣に近づくに従つて波浪高く、船體の動搖も亦著しいので二日間も食堂に姿を見せぬ者が多かつた。那智山丸は臺灣の最南端を通過した。突如吾等の眼に映じたものは、不幸にして坐礁し傾斜してゐる遭難船で、船長の語る處によれば、濃霧急潮のための遭難に相違ないとの事であつた。

航海第八日から氣温は著しく低下し尙次第に下降してゐる。私が本文を書いてゐる現在氣温は六十五度であるが、神戸着の第十日目には氣温は定めし低い事と考へられる。

甲板では乗客は何れも皆厚着をして *skittles, deck-golf, quoits* 等の遊戯に取り、日曜の午後には一同會して「競馬」に打興じ旅愁を慰めた。

うら若い婦人六名が美裝を凝らして六頭の馬に扮し、夫れゝ盤谷競馬場に出場する名馬の名をつけられた。船客及乗組員は皆賭馬を試み、ミス選羅は勿論滿場の人氣を一身に擔びスタートを切つたが意外にもドンデリであった。結局白衣の若き婦人（この人は Warunces と云ふ競馬名）が勝馬となつた。

何と云つても船中のミス選羅は一行中のの人氣者で船客一同のベットである。彼女は未だ修學中の誠に可憐の乙女で、其の魅力及其の美貌は一般的の注目的であるに拘らず、それを知らぬ氣に譲讓の美德を有する楚々たる麗人である。記者は今二、三年もしたならば彼女は充分に成人し、實に麗はしき艶姿の持主となるであらうと信する。

彼女は遠慮なく無邪氣に何人とも交際し、又船上の遊戯に参加し誠に一同の寵兒である。彼女を歓迎する電報が既に當船で受付けられ、大歓迎會、其他の會合が日本の各都市で彼女の到着を待つて居るのである。

他の觀光團員も歓迎文を多數の日本人より受け、神戸、大阪、及東京の諸市に於ける選羅關係の各協會の晩餐會に臨むことになつてゐる。日に一度は必ず食卓に上る日本食は大部分の船客には餘り嗜好に適しない様であつて彼等は故國より携帶して來た選羅の珍味を折々口にしたのであつた。

記者の經驗に依れば、日本食は支那食と差して違つた處がない様に思はれる。此處に三井ラインに對して次の事を希望し度い。

此の那智山丸は未だ定員を滿載して航海した事がないので今度の様に廿一名の船客に對し備か三名の給仕では手不足である事は明である。

勿論彼等三名はサービス大いにこれ務めて呉れたのであるが、彼等は此の外に食堂や甲板の仕事を兼務するので、吾等船客一同に充分に満足を與へることが出來なかつたのである。今回のような特別の場合には尙二名の給仕を増員したならば一層好都合であつた事と思はれる。

神戸上陸の二日前の事であつたが、船客一同元氣旺盛で、一同會して歌を唱ひ、和氣藪々として此の航海の名残を惜んだ。船客の一人なる亞米利加人は日本食を平氣で食べて居たが選羅の音樂には堪へられなかつたものと見え、煙

草、燐寸、書籍を大急ぎで纏め、一同が嬉々として打興じ居る間に突如姿を消して終つた。

午後には又競馬が催され今度はミス選羅が勝利を得た。

神戸上陸の前日の天氣を頗る懸念して居たのであるが、當日は春雨煙り氣温は著しく低下したので、外套持參の者はトランクより取り出して着用すると云ふ仕合であつた。

團員は盤谷を出發する時、薄いフランネルの服を携帶すれば充分であるとの注意があつたのに、此の注意は誠に先見の明を缺いたものであり船が四月廿三日（金曜日）午前五時に神戸港へ入港した時、風は激しく吹き荒み氣温は四十八度を示してゐた。

其の朝選羅觀光團を迎へた神戸の街は惡天候のために寂寥の中に横はつてゐた。埠頭に吾々を迎へて呉れたのは約百人の人々で、其の中に二人の日本婦人と、新聞記者及び寫眞班が約二十人であつた。

ミス選羅は日本服を着て姿を現はした。仲々美麗はしくはあつたが、記者は選羅の服装をした方が國民性並に個性を一番よく現はしたことであらうと殘念に思ふ次第である。

歸途神戸で三日間觀光することになつて居る關係上、今は神戸を素通りするに過ぎないのである。然し乍ら神戸の三井物産株式會社支店が吾々一行を午餐及觀劇へ招待して呉れるとの通知を受け居たが、一行が最も希望したのは温き衣服を買ふ事であつたので、船から眞直に出来合の冬着を買ふためにデパートや商店を漁り廻つた。

觀光團一行が神戸へ到着の前日フランコニア號の亞米利加觀光客が來著して居た爲め吾々は神戸ホテル及富士ホテルに分宿せねばならなかつた。日本へ上陸第一歩の事とて當日は手荷物の配分等に手間どり、選羅と米國の觀光客は右二ホテルに難然として投宿したのであるが、其れも暫らくして整理が出來やつと落ち付く様になつた。

午前十一時に窓外を眺むれば、雨は既に霽れ、それから吾等一同は電車に揺らるる事約四十分で殷盛を極むる興業街に來た。これは即ち神戸の“コニー・アイラン”實塲である。

大劇場は斬新の工夫を凝らし多數觀客を收容する設備があり、又多種多様の露店が相並び、未だ水曜日なのにも拘らず、何千人と云ふ群衆が休日氣分に浸つて居つた。日曜、祭日には推して知るべしと思はれる。

此の劇場の地下室にある廣大なレストランで午餐の饗應を受けた後、レビュー見物の招待である。

其のレビューは悉くものが素晴らしい、殊に女優の衣裳の華麗な事は筆舌に盡し難いものがあつた。

管絃樂團員のみでも樂士が五十人以上も居り、舞臺はチャラームクルング劇場の一倍半もあつた。

音樂は吹き寄せ、歌詞は日本語で、演技の大部分は主として扇を用ひる舞踏であつた。外國人の慰安には誠に結構であるが、舞踏が單調で見慣れぬため否恐らくは此の種の藝術に對する鑑賞眼がないため、外國人は直接に感興が起らないのは遺憾である。

各露店や商店を見物し午後三時に宿へ歸つた。

吾等一同は此の間三井物産の方々の御配慮により心行く儘に見物し、無事に宿に歸着することが出來た。

當日午後は數班に分れ買物に出かけて一日を過してしまつた。

商店街は恰も定期市の如く非常に興味があり且又参考となる所があつた。日本品は非常に廉價であるが、舶來品は關稅の關係で頗る高價であり、葉巻及巻煙草には約三五〇%の輸入稅が課せられて居る。

電氣使用料金一キロワット八錢（遙貨の五土丹に相當）で、電燈に惜氣もなく使用してゐる。主要の街路の兩側には僅か三十ヤードの間隔で電柱が立ち並び、各電柱には八個の電燈を取り付けてある。而して此の電燈はA-1形を

成して街路を挟み其の形狀は大市か、大祝祭日を聯想させるものである。神戸市は其の背後に丘陵を控へ、四圍の風光誠に明媚なのであるが、入港の折濃霧のために視野を妨げられ、船上より此の美はしき光景を眺めることは出来なかつた。

觀光團一行は一日中駆け廻つた精一杯の苦しい見物をしたのであるが氣候の涼しかつたため餘り大した疲勞も覺えなかつた。それで未だ市内を逍遙してゐる者もあるが、自分は氣温五十八度に達せざる密室でベンを走らせてゐる。明朝（四月廿五日）一行は「日本のマンチエスター」なる大阪市へ向ひ、三日間滞在の豫定である。其後一行の旅程は全部此の種事業に好成績を擧げてゐる日本旅行協會（ジャパンツーリストビュロー）に一任する事にならう。

神戸市に於ける最後の招待である神戸商工會議所主催の遙羅觀光團歡迎スキャキ晚餐會で一行は充分に御馳走になつた。

廿四日（土曜日）一行は自動車にて六十哩を走り大阪に到着した。當日は天氣晴朗で風なく此のドライヴは約一時間阪神國道を駕進したのであるが、實に車馬絡繹として交通頻繁を極め道路の兩側には空家空地と云ふものではなく、家屋、商店が櫛比し流石商業都市の名に恥ぬものがあつた。例へば盤谷アユチヤ間をドライヴしたと考へて見給へ盤谷の町端のバンシウを過ぎれば家屋とか、道路と云ふものはなく、亦商況を示すものは何にもないではないか、一行が大阪市に近づくに従ひ幾多の大工場や亭々たる煙突が目に付き、市内に入る際に車馬の交通は數回となく停止を餘儀なくされる状態であつた。

自動車、トラック、荷車、歩行者は幾千となく群がり蠢動し居る狀態である。

一行が新大阪ホテルに到着したのは午前十時、此處で大阪駐在遙羅國名譽領事安住氏に迎へられた。此のホテルは

九階の大建築で、客室は九百、實に豪華を極め、氣分の點からも又サービスの點から云ふも申分なく、あらゆる近代的設備を有するホテルである。

日本旅行協會は我が一行のために極力奔走し、各員に不自由なき様、細心の注意を拂つてゐる。

一行を代表するもの二名を選び、代表者は安住領事の案内で大阪の三官廳を正式訪問に出掛けた。

大阪市は日本史上に於ける古都の一つで、日本が今日の如き世界第一の地位を築くに當り、幾多の重要な役割を演じ、市の中央に毅然として聳ゆる大阪城こそは此の大都市の偉大なる由緒を如實に物語るもの一つである。此の城は建設以來、茲に幾百年の歲月を経過し、其の間幾多の變遷を見たのである。城郭の一部は原型に則り新たに改築されたが城砦及濠は今を去る三百七十年の昔日本の奈翁——豊太閤が築城せしゝの姿である。此の城は、七、八階より成り、頂上は眺望よく市内を一瞥の裡に收めることが出来る。城砦の一部をなす石塊はその大きさ大型乗合自動車程もあり、此の石塊を機械なるものが世になかつた時、如何なる方法で遠くより運搬し來つて之を積み上げたかは全く想像も出來ない奇蹟であらう。

此處を日々訪れる無數の觀光客は愛國心に燃え、又英雄崇拜の念深きを知る時、外國人達は感銘しないでは居られないものである。

城内には古代の遺物が詳細なる説明を付して陳列してある。此の城郭内には造兵廠其他の工場があり、兵器、彈薬を製造して居る。

一行は大阪城を後にし陸軍地方幼年學校に至り、此處にて安住領事より午餐の饗應に預かつた。

之れより東洋第一の世界的大新聞社たる大阪朝日新聞及大阪毎日新聞社の見學を行つた。各新聞社の一日發行部數

は二百萬、印刷機は一時間に一三三、〇〇〇部の印刷能力を有して居り、譬へて見れば、盤谷市内の新聞全部の一日發行部數を一分間に印刷し得る事となるのである。而して文字の性質上、活字を組むに當りては指を用ひねばならぬい。

尙同新聞社でライノタイプを使用し、英字新聞を發行して居るのであるが、發行部數は一日二萬五千部に過ぎない。右新聞社は又ラヂオを利用して絶えず最新のニュースを蒐集し國內遠隔の地及海外よりの時事寫眞には電送寫眞を利

用して居る。

兩新聞社は以上日刊新聞の外に、週刊及月刊の雑誌を日本語及英語で發刊し、其の印刷技術の標準が頗る高い事は全く驚嘆に値するものである。

尙盲人のために週刊新聞を發行し、之れは點字で印刷され、盲人が指先で讀まる様になつてゐる。右點字新聞の主筆は盲人で七歳の時に不幸失明した人であり、特に英國に點字研究に派遣されたことがある。

而して點字新聞主筆は最近の點字新聞の一論説を自ら朗讀して呉れたので、一行は甚だ興味を覺えた。何んとなれば、點字新聞の觀念及效用につき知識を有する者が一行中には殆んどなかつたからである。

尙一同へ、最近の點字新聞を訪問紀念品として配布して呉れた。現に大阪朝日、大阪日日兩新聞は各二、五〇〇人の從業員を擁し、殊に英字新聞の刊行に當つても一切外人の援助を受け居ない事は誠に注目に値する事である。本日大阪朝日新聞のラヂオ班はミス暹羅が故國盤谷の母親と電波による母子水入らずの交歎を行ひ、其の結果は大成功であつたと傳ててゐる。昨日及本日の新聞にミス暹羅の姿が現はれ、彼女の行く處猛烈なサイン攻めに遭ひ時は氣絶しさうな事もあつた。

大阪市の本通の街幅はラチャダムナーン通りであるが、町の両側には大建築林立し殷盛雜沓を極めてゐる。その大建築の一つはデパートメントストアと呼ぶ大市場であつて、誰でも是非一度は見物して其の偉大なる近代的科學的設備其他を嘆賞する必要があらうが、その實感を筆紙に現はすは殆んど困難の事である。

盤谷市のホワイタウエイ勵工場は同市で最大のものではあるが、右のデパートは此の勵工場の五十個を裕に収容する事が出来るであらう。

又右デパート内は數百の部門に分かれ、其の内部に商品が巧みに陳列され、サービスが至れり盡せりなので、大金を所持して來ることは甚だ危険である様に思はれた。デパートへ來て、必要品以外の品物を山程も買ふ人が多いが、斯んな眞似をせず、デパートを出て來る人はほんとに分別のある人であるに相違ない。

婦人が此のデパートに誘惑され、不必要な品物を買つた爲に今日迄に何軒の家が破産し、何人の主人が身代限りをした事であらう。

而して此のデパートにては、女店員の採用に當り特に注意を拂つたに相違ない事を認めたのである。

自分は暹羅の最も麗はしき娘と旅行し、日々彼女に接し、常にその嬌羞及無邪氣な魅力を嘆稱して來たのであるが一度デパートに入るや、ミス暹羅の美は自分の見る所では、以前程ではなくた様に思はれ、殊に暹羅の衣服を着てゐない時には猶更の事である。兎も角、彼女が暹羅の衣服を着てゐる時に於てのみ暹羅絶世の佳人と見事が出来るのである。ミス暹羅を頬色なからしむる程の女店員は十指を以て數へる事が出来る程である。これは讀者諸君よ筆者自身の日本婦人に對する感想である。

尚これから日本の首都東京を訪問するのであるが、此處は、生粹の日本美人の本場であると聞いて居る。日本の婦人をした事であらう。

人に就いて述べた序に健康にして愛らしい日本の子供達の事につき一言申述べなければならぬ。大部分の子供等は其の落窓んだ巴旦杏の様な眼、丸々と肥えた健康なバラ色の顔色をしてゐる。

文部省の役人の語つた處に據ると、日本の九歳以上の子供の就學率は九八、五〇%で、正に世界的レコードである。讀者諸君よ、此の比率を以てすれば、次に来るべき日本、即ち「太陽の下に於ける日本」は如何なるものであるかを御想像下さい。

廿五日（日曜日）は霖雨そば降る物寂しき朝を迎へ締め切つた室内に於てさへ七十二度の氣温であった。

午前九時に一行は自動車にて宿を出で、市内外の名所舊蹟の見物に出かけた。

一行は或る神社に詣でた。此の神社は暹羅人に殊更眼新らしくもないが、神苑の池に懸る半月形の神橋は吾々には物珍らしく、日本や支那の繪畫によく見る同形の橋を想起させるのであつた。

日本の傳説によると、此の神橋を渡ることは天國に至る扉を開くことを意味するとの事で、橋は急勾配となつてゐるため、此れを渡ることは容易ではないが、穴があるので足元がしつかりとして滑らかに渡ることが出来るのである。

橋を降る時は奇術に近い模倣をしなければならない。吾々一行が詣でた日の如く降雨の時はなか／＼骨の折れる仕事である。此の渡橋を敢行した者は多かつたが、渡橋を恐れた人々は、迂回して神社へ御詣りした。此の神社は日本歴史と因縁浅からぬものであるが、自分は美はしき幾百年を経たる巨木が鬱然と聳ゆるのが一入興味を覺えたのであつた。

次に世界第一の巨鐘を見物した。其の重量は一五六頓で、木造のお寺の屋根からつるしてある。

晝食のため宿へ歸つた。宿泊料は高級の設備及サービスの割には、盤谷のホテルと較べて實に廉價である。

各室共に浴室付で、料金は一日五圓、朝食一圓五十錢、晝食二圓、夕食二圓五十錢計十一圓で、遙賃七チカルに相當し、盤谷市のホテル（一日宿泊料食費共十二チカル）に比し遙かに優れたる設備を有してゐる。

尙此の外に宿泊料其他の一割をサービス料としてボーナス料として與へる規定になつてゐる。此れは客の手間を省くために出来たものである。

各室は暖房装置があるが、暑氣を防ぐ設備がないのを見て、日本には遙羅の様な酷暑の季節は恐らくなからうと想像される。

午後は自由行動の時間であつたが、婦人連は婦人協會の御茶の會へ招待されて居り、又數名の者は安住遙羅國名譽領事館の御茶の會へ招待を受け領事の家族達に面會することになつて居た。

同領事は遙羅國の勳章を佩用して御茶の會に出席した。彼は小柄の中老の紳士で、遙羅國と商取引の關係を結び、蚊やり香を焚く一種の器械を輸出する事を營業として居り、毎年遙羅へ右の器械を數百箱輸出してゐる。

自分は不注意のため大阪附近で本日競馬がある事を聞き漏らしたので其の競馬が大方すんだ時漸く競馬がある事を知つた位で、自分は全く失望落胆した。

又雨が降つて來たので、洋畫専門の映畫館へ行つた處、満員の盛況で座席もなかつたが半時間後に漸く席が空いた。

此の映畫館では幕間なしに午前十時より午後十二時迄三本の特作映畫を上映してゐた、其の映畫館は必しも映畫専門館ではなく寧ろ歌劇場に似て居り、聽衆一、五〇〇人を収容するに足る大規模のもので、聽音の設備も整つて居る。

何の映畫も日本版なので、映畫の筋が誰にもよく解る様になつてゐる。映畫館の内部は秩序整然として美しい案内

娘が客を案内して居る。特等席は一圓五十錢（一チカル）。上映中の映畫はウイリアムボーエル及マーナロイ主演の「結婚クーデター」及ジョン・クロード及ロバート・ティラー主演の「豪華一代娘」等であつた。

本日フィリッピン學生七十名よりなる學生觀光團が當ホテルに投宿し、ミスフィリッピンも其の一行中に居つたのだが、自分は未だ會つてゐない。遙羅とフィリッピンの絶世の佳人が宿を同ふしてゐることは吾々は誠に興味深きものを感じる次第である。

廿六日（月曜日）本日は大阪見物の最終日であつて、重要工場即ち、車輛製造工場と製鋼場見學の日である。

氣温は騰つて凡そ七十八度を示し、太陽は赫々として照りつける。外套を着てゐた者は之れ脱いで抱かへて歩かねばならなかつた。

一行に付添の日本旅行協會の人の話では、未だ當地へ來た觀光團で右の二工場の見學を許可されたものではなく、吾吾一行が初めてであるとの事、但し寫真機携帶は許されなかつた。

朝一行は貨車製造株式會社を見學した後郊外の工場地帯に自動車を飛ばすこと半時間にして會社の本館に至り、廣間で社長の歡迎を受けた。此の廣間に同會社製作品の雑形である大小様々の蒸氣機關車、電氣機關車、ディーゼル機關車、橋梁、各種の機械用汽罐及蒸氣ローラー等が陳列してあつた。

茶葉の養殖を受け、社長の挨拶の辭あつて後一行は工場へ案内された。社長曰く「昨年當社は遙羅より（外國よりの注文として最初の）機關車の注文を受けた。何卒製作品が遙羅政府の満足を買ひ、今後共製造御申越ある様に希望して止まない」と、此の工場見學は吾々門外漢に取り一種の教育であつた。即ち汽筒の精密部分より車輛の粗大な部分に至る迄、如何にして部分品が製作され、組立てられるかを吾々は直接に見學する好機に接したのであつた。

機關車建造に要する部分品が全部當工場内に於て製作されて居る。機械の運轉状態を見る事は誠に興味深く、或る機械の如きは素人の眼には驚嘆に價するものがある。吾々は鐵道によつて旅行する計畫を立てることしか知らなくて、未だ吾々を海山幾千里を隔てたる處へ運ぶ原動力を生む機關車の建造の事は夢想たにしなかつたのだ。眼前に此の状態を見て誠に思ひ半ばに過ぎるものがある。

殆んど凡ての作業は機械を用ひて行はれてゐる。丁度四臺の機關車が建造中であつたが何れも各々工程を異にして居つた爲め、吾々は幸ひにも組立の様子を研究するの機會を得たのであつた。頭上に右往左往する起重機は各工場にて製作する各部分を組立工場へ運んで行く。現に滿鐵注文の巨大な機關車が建造中であつた。

毎年當會社は一二〇乃至一五〇臺の機關車を建造するのであるが、尙外に輕機關車六〇臺、電車六〇臺、橋梁二五〇〇噸、汽罐二〇〇臺、各種の機械二五〇臺、綿糸及綿糸工場用の紡錘一五〇、〇〇〇本、街路築工用ローラー二〇〇臺をも建造するとの事である。

此處に働く職工凡そ二、五〇〇人、皆日本人である。

機械の各部分品を製作する精巧な機械によつて職工の作業は敏捷且簡単となり、労働時間を省く事が出來能率は増進するに至つた。

右の様な次第であるから手工業に依れば、數日を要する處を機械を用ふれば僅かに數分間で而も正確に完成することが出来るのである。外部からは發見し難い鐵器の裂け目を發見する機械があつた。これは一種のX光線を利用する器械である。此の器械の實驗は見なかつた。

それから案内されて、鑄造所及試験所を視たが、その間凡そ一時間有餘を要したにも拘らず、吾々は只珍らしいものばかり見て興奮した爲めか殆んど疲勞を覚えなかつた。然し午餐に盛大なる支那料理の御馳走に招待され着席した時は、流石に身體の疲れを覚えて、食後の麥酒一杯は氣持を頗る爽快にした。

此處から吾々は數分間自動車に乗り、有名な中川製鋼株式會社に赴いた。此處でも亦暫しの間演説が交換され、我

等一行中のビヤビダカスが答辭を行つた。彼は吾々の辯論者として誠に重寶な一人で殊に彼の流暢な辯舌と堂々たる體軀は如何程逞羅觀光團の威信と品位を昂めるに與つて力があつたことであらう。

此の製鋼社々長の演説中に、留意すべき一節があつた。それは即ち「同會社の代表者が逞羅國のナコン、スリタマラート附近の鐵鑄調査のため派遣されて居り、目下ルアン、ヴィセスなる人と調查の交渉中である」とのことであつたが、吾々一行中の誰一人として逞羅の南方に斯くの如き鐵鑄があるのを聞き及んだものはない。但し錫鑄なら知つて居る事を社長に一言したれど、彼はあくまで鐵鑄なる旨を主張して止まなかつた。此の會社も亦廣大な工場で、面積數百エーカーで、場内は二つに區分され、一つは原材料、他は完成品を納めてあつた。

吾々は鐵鑄を精鍊する装置を用ひた鋼鐵の製造法を見學した。鐵が熔解して巨大な坩堝の中に流れ込む光景は、學生時代に讀んだヴァーチルの地獄篇を思ひ出させるのであつた。如何にして灼熱せる鋼鐵が種々の型に變はるのであるか、又如何にして電氣鍛金が出来るかは拙い筆には表現し難い處である。

職工が火箸様の鉄を用ひて灼熱の鋼鐵を巧妙に挟む光景は眼のあたり見た者でなければ想像し難い處である。此の鉄は重い赤く熱した鐵を取り扱ふ時に人間の指の代用をなすものである。

吾々は、工場内の或る處で、職工が灼熱の錠鉄を火箸で摘み出し、二十ヤード離れた處に居る職工にその門を投げ

ると、其の職工は少さい煙突様の器の中にこれを受け止めるのを、只驚異の眼を以て觀たのであつた。而して此の綿釘は鐵板を打ち付けるに使用するものである。此の灼熱の綿釘を投げる際に少しでも油斷すれば大變な事になるのであるが、その巧妙、正確な事は絶対に狂ひがないのである。誠に忘れ難い光景であつた。鋼鐵の棒、鍍金の鐵線、生子板、留釘、有刺鐵條は何れも機械を用ひて多量に生産され直ちに荷造の上、河畔に繫留の船舶に移し、海外へ輸出されるのである。右の状況は、吾々には一種の夢物語の様に思はれた。而して最も著しい特徴は職工が動いてゐるとは云へそれは名ばかりで、只僅かに、機械の運轉状況を觀測し、時に應じて此れを調節すればよいのである。

今工場内諸作業に就き縷々記述したが、工場の真相を讀者に傳へる事の出来ない憾があるのは宜しく御宥恕を願ひ度く、誠に拙筆の宜くする處ではない。讀者にして現状を親しく視察する者でなければ、吾々の體験をその僅味ふ事は殆んど困難であらう。此の視察が本日の日程の終りではなかつた。

一行は此の工場を出ると自動車の中へ追はれる様にして乗り込み、大阪朝日新聞社主催で、支那料理の御馳走になつた。此の新聞社は日遜國交の増進に大なる努力をなし非常に有名である。斯くの如く處々を見物中ミス暹羅は數ヶ所の社交會にて招待を受け實にミス暹羅の現はれた處は何處でも大歓迎を受けた。

一行は夜行列車で日本の首都——東京——へ向つた。寝臺車は夜の旅行には實に具合がよかつた。朝四時半と云ふに東天は白み始めた。然し霧深きため名高き富士山の姿を見る事は出來なかつたのは誠に殘念であつた。鐵路の沿線は田畠あり、工場あり、美はしき景色ありて、日本の繁榮を偲ばしむるものがあつた。

午前七時に貿易港横濱を通過し、一行は午前八時（廿七日火曜日）東京に到着した。今度投宿したホテルは、大阪の比較すれば設備、サービスの點に於て誠に貧弱なるものであつた。（略）

一行は午前十時に白木屋の招待會に臨み、午餐の饗應を受け、生花の實演、さては日本花嫁の着付の順序を觀たのであるが、一行は長途の旅行のため疲勞し切つて居つた故、餘り興味を感じなかつた。（略） 同日午後暹羅協會主催の招待會に出席者が少數であったのは、矢張り旅の疲勞のためであつた。之れに反して日本人側よりは多數の貴顯紳士が出席せられた。

當夜は自由行動で、銀座街頭に出て買物、散歩或は食事を攝つて各自思ひ／＼に享樂した。銀座は夕闇迫る頃ともなれば、全く夢幻郷となり、街路は都人士及觀光客で雜沓を極め、幾十萬のネオンサインが高層建築を飾つて居た。流行品を賣る商店の飾築は如何も歩道に面し且又此歩道には小賣商人が露店を出し各種の商品を陳列し途行く人士を呼んでゐた。靴を磨かして居る間に、帽子を洗濯して吳れる店もあつた。此の店には蒸氣釜、ブレツス、各種の型、裁縫具を備へ、五分で新しい帽子が出來るのである。

又他の處では、一青年が一挺の銃と黒い紙を用ひて、不思議なものを作つてゐた。彼は藝術家で人の横顔を黒色の紙に切り抜いて行き、其の顔に十分達はぬ輪郭を作り、これを白紙の上に貼り、影繪が出來るのである。而もこれは二分で出来る。吾々と一緒に散歩したものは皆、影繪を作つて貰つたが、容易に誰の影繪であるかが解つた。自分は自分の横顔がそれ程醜いとは思ふた事がなかつたので、友人に聞いたたら全くよく出來てゐるとの事であつた。而も一枚僅かに二十錢也であつた。希望により署名も切り抜いて吳れる。

歩道には尙商人達が他に幾つも巧妙な品物を賣らうとして種々と實演し道行く人を呼んでゐた。吾々は何んだか大きな「市」の中を通つて居る様な氣がした。然し此れは定期市でなく毎晚ある。晝間は路上に露店は全く姿を現はさないのである。

銀座本通りは、東京名所の一つであるので、晚餐後一時間銀座を毎日散策することはなか／＼興味深く、種々近代的感覺を満足せしむる事が出来る。誠に不思議に堪へないのは、小賣商人が斯様に忙しく働いて居るにも拘らず、道路は汚物、塵埃は全くなく極めて清潔な事である。

これは日本人が潔癖なるがため、互に相勵まして清潔を重んずる故であらう。塵埃箱が二、三ヤード毎にあつて

警官も亦其の箱を利用することを命ずるのである。

廿八日（水曜日）快晴、氣温六十八度

午前九時出發、市内見物の豫定であったが一行が時間を厳守せざる陋習あるため三十分遅延した爲に、見物すべき箇所を省略したのは迷惑千萬であつた。都市計畫による市街、街路は感嘆すべきもので、殊に都市美の點より見て寛に壯麗なるものがある。

住宅地区は頗る風光宜しく、庭園や公園の設計は美はしく出来て居る。こゝに於て我々の想起せねばならないのは現在の東京は昔とは異なり一九二三年の大震災復興して未だ間もないことである。街路は交通頻繁であるが、自動車の運轉技術頗る優秀なるため、交通が混雑する事は殆んどなかつた。而して交通整理は電氣信號燈にて行はれる。

東京には三萬五千臺の自動車があつて、其の九十五%はアメリカから輸入したものである。自分は日本へ来て未だ無蓋の自動車を見た事はない。恐らく無蓋のものは此の國の氣候の關係上面白くないものであらう。

自動車税は年凡そ五〇〇圓である。運賃と輸入税との合計はアメリカの港に於ける自動車の本船積込渡値段と同額である。其れ故羅連國で十%の輸入税に不平なる人々は日本の例に鑑みて感謝すべきであらう。

此處では自家用の自動車を抱へることは非常に費用がかかる。それは自動車税の外に運轉手を抱へることが車輛主には重い負擔であるからである。立派な教育を享け、然も申分なき服装の紳士の月給が百圓乃至百五十圓である。斯くては退職に於ける様に二十チカル乃至三十チカルの俸給で臺所で働いたり、洗濯物をしたり、子供のお守りをしたりする事を日本の紳士には望めない。

タクシーは安いから皆之れを利用する。自動車の出現のため、人力車は全く姿を没してしまひ、時たま之れを見受ける事はあるが、これは誠に珍らしいのである。此の人力車は一時來朝する外人を非常に喜ばしたものであつたが、やがて其の姿を日本の都市の街上より全然消してしまふであらう。

それから自動車を飛ばして明治大帝（一八七五—一九〇九在位）の御靈を祀る明治神宮に參拜した。

大帝は退職に於けるチャーチル・コーン大帝にも比肩すべき御方で、日本をして今日あらしめ給ふた英君である。日本歴史に特記すべき三大事件が大帝の御治世に起り、日本をして世界の檜舞臺に押し出し、列強の班に列せしめ給ふた。其の三大事蹟とは一八八九年の憲法發布、一八九四年の日清戰爭、一九〇四—五年の日露戰爭である。

日本國民が大帝を追慕し奉るは誠に故ありと云ふべきである。而して永遠に御靈を御慕ひ奉らんがため國民が此の神社を奉建したのである。其の構造は日本の古代建築に則り質素にして、神社の周圍に最も美はしき神苑を繞らし、參拜者は何れもその英靈に顎突くのである。

神苑の中には畫家が繪筆を執り或は又靜寂の裡に疲れし身を休めるに適する箇所が數多ある。此處よりは繪畫館へと歩を進めた。これは明治大帝の御世に起りたる重要な出來事を書いたる一流畫伯の力作が壁に掲げてある。此の建物は美しい大理石のみを用ひた誠に堂々たる日本式の建築である。參觀人は館内にては草履をはき、靴はカツ

アをつけることになつて居る。そのため館内は常に清潔である。
館内に掲げたる繪畫は凡そ同型にして日本當代の畫伯の筆になるもので畫中に現はれたる事件の年代順に掲げられてある。

一行は此處に僅か一時間しか居らなかつたのであるが、専門に研究せんとする人なら一ヶ月でも充分とは云へないであらう。未だ外に見物する處があつたのであるが、一行中には時間を正確に守らないものがあつたので見物する事が出来なかつた。

それから一行は有名な三井物産會社及三井退羅室主催の歡迎ティバーティニ臨んだ。

陸海軍關係名士、三井の重役等數多の列席あり誠に盛大なるパーティであった。自分は宴會後横濱（東京より汽車で一時間）へ赴いた。その目的は、日本競馬俱樂部の馬場を見學するにあつた。此の馬場に關しては、現に競馬が催されてゐる東京の競馬場を見學してから、稿を改めて申し述べんと思ふ。

一行は宴會後記念撮影をなし、それから餘興を見物したのであるが、前述の如く其の餘興には自分は出席しなかつた。出席者の話によれば、彼等は三井物産の歓待を非常に感激し、殊に餘興は多くの人々に物珍らしく感興を與へたとの事であつた。

當夜は自由行動で、三々五々銀座に赴き、買物をなし銀座情調を満喫した。日没後氣温は凡そ六十度に降つた。此の氣候は旅行には絶好である。

廿九日（木曜日）本日も亦日光麗かにして誠に快適なる日であつた。氣温七十二度

一行は横濱見物に赴いたが、自分は長府（自動車で東京より四十分）へ東京の競馬を見物に行つた。横濱及此の競

馬に就ては稿を改めて御知らせする。一行の報する處に據ると、横濱及鎌倉で樂しく一日を過した、殊に鎌倉の大佛の巨像は珍らしかつた。一行中には東京へ歸つてから、市の上空を飛行機で飛んだ者があり、其の話によれば上空より見た東京は頗る美しかつたさうである。尙飛行機に初めて乗つた人もあつた。

本日最後の豫定は、夕方日本式の壯麗なる料亭に於ける歓迎晩餐會であつた。此の建築は聊か珍奇の嫌はあつたが其の内部の雄大、清潔、質素なる點は吾人の赤く忘れる事の出來ない處である。

而して其庭園も亦意匠を凝して、處々に飛瀑岩石あり恰かも天然景勝の地の如き風情があつた。

晚餐後一行は日本舞踊見物の招待を受けた。自分は本日一日駆け廻つたため疲れ果て宿へ歸つた。一行を斯の如く各方面から招待して下さるは誠に有難いのではあるが、一行は短日月の間に日本及日本人を研究せんとして出かけ來たものであり、又公式歓迎會のために日本を見物するの機を逸するので、觀光團一行は餘りに數多き歓迎會を喜ばないことを日本の方々は御忘れない様に御願し度い。明日（卅日）朝東京を發し名古屋の産業大博覽會を見物する筈。

五月二日 於名古屋

東京よりの記事中日本獨特の眞珠養殖につき申述べる事を省略したのであるが、其の養殖法の發見及發達は頗る興味あり且ロマンチックなる故何れ稿を改めて同問題について一文を草せねばならないと思ふ。尙其の一文は二欄以上に及ぶ筈であるから、「日本印象記」の連續寄稿の後に廻したいのである。

一行は金曜日「四月卅日」の午前十時半に名古屋へ向け大東京を出發した。驛頭には東京在住の同胞約百名が見送つてくれ、「チヤイヨー」を唱へて此の行を盛んにして呉れた。態々横濱迄同車して見送つて呉れた者があつた。そし

て横濱で別れる際に此の人々の中には故國に残せし家業が心配になり、深き吐息を漏らすものもあり間もなく暹羅米を味ふことが出来るのを羨ましがつてゐる者もあつた。

日本に居る暹羅人は日本の米には弱つてゐる。暹羅米と日本米とを比較すると味及栄養の點に於て非常に差違がある。日本米は暹羅のカオニオに似てはゐるが、粘着性あり、消化及栄養の點より見ると消化し難く、且又吸収し難い様に思はれる。然し乍ら米食民には異味亦珍重すべしである。

上京する時には夜行に搭じたのであつたが、今回は朝出發したものだから日本の内地を觀察するの機會が充分にあつた。吾々が通過した地方は日本の最も肥沃な地方であつて、車窓より幾多の田畠、果樹園、庭園の移り行くのを眺むる事七時間にして日本に於ける農業が盛んなる事を充分に知る事が出來た。丘陵でさへ耕作に利用されて雑壇式に切り拓いてある。熱帶の植物を栽培してゐる温室も仲々多く又百花漫淵と咲き亂れる庭園もあつた。

茶を栽培して居る地方の情景は實に壯觀を極め、幾哩にも亘りて幾多の茶園が連なり、或るものは其の形巨大な鼠がはへるが如く、或は又洋傘やキノコの形に刈り込まれてゐるものがあり正に千種萬態である。

稻は所在に植えある様であるが、暹羅のそれとは其の形狀、大きさ、色が異つてゐるのを見受けたのである。要

之右の光景の美しさ、自然美或るもの人工美にして只々驚嘆するばかりである。而して凡てが渾然と融合したる美しき光景は旅人の腦裏に深く印して忘れ難いのである。

一行を乗せた汽車は今断崖の上を走り、かと思へば忽ち海濱に出でてトンネルに入り、これを出づれば脚下に幽谷横たはる——此の千變萬化する素晴らしい又心地よい風景は能く拙筆の描寫し難い處である。讀者よ希くば機を見て渡日せられ親しく此の風光に接せられるに如くはなしと考へるのである。

鐵道沿線には大小種々の工場は頗る數多く僅かに七時間の汽車旅行の中に三百乃至四百の工場が各所に點在してゐるのを見受けたのである。既に見聞せる處により日本の産業が如何なる程度に發達したるかを充分に知る事が出来た。即ち日本人は單に原料品を生産するに止まらず、製造工業で盛んに完成品を生産してゐる。

暹羅は原料品を海外へ輸出せねばならない。即ち暹羅には未だこれと云ふ製造工業がないために、日用品は悉く輸入に待たねばならない實狀である。尙今一つの不利な條件と云ふのは、暹羅は人口稀薄と氣候が住民の氣力を減退せしむる（天惠の豊かな國——日本——の正反對である）ことである。

嘗て佛蘭西の作家が世界漫遊の途次大熊星の星座につき途方もない物語を聞いた。濠洲人は此の大熊星は彼等を表象するものとして毎日之れを眺めて大いに得意になつてゐるとの話を聞いたのであつた。

然るにその作家が大熊星群が一定の角度を以て、天空に懸るを見、嘆じて曰く「自分は生れてより以來斯様に失望したことはない、何となれば自分は熊の形をしたる一大遊星を見ることが出来るものとのみ期待してゐたのであるが事實は之れに反し殆んど同じ大きさの七個の遊星を結び付ける線が熊の形に類似してゐるのであつた」と。

自分は過去何百回となく靈峰富士山に關する書籍を読み「何かしら靈妙なもの」「無雙の壯觀」「日本の偉大なる象徴」たる感を懷いたのであるが自分も亦實物を見た時或は佛蘭西作家の轍を踏むのではないかと心配した。自分は食堂車に居た正午を少し過ぎた頃、列車は三島驛に到着した。右手に高峰が屹然と聳え立つのが見え、日も麗かに晴れて、巨大なる白雲何處よりか眼前に浮び出でた。忽ち此れが世界に名高き富士山であることを知つた。峰の上部に白雲を戴き雄姿堂々白扇を逆に懸けたるが如く、我々は思はず「嗟々」と嘆稱の聲を放つたのである。

富士山の麗容には只々驚くの外はない。

食事も忘れる事數分間茫然自失の體であった。其の壯麗、其の容姿、其の白雲を載る山頂は實に觀光客を魅惑し去つたのである。富士山は何かしら人を引き付ける力を持つてゐる様だ。

自分はこれ迄世界の處々を遊歴し富士山よりも高い山を見たのであるが此の靈峰ほど最大の喜悅と嘆稱を以て眺めたものはない。自分は嘗て富士山を畫いた幾多の繪を見たのであるが、何れも眞の姿を表現したものはない。富士山の真價は實際見た者でなければ鑑賞する事は出來ない。日本人が日本を象徴する此の靈峰を尊崇して止まないのも蓋し當然の事である。靈峰に霧が懸る事あるために、常に車窓から麗容に接する事が出來るとは限らない。一行は幸運に恵まれて、山麓を通過した日は天氣晴朗にして富士山の麗容を悉にした。

車窓より約一時間富士山の様々な姿態を眺める事が出來たが、三島よりの眺望が絶佳と云ふべきである。

午後五時名古屋に到着。名古屋は日本第三の都會で、人口百萬を超過してゐる産業都市である。一行は二軒の旅館に分宿した。自分の投稿したのは「觀光ホテル」である。宿の名稱には魅力を感じないが、其の設備が頗る新式で、等の各室共豪奢な浴室を備へ、一日の宿泊料一人に付六圓、(四チカル) 設備の行き届いた割に頗る廉價である。

市の本通は東京同様に煌々と電光が輝いてゐるが凡そ小規模である。丁度此處には博覽會が開催中で之を見物するのを楽しみにして居るのであるが、當地滞在は僅か二日である。二日では致しかたない。殘念なことである。

土曜日（五月一日）

一行は一九〇三年退羅國王チュラーラン陛下の御寄進に係る佛陀の像を安置せる寺院(日退寺)に参詣した。

中空に高く聳ゆる名古屋城は四圍に濠をめぐらし日本式の建築にして遠く三百年の昔徳川將軍の建造せるものである。一行は時間の關係上、城内を見物する事は出來なかつたが、城外には老樹巧みに配置されてゐた之れより一行は

名古屋汎太平洋平和博覽會を見物した。會場の敷地は百三十二エーカー市内より自動車にて五十分钟を要する。

會場は一都市を形成し各國の物産陳列館が丹青の妙を凝らし、且又様々な人目を惹く嗜好に建造されて居る。其の間遊歩場が此れ亦芝生、草花、噴水の間に設けられてゐる。

一行は午後三時にホテルへ歸る豫定であったが、誰一人として博覽會場を出ようと云ふ者がなかつたので出迎へに來た自動車は空車で歸らねばならなかつた。

一行の者は悉く博覽會場中に散在し、時々買物を携へた人々と行き遭ふのであつた。午後六時には小雨が降り始めたので吾々は次第に假の宿へ足を向けたのであつた。

本日は博覽會の十一分の一も見物する事が出来なかつたから、明日は朝から午後四時迄出来るだけ見物し、五時發の汽車で京都へ赴く積りである。一同は此の重要な博覽會見物に僅か二日の短時間を割り當てた事に頗る不満の様に見受けられた。然し博覽會で見た日本及諸國の出品は誠に興味深いものがあつた。

日本の商品及製作品の出品物は小は有名な鍵針より、大は錨迄網羅してあつた。往昔、日本の商品は大半模造品であつて、永持ちがしないものと、吾々は考へてゐたのであるが、現實に見たる處により昔は昔、今は今であつて著しく變遷發達し、今や日本は世界の需要に應じた耐久性の而も廉價な商品を充分に供給し得ることを確信するに至つたのである。日本に於て生産し得ないものは何一つもない状態である。殊に價格の廉なるは最も注目すべき點である。

博覽會設立に要した經費は三百萬圓に達し、參加國は三十ヶ國、實に退羅も其の一つにあり、退羅の出品物は仲々よく、其の代表的のものが陳列されてあつたが、退羅館は退羅式の建築に範を取つて居なかつたので物足りなく聊か失望した。一同は夕方頗る疲勞したのと、小雨が降つたので夕食後外出した者は少數であつた。本日終日小雨の上に

強風さへ加はつたため、誠に不愉快な一日であつた。

日曜日（五月二日）

小雨と共に朝を迎へた。有り難くない天氣だ。然し乍ら一生の中再び名古屋博覽會の様なものを見物する機もないと観念して雨が降つて辛いけれど勇ましく出かけた。一行中の中年紳士は病氣になり京都へ出發の時刻まで休養する事となつた。

既報の如く本日は吾々觀光團に取り憂鬱な日であつた。と云ふのは小雨が昨夜より引續き、本日の丁度午後四時——即ち京都へ向け出發する時刻まで降り續いたからである。天帝の御氣嫌斜であつた様に思はれる。要するに名古屋の觀光は餘り樂しいものではなく、若し彼の有意義な興味深い博覽會が開催中でなかつたならば、名古屋市は自分の記憶に少しも残らなかつたであらう。

一行中に洋傘を携へて居つた者は少なかつたので一同は取り敢へず洋傘を買ひ、幾組かに分れて博覽會場へと赴いた。幸ひ構内には黒色の砂がまいてあつたのでぬかるみはなかつた。會場には多くの物品が陳列してあつて、何れも買ひ度いもの、又は有益なものばかりであるが、これに關して詳細に記述する事は此處では避けて置く。

會場の各陳列館は其處に出品せる各國の特徴をよく現はしてゐる。會場の地圖には各部を番號で示して呉れたなら入場者は如何に助かつたことであらう。右の様な状態であつたから、目的の箇所を捜すに伸び時間を費した。不便を感じたのはこればかりではなく、出品物、製造者、效用の説明は日本語のみを用ひてあつた事である。苟しくも國際的な汎太平洋博覽會である。出品者及入場者は日本人ばかりではないのであるから若し英語——東洋に於ける商業用語——を少しでも使用したならば入場者をして博覽會より更に多くの智識を得るに大いに役立つたばかりでなく此

の國の幾多の産業及生産品を外人入場者（此の人達は何れも商用の目的で來遊せられたのかも知れない）から更らに深く認識して貰らへたであらう。右二個の缺陷を除けば此の博覽會は諸施設を巧妙に配置した誠に嘆賞するに足る一大事業と言ふ事が出來る。

一行は午後五時發で名古屋を去り、八時に京都に到着、今度は田畠、農園はあるが、工場と云ふものが少ない農村地方を通過したので大して興味を感じなかつた。京都に到着した時は快晴であつたが相當冷氣を覺えた。宿を京都ホテルに取る。此のホテルは京都第一ではあるが最新式の建築ではないので、其の設備の點に於て大阪、名古屋の最近の建築に係るモダンなホテルに較べて遜色がある。

一行は名古屋の博覽會見物に力を注ぎ、疲勞したので大部分の者は早く就寝した。名古屋及京都にては、ホテル内の食費が他の都會よりも高いので、外に出て或る者は日本料理屋で、或る者は支那料理屋で食事をとつた。屋内の氣温は七〇度、街頭は凡そ六三度、未だ外套を離すことは出來ない。

五月三日（月曜日）

今日も天氣快晴、氣温は屋内七二度、屋外六五度。

午前九時、遊覽バスに搭じ、市内見物に出發したのであるが、多くの者は各自自動車に乗り見物したがつて居た。一行は京都御所を外部より拜した。京都は遷羅に於ける *Kyungo* に相當し、三百年前よりの帝都であつた。明治維新となり天皇の御親政の御代になり東京が帝都となつた。御所の内部は時間が少いために拜する事は出来なかつたのであるが、現在其處には御起居あらせられる方ではなく鄭重に保存されて居るのである。御庭には亭々たる老樹綠の芝生の上に立つ風情繪畫にも喩へられよう。自動車を構内へ乗り入れる事は禁じてある。其れより二條離宮を拜

觀したが、之れも外部から拜んだだけで、城櫓と城濠をも備へた古城である。次に動物園を見物したのであるが、動物についても、其の種類についても特筆すべき事がないので失望した。然し乍ら誠に興味深く感じたのは、何の檻の前にも少さい臺があつて、その上は仕切りがついて居る。此の仕切の中に一定の動物に與へる餌を入れて置く、錢入箱があつて之れに餌の値段表がベンキで書き付けてあつた。

餌を動物に與へ度い人は銅貨を錢入箱に入れてから餌をつまんで投げ與へるのである。右の慣習は日本國民の心理をよく説明するものであつて當局者は深くその國民を信頼してゐるのである。而して此の方法は國民精神をして信頼の置ける様に又其の行爲を誠實ならしむ様に教育する一方法である。多くの小學兒童がこの餌の値段表を見ても其の餌には一指も觸れず通り過ぎて行く。

正午一行は宿へ歸つたのであるが、多くは宿で晝食を攝らず、支那料理屋へ押し寄せたのであつた。之れには暫らく支那料理屋の主人も啞然として居たのであるが、吾々の前に澤山の御馳走を並べて、見事なサービス振りで應待した。定食は麥酒付一圓六十錢（一、一〇チカル）均一で盤谷の支那料理屋の約三倍であつた。

午後は又バスに乗つて市内見物。先づ武德殿に至る。此處では柔術、相撲、擊劍、弓術を見た。これは官立であつて各武術を組織的に教授する目的として居り、婦人が弓術及劍術を稽古してゐるのを見た。

次に日本の「聖林」を見物した。京都市郊外にあつて、廣大なる敷地を占め、屋根及壁が硝子張りの棟が幾つか建ち並び、其の各棟が夫れぐ分業で映畫事業を營んでゐる。不幸にも一行が訪問した時は映畫製作の實況を見學することは出来なかつたが、吾々は失望はしなかつた。何んとなれば漫畫と日本の映畫物語を上映して呉れたり、映畫スター（その中の一人は美しい女優であつた）と記念撮影をしたからである。各種の撮影舞臺、諸道具があり、幕には

美しい田舎の風景が描いてあつたが、映畫製作に使用するトリックの數々を見ては映畫ファン連も吃驚せざるを得ない程であった。當所で製作する漫畫はその技術に於ては遠くアメリカものに及ばないが、満更ら捨てたものではない。午後六時歸館、氣温は六二度に降つたため、冷氣身の震へるを覺ゆる様であつた。或る者は宿で夕食を攝り或る者は街で腹を括へてから樂しい買物に出かけて行つた。各都市夫れぐ、特有な珍らしいものを賣つて居るので買物に行くのは何よりの娛樂である。從つて吾々の好奇心は絶えず緊張して懷中が寂しくなつても、お金と相談して品物を買ふことを無上の楽しみとしてゐる。

京都の特産は京人形と郷土藝術品である。之等の御土産品はその精妙華美なる割合に價格頗る低廉で餘りに買ひ込んだがため如何にして盤谷へ持ち歸らうかと心配した程である。土産物を入れるために新たに旅行鞄を既に買つた者もあつた。自分が盤谷へ持ち歸る荷物の數は出發の時携へて來た數より遙かに多くなる事は疑ひない。

火曜日（五月四日）

京都より汽車に乗り一時間で古都奈良に至り樂しき一日を過した。

本日は氣候快適にして九時に到着してより時の過ぎ行くをも忘れて行業を恣にした。大佛を安置する巨大なる大佛殿あり、世界第一との事である。この大佛は千二百年の昔に建立されたもので、蓮花の上に安置された座像はその高さ五十三呎、重量四百四十噸との事である。此の佛像に金箔を張るに金二百八十八磅、水銀百六十五磅を要した。而して大佛殿は建立以來二回も兵火に遭ひ再建された。之れは世界第一の木造建築で佛教藝術上興味津々たるものがある。其の庭園及樹木も亦風致極めて宜しく一行に多大の印象を與へた。此の大佛殿等を奈良東大寺と稱してゐる。奈良公園で殊に注意を惹くものは神鹿である。神鹿は放飼で彼處此處に群がり、觀光の人々が餌を與へ様とすると集つて

来て手の上にある餌を食ふのである。此の鹿は從順で何の危害も與へないので誰にも可愛がられてゐる。丁度何千人と云ふ學校の生徒が遠足に出かけて來て神鹿と戯れてゐるのを見た。正午はホテルで晝食を攝つた。奈良は小都會だから吾々連日の旅行で疲れきつた旅人は旅籠屋の様な處で休息せねばならないかと不安に騒られてゐたが、其のホテルを遠方より見れば高臺にある堂々たる建物には一驚した。大都會のホテルにして恥しくない大ホテルである此の小都會に此の大ホテルを經營して採算が取れるかどうかと思つたが多くの觀光客の來宿するもの絶える事なしと聞き成程とうなづかれた。自分は若し時間があつたなら奈良の如き四圍數哩に亘り美はしき景色がパノラマの如く展開し、宛然一幅の繪畫にも等しきこの風光明媚の地に一週間の間暮し度いものである。

此處で都合よくミスフライツビンに會ふたが、當方のミス逞羅には先約があつて居合せなかつたのは残念であつた。若しミス逞羅が居たら、兩國の絶世の佳人が相並びて撮影する好機會に恵まれたことであらう。一行はミスフライツビンへ紹介された處、彼女はなかゝ社交的で吾々達と隔てなく談話を交へた。實に彼女は美しい、若しミス逞羅と竝べたら其の優劣を定める事は困難であらう。

其の話す英語のアクセントの中に西班牙の鼻音が交つて居つたことは私の誠に面白く感じた所である。逞羅觀光團一行と撮影し、又個人撮影もした。ミス逞羅よりは丈高く、均整がよくそれ顔が朗らかで愛らしい。

一行が京都へ歸つたのは午後四時半で、六時には街頭に出て、或は見物に或は買物に時を過した。氣温は更らに降つたが心地よい。

京都を出發した四月卅日は恰も總選舉の日であつたが、今日の新聞によると日本政界は益々混沌の状を呈して來た

事を報じてゐる。一行が五月九日に日本を離れる以前後報に接せられる事と思ふ。

火曜日（五月五日）

午前中は荷送に費す、本日は自由行動の日であつたので、各員はプログラム中にない名所を見物に出かけた。此事に關し、御注意願ひ度い事は、何れの都市を見物した時も時間が不足で見物すべき所の一部を省略せねばならなかつた事である。

日本を正しく認識せんとするには、少くとも一、三ヶ月間滞在するの必要あり、今回の如く僅かに二週間位の間に駆け廻つて見物する丈では充分でない。本日種々と調査してゐる中に、ベンゼンの價が一ガロンに付五十錢（三十三士丹）である事を知り驚いた。因に盤谷では一チカルと云ふ高價である。之れによつて日本人がアメリカ製の高速度の自動車を何萬も使用し得る事が解つた。自分は現在まで英國製のオースチン及ダイムラー二臺、佛國製のシトロアント一臺を見受けたに過ぎない。

料金に就て云へば東京市並に他の都市に於てもタキシメーターを用ひ、最初の一哩に五十錢乃至三十錢爾後半哩毎に十錢の割増である。

乗合自動車も多く利用され無數に來往してゐる。其の賃金は頗る低廉で汽車や電車と競争の状態である。

一行が京都市中見物の時、ミス逞羅は姿を現はさなかつた。これは彼女が各方面から種々の會合に出るのは飽々した。早く汽船に乗つて歸る時が來たら「息つける」と自分に語つた。彼女は大變な人氣を呼び殊に婦人社交會に一層盛んであつた。一行が京都へ赴く途中で、丁度約二百名の女學生が同車して居つて、ミス逞羅と知るや彼女を女學生達の車へ拉し去り、其の

美しさに嘆稱の聲を浴びせ爲めに彼女は名刺と云ひ、署名に用ひるインキと云ひ悉く女學生に捧げてしまつた。自分は多數の日本人にミス遷羅を何う思ふかと尋ねたら、其の肌の麗はしさ、其の笑顔の美しさを大いに稱揚してゐる事であつた。

彼女は日本語を少しく覚えたので、日本語で返事をすると、非常に喝采を博した。

吾々一行の中に彼女のある事を非常なる誇とし、且又一同の愛情を悉にした。殊に彼女が純情で愛想のよいいため一層一同の人氣を呼んだ次第である。

本日午後二時、汽車で二時間を距てた神戸へ出發。

神戸には船内に二日間滞留、門司（日本最後の寄港地）へ向け金曜日（七日）に出帆の筈。

最初神戸へ上陸した際は滞在僅か一日で、種々の會合に出席せねばならない多忙さに引き換へ、今度は歸途に當り何んでも好きな事が出来る自由時間を持つ事が出来るので、當市獨特な數々の面白いものを見度いものである。即ち畏多くも天皇陛下には遷羅國鐵道技監ビヤ・スリスチカン・バンチヨン氏の日遷國交親善增進に關する功を嘉みせられ勳二等を授與遊ばされる由に拜承す。

又名古屋の博覽會場の遷羅館は名古屋の遷羅名譽領事が一萬圓を投じて建設し、出品は遷羅國政府の提供したものであるとの事である。

午後我々一行は再び大阪を過ぎて神戸に向つた。大阪附近に来るや先づ無數に立ちならぶ工場の煙突が車窓を通じて目に入った。恰も電柱の並べる如く、誠に工業都市「日本のマンチエスター」の名に恥じぬものである。これより察しても日本製品の半數は大阪より供給することが知れる。

三時半神戸着、直ちに埠頭に車を飛ばしたが、一行の乗船すべき那智山丸は未だ入港して居らず、暫し時間があるので多數の者は市中見物へ出掛けた。馳て那智山丸の入港とともにキャビンに寛ぐや既に故國にあるの感あり、過ぐる十日間の旅行で諸所で買集めた品々の整理等で忙がしい。多數外出中の爲六時の夕食には殆ど顔を見せる者なく、一行中の或る紳士は名古屋で雨中を博覽會見物に出かけた爲に不幸風邪に冒され臥床中である。

天氣は良く、水星が南の空に輝いてゐた。此處で日本旅行協會の手を離れ、爾後一行は三井物産の方々の暖き御世話に甘える事になつた。實に三井の方々が吾々一同のために盡力され、衷心感謝する次第である。

我々一行が潮戸内海の明媚なる風光を終日鑑賞し得る様に明日午後二時の出帆時刻が午前八時に繰り上げられた。

神戸の見收めの日と云ふので一同買物に忙殺された。私は日本の金一圓を餘したのだが、別に買物はなかつたが或友人の如きは友達から借金までして買物に出かける仕末である。

ケーブルカーで六甲山頂に達した、此處から見下す市内の風光は何物にもたとへ難く誠に絶景で、恰も飛行機の上より見下す様だ。恰度香港の山位の高さで頂上迄ケーブルカーで約八分間を要する。夕刻三井物産支店次長主催のスキ焼の御饗應があつたが大部分の者は他に約束があつて數名出席したに過ぎなかつた。それから再び街へ出掛け歸船した時は大分夜も更けて居た。明日は愈々日本最後の寄港地門司へ向け出帆する豫定。但し汽船の運賃は半額で日本で購入する事で料金を割り引かれて、最も安い人より上級官員が運んで貰つた。

五月七日（金曜日）

神戸出發の時、氣溫は六十一度。日高

盛んな見送りで、神戸、大阪の遙羅領事、三井物産の關係諸氏、其他新しき知友、在留遙羅人等多數埠頭にて別離を惜んで下さつた。

に可愛らしい日本の仔犬があり、二匹はミス逕羅への贈物だ。彼女は依然船中の人氣を一身に集めてゐる。彼處、此處でシャターが切られてゐる。刻々と帆帆の時刻は迫つて来る我々は明日門司に寄港するにも拘らず、何かしら頭眼のあつくなるのを感じた。船はものの一時間も海岸線に沿ふて走る。丘陵に點綴する別荘、海濱を往來する汽車、電車、自動車、恰も繪に似たる情景である。

正午頃になり霧は益々深くなり、氣温も次第に下り五十六度を示して居た。それ故、名高き瀬戸内海の風光を充分に鑑賞し得なかつたのは誠に遺憾であつた。甲板では相當の厚衣をしてゐても仲々冷氣を覺える。船は浪靜かな内海を滑るが如く進んで行つたが此の寒さには一同閉口した。思へば故國を離れて印度支那附近を航行してゐる時は焼くが如き暑熱に降参し、今此の寒さに愚痴を竚べるとは、全く人間は勝手氣儘なものである。

二時頃になると暁つてゐるに肖像が暮し台りて来た。皆は更衣も口も身も手も一切の事に

て行く。此の様な島々にも、躍進日本産業の片鱗が窺はれる。
船は順風に帆を張つた數多の漁船、其他の遊覧船と折々擦れ違つた。某大汽船會社の船渠がその防波堤に内海の島々を利用してゐるのが見える。此の邊一帯は要塞地帶で撮影は嚴禁である。

浪穏かにして船は滑るが如くエンジンの音のみ聞える静寂そのものである。三時頃、突如旅客機が我々の頭上を掠めて西に飛び去つた。これは二時四十分に大阪を出發したのである。

自覺しく且賃金も至つて低廉である。大阪、福岡間三時間の飛行で約四十六圓（三十銖）であり、一方盤谷、蘭賀間三六〇哩、飛行時間精々二時間半で二〇磅である。此の賃金ならば日本では七回飛べる事になるわけである。

扱て再び瀬戸内海の風光に眼を轉じやう。

天候に恵まれず、繪の如き風光を悉にする事を得なかつた事は甚だ残念である。終日太陽を見る事が出来なかつたが、今や船が逆流渦巻く狭い海峡に近づくや、彼方の丘に沈む美しい夕陽を初めて眺める事が出来た。四圍の自然美即ち小高い丘陵の連亘するあり、燈臺あり、漁村あり、誠に生涯忘れ得ぬ思出である。

夜になると寒氣は一層身に沁み、氣温を檢べに室外に出る勇氣も無し。天候は全く不順である。一行は明日早朝門司での買物を樂みに三枚たたみの毛布にくるまつて就寝した。

五經音韻譜

今日盤谷では戴馬のある日なので想ひは遠く彼地にある。
静穏な海の一夜は明けて七時霧深き門司埠頭に安着。氣温五十三度。

三井物産盤谷支店の一老人が一行に挨拶のため来船した。記者も又一行中の數名も彼とは友人であり、久し振で遙羅語を使へるとして大喜びであつた。門司港は國防上重要な港灣であり、市は四方に山をめぐらし盆地をなし對岸の下關迄二哩である。

又門司は日本の西の門口に當り、二、三百ヤード離るる毎に撮影禁止の標札が掲示されてゐる。

一行は下船し三々五々散歩をしてゐる。細雨が降り始めたが、間もなく止んだ。丘陵をドライブしたが誠に快適にして、港の景色は遠乗りの一行を充分に慰めて呉れた。

夕刻町外れに出で、海拔九〇〇米突の山に登り、遙かに渺望たる日本海の横たはるを見た。下關は日本内地の最南端にあり、特急が東京、當地間一一〇キロを直通してゐる。

下關、門司兩市は既に見物せるものと比較にはならないが、相當に繁榮してゐる様に見受けられる。

夕餉の食卓を囲む者少く、偉大なる日本、美しき日本に於ける名残の一夜を惜しむべく、外出してゐる者が多い。

(以下略)

以上で遙羅觀光園の一行は歸途に就き、日本を離れたが、ベストンデー氏のみは残つて別府に赴いた。五月九日の旅行記中に、同氏が別府及び其他日本で受けた好印象に就いて記して居る處があるので、以下は特にその部分のみを譯出したものである。

別府では、此の紀行文に落すことの出来ない愉快な経験をした。自分の時計は狂ひ、硝子は破れ、針は曲つてグラグラしてゐた。それで時計屋に持つて行つて、主人に時計を見せて、直ぐに直して貰へるかを聞いた。主人は可成餘

をとつてをり自分をちつと凝視して、それから了解出来ない事を言つた。時計を調べて後、息子だか弟子だかを呼んで指圖した。若者は帳場の後へ行つた。その時計は高價なクロノグラフ——註、微細な時間を計る時計——だったので毀されやしないかと心配だつた。主人は「どうかお掛け下さい」と云つて、日本語で話し始めた。「私は少しも知らない」と云ふことを合圖した。すると主人は「ヒリッピン」と云つた。だから自分には主人が知りたがつてゐるところが分つた。遙羅から來たと云ふ意味で「Siamu」と云つた。すると主人は急に頭を上げ、席から立ち上つて、明かに遙羅から來たと云ふ事を喜んでゐる様に、自分の手を握つて激しく振つた。主人は娘だか女中だかに御茶を出す様に言ひ付け、吾々は一緒に小さな茶碗でそれを啜つた。主人は始終考へを述べ様としたが自分には領くことと微笑むことより他何も出来なかつた。主人は娘に自分のことを話した、すると娘は無邪氣に笑つた。丁度その時若い者が時計を持つて出て來た。時計の硝子は新しくなり、針は真直になつてゐて、全部ちゃんと直つてゐた。自分は日本語——唯一つ知つてゐる——で御禮を云つて、財布を取り出しが主人はそんなものは要らないと云ふ意味で財布の上に手をのせた。娘に、そして若い者に、御金を拂はうとしたが二人とも頑として應じなかつた。こんな事を豫期してゐなかつたので、どうしていいのか分らなかつた。非常に感謝して、再び握手をして後感慨無量で其處を辭した。娘は戸の外迄見送つてくれた。この様な心遣に對して何と云つていいのだらうか、遙羅に對してどうしてこんな態度を取るのであらうか、主人は話の中で何度も「Siamu」と云つた、こんなにして好奇心が段々募つて來たので、主人に又御禮を云ひに來たと云ふ口實で、ホテルから英語を多少話せる青年を連れて行つた。主人は同盟國として、又諸國との紛争にあつて、唯一の日本に忠實な國であつた遙羅に對して、非常な敬意を表してゐる事が分つた。勿論それは國際聯盟會議の時の事を意味してゐたが、青年は政治のことに就いては何も知らなかつた。別府のやうな小さな町で

も、この小さい、古い挿話は忘れられてはゐない。修繕費を拂はうとしたが又辭退された。そして主人は遙羅からの御客に何か役に立つたといふことは、實に喜ばしいことだと云つた。

日本人は自尊心や正直の前には、金錢などの價値を殆んど認めないと云ふことを示す二つの小さな逸話がある。大阪で出發の日で忙しくしてゐた時に、ホテルの部屋で五圓札を落したが、すつと後になつて買物をする時に気が付いた。別に大して氣にも留めないでゐた所が、晝食の時に部屋の女中が見つけたと云つて御札を持って來て呉れた。女中にその幾分かを遣り度いと思つたが、退辭をされて終つた。もう一つは旅行團の一人が、東京でホテルの女中に十圓渡したがお札がくつついでゐたので、不注意にも二枚渡して終つた。十圓は細かい錢に替へて、他の札はその譯を話してそのまま返された。報酬を出さうとしたが、固く辭退された。これが日本であり、その自重心である。

